

平成 26 年度 事業報告書
【業務実績報告】

平成 27 年 6 月

地 方 独 立 行 政 法 人
神 戸 市 民 病 院 機 構

地方独立行政法人神戸市民病院機構 平成 26 年度事業報告書 目次

地方独立行政法人 神戸市民病院機構の概要 1

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮
 (1) 救急医療 5
 (2) 小児・周産期医療 7
 (3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療 10

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献
 (1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供 14
 (2) 5 疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞，糖尿病及び精神疾患）への対応 18
 (3) チーム医療の実践及び専門性の発揮 24
 (4) 臨床研究及び治験の推進 28

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持
 (1) 医療の質を管理することの徹底（クリニカルパス及び臨床評価指標の充実等） 31
 (2) 医療安全対策及び医療関連感染（院内感染）対策の強化 37
 (3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底 45

4 市民及び患者とともに築くやさしい病院
 (1) 患者のニーズに応じたサービスの提供 46
 (2) 市民及び患者へ開かれた病院（市民への情報発信） 53

5 地域医療連携の推進
 (1) 地域医療機関との更なる連携 55
 (2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化 61

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成
 (1) 優れた専門職の確保 63
 (2) 職員の能力向上等への取組み 67
 (3) 人材育成等における地域貢献 70

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり
 (1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入 72
 (2) 働きやすい環境の整備 73

第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持
 (1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持 77
 (2) 収入の確保 80
 (3) 費用の合理化及び業務の効率化 85

2 質の高い経営ができる病院づくり
 (1) 質の高い経営体制の維持 89
 (2) 計画的な投資の実施 91
 (3) 環境にやさしい病院づくり 93

第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

1 中央市民病院における P F I 事業の円滑な推進 95
2 市関連病院との連携 96
3 神戸医療産業都市における役割 99

第 5 予算（人件費の見積りを含む。），収支計画及び資金計画 101

第 6 短期借入金の限度額 101

第 7 重要な財産を譲渡し又は担保に供する計画 101

第 8 剰余金の使途 101

第 9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項 102

神戸市民病院機構の概要

地方独立行政法人 神戸市民病院機構事業報告書

「地方独立行政法人 神戸市民病院機構の概要」

1 現況

- ①法人名 地方独立行政法人神戸市民病院機構
- ②本部の所在地 神戸市中央区港島南町2丁目1番地の11 市民病院前ビル3階
- ③設立年月日 平成21年4月1日
- ④役員の状況 (平成26年4月1日現在)

役職	氏名	備考(理事の担当等)
理事長	菊池晴彦	
副理事長	山岡義生	(一財)日本バプテスト連盟医療団理事長 (公財)田附興風会医学研究所北野病院理事
理事	北徹	中央市民病院長
理事	石原享介	西市民病院長兼中期計画推進担当理事
理事	原田比呂志	法人本部長
理事	井口實嬉信	PFI・SPC担当理事
理事	新尚一	神栄(株)相談役, 神戸商工会議所副会頭
理事	大森綏子	(公社)兵庫県看護協会前会長
理事	中村肇	(公財)阪神北広域救急医療財団理事長
理事	盛岡茂文	(医財)康生会武田病院副院長
監事	藤原正廣	弁護士(京町法律事務所)
監事	若松尚也	公認会計士(若松会計事務所)

※平成27年3月31日付けで、原田比呂志理事、井口實嬉信理事、大森綏子理事、盛岡茂文理事、若松尚也監事が退任し、平成27年4月1日付けで山本満雄理事(西市民病院長)、山平晃嗣理事(法人本部長)、鈴木志津枝理事(神戸市看護大学長)、橋本信夫理事(国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事長)、岡村修監事(公認会計士・税理士、岡村修公認会計士税理士事務所)が就任した。

- ⑤設置・運営する病院の概要 右表のとおり
- ⑥職員数 2,043名(平成26年4月1日現在)

2 神戸市民病院機構の目標

神戸市立医療センター中央市民病院は市全域の基幹病院として、神戸市立医療センター西市民病院は市街地西部の中核病院として、これまでも医療機能に応じて地域医療機関との連携を図り、患者の立場に立って、市民の生命と健康を守るという役割を果たしてきた。

今日、病院を取り巻く環境が急激に厳しさを増す中であって、市民病院としての医療を市民・患者のニーズに応じて提供するためにも、今まで以上に機動性、柔軟性及び透明性を高め、より効率的な病院運営を行う必要がある。

このため、市民病院の基本理念を継承し、地域医療機関との連携及び役割分担のもとで、引き続き、救急医療や高度・先進医療等の政策的医療も含め質の高い医療を安全に市民に提供するという公的使命を果たすとともに、地方独立行政法人制度の特徴を生かし、最大限の努力による市民・患者へのサービスの向上と効率的な病院運営を行う。

(病院の概要) (平成26年4月1日現在)

項目	中央市民病院	西市民病院
主な役割及び機能	救命救急センター指定病院 総合周産期母子医療センター 第1・2種感染症指定医療機関 災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 臨床研修指定病院 病院機能評価認定施設 卒後臨床研修評価機構認定施設	2次救急対応 がん診療連携拠点病院に準じる病院 地域医療支援病院 高齢者医療の充実 在宅医療の支援 臨床研修指定病院 病院機能評価認定施設
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1	神戸市長田区一番町2丁目4番地
許可病床数	700床(うち感染症10床)	358床
稼働病床数	700床(うち感染症10床)	358床
診療科	循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科、新生児科、皮膚科、外科、移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、臨床病理科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科、総合診療科	消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、臨床病理科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

※西市民病院において、平成27年1月に「神戸市災害対応病院」の指定を受けた。

全体的な状況

1 総括

平成 26 年度においても、引き続き、常任理事会、理事会を定期的に開催し、活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図り、円滑な運営に努めた。

市民病院としての役割の発揮では、地域医療機関との役割分担・連携のもと、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害緊急時の医療を提供した。特に、中央市民病院では、新病院より、拡充、機能強化した救命救急センターを効率的に活用し、より迅速かつ的確な診断及び処置を進めたほか、診療当初からチームによる救急医療を展開し、円滑な運用を図った。西市民病院では、平成 25 年 9 月から全面再開を果たした毎日 24 時間救急医療について着実に提供を継続するとともに、1 月には神戸市災害対応病院の指定を受けた。また、専門性の高い医療の充実として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の 4 疾病への対応及び 5 疾病として加わった精神疾患についても身体合併症への対応を中心に取り組んだ。コンプライアンスの推進に取り組むとともに、医療の質及び安全性の確保として、医療安全対策、院内感染防止及び安全管理を徹底しながら、より一層チーム医療の推進に努め、質の高い医療を提供した。また、クリニカルパス、DPC の活用、電子化を推進し、医療の質の標準化を図った。患者・市民に提供するサービスの向上においては、引き続き、待ち日数・待ち時間対策等に取り組んだ。

人材確保・育成面としては、職員がプロとして活躍し、やりがいを持てるよう資格取得を促進するとともに、充実した研修制度を継続した。また、優れた専門職を確保するため、経験者採用及び育児短時間勤務制度等を継続するとともに、機構固有職員の再雇用制度を新たに構築した。さらに、医師の人事・給与制度を再構築するため、医師人事・給与制度再構築委員会において、制度構築に向けた検討を行った。

経営に対する取り組みとしては、優れた専門職の確保による診療体制の充実、DPC を活用した効率的な病床運用及び手術室や医療機器の効率的な運用等に取り組んだ結果、診療単価の増加や平均在院日数の短縮等に表れ、医業収益の増加により、経常収支比率及び単年度資金収支は、ほぼ目標値どおりの実績となった。

中央市民病院の運用については、平成 23 年 7 月の移転・開院以降、PFI 業務に関するモニタリングを定期的に実施し、業務確認や改善によって円滑な運営を図った。また、神戸医療産業都市における役割として、中央市民病院では、先端医療センターや周辺医療機関との連携会議を開催するとともに、高度医療機器の共同利用や共同研究を実施した。

2 各病院及び法人本部の取り組み状況

(1) 中央市民病院

全市の基幹病院・救命救急センターとして 24 時間体制の救急医療を継続するとともに、機能強化した救命救急センターを効率的に運用し、より迅速かつ的確な診断及び処置を進めたほか、診療当初からチームによる救急医療を展開し、円滑な運用を図った。さらに、ECMO（体外式膜型人工肺による治療）プロジェクトに参加し、システム構築を進めた。また、平成 25 年 4 月に認定を受けた総合周産期母子医療センターとして、質の高い安定的な小児・周産期医療を提供した。さらに、災害拠点病院及び感染症指定医療機関としてエボラ出血熱対応マニュアルを作成する等、万全の対応を図った。

市全域の基幹病院として専門外来をはじめ、より高度で専門性を必要とする疾患に対応していくため、

引き続き高度専門医療センターの運営に取り組むとともに、5 月より救急病棟等に専従の理学療法士、作業療法士を配置し、早期のリハビリに取り組んだ。また、5 疾病への対応として、がんセンターにおいて高度ながん治療を提供するとともに、がん相談支援センターでは相談体制を強化した。脳卒中治療や急性心筋梗塞治療、糖尿病治療についても充実した医療の提供を継続し、精神疾患については身体合併症の受入れを中心に取り組んだ。医療の質及び安全の確保としては、全病棟に薬剤師を配置させるとともに、あらゆる部門や職種を超えたチーム医療を提供することによって、より専門性の高い医療の提供を図った。また、電子カルテの活用により、患者診療情報を一元管理することによって、医療の質の標準化及び一層の向上につなげるとともに、システム更新に向けて更新担当主幹を配置した。さらに、職員の研究支援や教育のため、学術支援センターにおいて、質の高い研究ができるような支援を行った。市民・患者に提供するサービスの向上では、引き続き携帯呼出端末や自動精算機の活用によって待ち時間の有効利用や短縮を図るとともに、がん市民フォーラムを 4 回開催し、がんサロンを試行的に開催した。地域医療機関との連携においては、地域医療支援病院として、引き続き地域医療機関との積極的な紹介・逆紹介が行われるよう取り組みを進め、顔の見える連携を図るため、「地域連携懇話会」の開催やオープンカンファレンス等を継続する等、紹介・逆紹介を促進した。

人材育成の面では、教育セミナーを継続して開催するとともに、臨床研修センターを中心に、研修体制の充実を図った。また、職員のモチベーションの維持及び向上につながる方策として、全職員を対象に職員満足度調査を実施し、結果を踏まえ、改善が必要な項目について検討を開始した。

経営に対する取り組みとしては、院長ヒアリングを継続して開催し、各診療科・部門の課題把握や対応策の検討を行うとともに、DPC を踏まえた病床運用や連携の推進等についても協議した。さらに、業務経営改善委員会を毎月開催し、経営改善についての議論を継続した。平成 26 年度実績では、地域医療機関との連携推進や入院前検査センターの活用等による在院日数のさらなる短縮、手術件数の増や外来化学療法による注射料単価の増等による診療単価の増額等によって、単年度資金収支は 13 億 7,500 万円の赤字となり、経常収支比率も目標値 100.2% に対して実績値 100.1% となり、ほぼ目標どおりとなった。

中央市民病院の運用については、平成 23 年 7 月の移転・開院以降、PFI 業務に関するモニタリングを定期的に実施し、業務確認や改善によって、円滑な運営を図った。また、神戸医療産業都市における役割として、中央市民病院では、先端医療センターや周辺医療機関との連携会議を開催するとともに、高度医療機器の共同利用や共同研究を実施した。

(2) 西市民病院

市街地西部の中核病院として、平成 25 年 9 月から全面再開を果たした毎日 24 時間救急医療について着実に提供を継続した。小児・周産期医療については周産期センターを中心に安定した周産期医療の提供を継続した。また、災害緊急時の医療では 1 月に神戸市災害対応病院の指定を受けた。

専門性の高い医療の提供を充実するため、循環器内科医師 1 名を増員するとともに、6 月より CT を増設した。がん治療に関しては、「がん診療連携拠点病院に準じる病院」として、外来化学療法センターの積極的な運用や「がん看護相談室」を活用した取り組みを行った。医療の質及び安全の確保としては、1 月より入院カルテ、3 月より外来カルテについて、電子カルテの運用を開始し、患者診療情報を一元管理

することによって、医療の質の標準化及び一層の向上につなげた。市民・患者に提供するサービスの向上では、外科の診察室の空き時間を利用して整形外科の診療を引き続き行う等、待ち時間の短縮を図るとともに、外来看護担当マネージャーやフロアマネージャーを継続配置し、総合案内機能の体制を維持した。地域医療機関との連携では、地域医療機関への診療科部長等の訪問を継続するとともにオープンカンファレンスを引き続き開催し、紹介・逆紹介を促進した。また、平成 25 年 4 月に設置した在宅支援室において、引き続き技術支援を行った。

人材育成の面では、組織化した研修室を活用し、初期・後期研修医への教育・研修の充実を図るとともに、平成 24 年度より独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業に参画し、ベトナム社会主義共和国のダナン産婦人科・小児科病院の人材育成のため、看護師等を派遣し、また、研修員を受入れ、教育支援を引き続き行った。また、職員のモチベーションの維持及び向上につながる方策として、全職員を対象に職員満足度調査を実施し、今後、満足度が低い項目について、改善に努めていく。

経営に対する取り組みでは、院長ヒアリングを各診療科・部門に対して継続し、問題点の抽出や今後の方針決定を行い、診療科ごとの経営改善意識の向上を図った。また、業務経営改善委員会を開催し、増収及びコスト削減対策について検討するとともに、病院の質を向上させるための取り組みも積極的に議論した。平成 26 年度実績では、平成 25 年度途中より算定を開始した地域医療支援病院入院診療加算等の加算を通年で算定できたこと、外来化学療法に伴う注射料単価の増等による診療単価の増額により、単年度資金収支は 8,000 万円の黒字となり、また、経常収支比率も目標値 100.0%に対して実績値 100.3%となり、目標値を上回った。

（3） 法人本部

人材確保・育成面としては、職員がプロとして活躍し、やりがいを持てるよう、国際貢献活動や大学・大学院等で履修を行う自己啓発等休業制度を新設する等、資格取得を促進した。新規採用職員研修の継続、採用後 3 年目の法人採用職員研修の開催及び全職場におけるコンプライアンス研修の実施、医事課職員研修に加えてMSWの研修会を実施する等、研修制度の充実・拡大を図った。優れた専門職を確保するため、経験者採用及び育児短時間勤務制度等を継続するとともに、潜在看護師の復職支援のための研修会開催や、機構固有職員の再雇用制度を新たに構築した。また、医師を対象とした研究休職制度や、医師・医療技術職員を対象とした短期国内外派遣制度を継続して実施し、法人固有職員の係長昇任選考を行うとともに、職員の努力と職責に応じた給与体系を構築するため、独立行政法人国立病院機構の給料表に準拠した法人給料表を利用し、職員の努力と職責に応じた運用を継続した。さらに、医師の人事・給与制度を再構築するため、医師人事・給与制度再構築委員会において、制度構築の検討を行った。また、職員の勤労意欲の向上を目的とする優秀職員表彰を継続実施した。

経営に対する取り組みとしては、定期的で開催した常任理事会（14 回）、四半期ごと等で開催した理事会（6 回）において月次決算、四半期決算報告を行うことで、年度計画の予算、収支計画及び資金計画が着実に実行できるような進捗管理を実施するとともに、両病院及び法人本部において、年度計画の達成に向けて進捗状況を確認するため、四半期ごとにマネジメントシートを作成し、事務局ヒアリング及び半年ごとに各病院において院長ヒアリングを実施した。なお、11 月に実施した上半期の達成状況ヒアリングについては、上半期決算、平成 27 年度計画の重点項目及び市関連予算要求（医療機器等購入予算）と併せ

て理事長ヒアリングを実施し、検証体制の充実を図った。また、費用の合理化では、共通で購入している診療材料について値下げ交渉を行い、医薬品については、民間のベンチマークの活用等による価格交渉を実施し費用の削減につなげた。さらに、在庫整理を行い、適正な維持管理を行った。また、中央・西両病院のより強固かつ円滑な連携に向け連携会議を 6 回開催した。

3 大項目ごとの概要

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取り組み

市民・患者に提供する医療の質の向上としては、地域医療機関との役割分担のもと、引き続き市民病院としての役割を果たすため、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害緊急時の医療を提供した。

中央市民病院では、機能強化した救命救急センターを効率的に運用し、より迅速かつ的確な診断及び処置を進めたほか、診療当初からチームによる救急医療を展開し、円滑な運用を図った。西市民病院では、平成 25 年 9 月から全面再開を果たした毎日 24 時間救急医療について着実に提供を継続した。

小児・周産期医療の取り組みでは、中央市民病院については平成 25 年 4 月に認定を受けた総合周産期母子医療センターとして、成育医療センター等を活用し、産科、新生児科、小児科が一体となって、医療・保健を一貫した体制で質の高い安定的な医療を提供した。また、西市民病院については、正常分娩を中心として、リスクの高い分娩にも可能な限り対応する等、両病院において地域の医療機関と連携して、安定的な小児・周産期医療を提供した。感染症医療については、両病院において、感染管理専従看護師を引き続き配置し、感染防止の積極的な取り組みを行うとともに、中央市民病院ではエボラ出血熱対応マニュアルを作成する等、新興感染症対策等について速やかな対応を行った。災害その他の緊急時における取り組みとしては、緊急事態に対処できるよう両病院において災害訓練等を継続した。

専門性の高い医療の提供を充実するため、中央市民病院においては、引き続き高度専門医療センターの運営に取り組むとともに、5 月より救急病棟等に専従の理学療法士、作業療法士を配置した。また、5 疾病への対応として、がんセンターにおいて高度ながん治療と緩和医療を提供するとともに脳卒中治療や急性心筋梗塞治療、糖尿病治療についても充実した医療の提供を継続し、精神疾患については身体合併症の受入れを中心に取り組んだ。西市民病院においては、循環器内科医師 1 名を増員するとともに、6 月よりCTを増設した。また、「がん診療連携拠点病院に準じる病院」として、がん治療を充実させると同時に、糖尿病治療、精神疾患については身体合併症の受入れを中心に取り組んだ。

医療の質及び安全性の確保としては、コンプライアンスの推進、医療安全対策、院内感染防止を徹底し、両病院で全病棟に薬剤師を配置し、チーム医療の一層の推進と質の高い医療を提供した。また、クリニカルパス、DPC等を活用し、医療の質の標準化を図った。さらに、西市民病院においては、電子カルテの運用を開始した。

市民・患者に提供するサービスの向上として、患者満足度調査や意見箱によるニーズ把握のもと、中央市民病院では、引き続き携帯呼出端末や自動精算機の活用によって待ち時間の有効利用や短縮を図るとともに、がん市民フォーラムを 4 回開催し、がんサロンを試行的に開催した。西市民病院においては、外科の診察室の空き時間を利用して整形外科の診療を引き続き行う等、待ち時間の短縮を図るとともに、外来看護担当マネージャーやフロアマネージャーを継続配置し、総合案内機能の体制を維持した。地域医療機関との連携としては、中央市民病院については、地域医療支援病院として、引き続き、地域医療機関との

間の積極的な紹介、逆紹介に努めるとともに、「地域連携懇話会」の開催やオープンカンファレンス等を継続した。西市民病院については、地域医療機関への診療科部長等の訪問を継続するとともにオープンカンファレンスを引き続き開催し、紹介・逆紹介を促進した。また、平成 25 年 4 月に設置した在宅支援室において、引き続き技術支援を行った。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取り組み

人材育成としては、職員がプロとして活躍し、やりがいを持てるよう国際貢献活動や大学・大学院等で履修を行う自己啓発等休業制度を新設する等、資格取得を促進した。また、新規採用職員研修の継続、採用後 3 年目の法人採用職員研修の開催及び全職場におけるコンプライアンス研修の実施、医事課職員研修に加えてMSWの研修会を実施する等、研修制度の充実・拡大を図った。優れた専門職を確保するため、採用説明会への積極的な参加、経験者採用及び育児短時間勤務制度等を継続するとともに、潜在看護師の復職支援のための研修を開催し、機構固有職員の再雇用制度を新たに構築した。また、医師を対象とした研究休職制度や、医師・医療技術職員を対象とした短期国内外派遣制度を継続して実施し、法人固有職員の係長昇任選考を行うとともに、職員の努力と職責に応じた給与体系を構築するため、独立行政法人国立病院機構の給料表に準拠した法人給料表を利用し、職員の努力と職責に応じた運用を継続した。さらに、医師の人事・給与制度を再構築するため、医師人事・給与制度再構築委員会において、制度構築の検討を行った。また、職員のモチベーションの向上を目的とする優秀職員表彰を継続実施した。このほかにも教育病院として指導力の向上のための研修体制の充実や看護学生等の積極的な受入れを行い、特に、西市民病院では、平成 24 年度より独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業に参画し、ベトナム社会主義共和国のダナン産婦人科・小児科病院の人材育成のため、看護師等を派遣し、また、研修員を受入れ、教育支援を引き続き行った。

第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するための取り組み

経営に対する取り組みとしては、常任理事会を毎月開催、四半期ごと等に理事会を開催し、月次決算報告内容の改善を図りながら、さらなる活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図った。また、年度計画の達成に向け、院長による全部門ヒアリングを引き続き実施し、組織目標や課題認識の共有、課題解決への取り組みを通して、PDCAサイクルの確立や全職員の経営意識の向上を図った。なお、11 月には上半期の達成状況とともに上半期決算、平成 27 年度計画の重点項目及び市関連予算要求（医療機器等購入予算）と併せて理事長ヒアリングを実施し、検証体制の充実を図った。

具体的な両病院の状況では、中央市民病院においては、新たな診療報酬加算の取得、地域医療連携のさらなる推進に努めたことや入院前検査センターの活用等によって平均在院日数が平成 25 年度を下回る 11.2 日に短縮されたこと、高額手術件数の増等により、入院収益が上昇した。また、外来についても外来手術の件数の増加及び外来化学療法による注射料単価の増等により増収となった。西市民病院においては、新たな診療報酬加算を通年で取得したことや外来化学療法による注射料単価の増等によって医業収益を確保した。費用の合理化の面では、共通で購入している診療材料について値下げ交渉を行い、医薬品については、民間のベンチマークの活用等による価格交渉を実施し費用の削減につなげた。さらに、在庫整理を行い、適正な維持管理を行った。

平成 26 年度決算では、診療報酬改定や消費税の改正等、病院を取り巻く環境が急激に厳しさを増す中、上記のような取り組みを継続した結果、年度計画における単年度資金収支については、中央市民病院で 13 億 7,500 万円の黒字、西市民病院で 8,000 万円の黒字となり、経常収支比率も中央市民病院については、目標値 100.2%に対して 100.1%、西市民病院においては、目標値 100.0%に対して 100.3%となり、ほぼ目標値どおりの実績となった。他方、市からの運営費負担金について交付を受け、これまで同様に政策的医療を行い、市民病院としての役割を果たした。

目標値

	項目	平成 26 年度 目標値	平成 25 年度 実績値	平成 26 年度 実績値	目標差
中央 市民 病院	単年度資金収支 (百万円)	1,355	2,290	1,375	20
	経常収支比率(%)	100.2	102.5	100.1	△0.1
西 市民 病院	単年度資金収支 (百万円)	68	522	80	12
	経常収支比率(%)	100.0	104.3	100.3	0.3

第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するための取り組み

中央市民病院の運用については、平成 23 年 7 月の移転・開院以降、PFI 業務に関するモニタリングを定期的実施し、業務確認や改善によって、円滑な運営を図った。また、協力法人のインセンティブの導入について検討を行うとともに、経営支援業務の中期的活動方針について協議し、業務内容やスケジュールについて検討した。

【モニタリングの方法】

- ・個別業務連絡会（毎週 1 回）
- ・PFI 業務連絡会（毎月 2 回）
- ・モニタリング会議（毎月 1 回）
- ・PPP 会議（毎月 1 回）

市関連病院（西神戸医療センター、神戸リハビリテーション病院、先端医療センター）とは医療機能に応じて積極的に患者の紹介・逆紹介を行うとともに、各部門での連携会議や研修を実施した。

神戸医療産業都市における役割としては、先端医療センターと連携し、引き続き、連携会議や共同研究を行った。先端医療センターとの連携会議においては、高度医療機器の共同利用状況や放射線治療の連携体制等について協議を実施した。また、中央市民病院の周辺に開院した医療機関と定期的に連携会議を開催するとともに、設置が計画されている医療機関との連携について開院前より意見交換及び協議を行った。

項目別の状況

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(1) 救急医療

中期目標

本市の救急医療システムの下、初期救急医療から3次救急医療まで、市民病院の役割に応じて「断らない救急」に努めること。中央市民病院は、救命救急センターとして、重症患者及び重篤患者への対応を乗り確保すること。西市民病院は、年間を通じて24時間体制で救急医療の提供に努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関と密接に連携しながら、引き続き安定した救急医療体制を提供し、「断らない救急」を実践する。（中央市民病院） 救命救急センターとして、地域医療機関との役割分担を明確にした上で密接に連携し、より重症及び重篤な患者に対して年間を通じて24時間救急医療を提供し、市民の生命と健康を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関と密接に連携しながら、引き続き安定した救急医療体制を提供し、「断らない救急」を実践する。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関との適切な役割分担の下、救命救急センターとして24時間365日、あらゆる救急需要に対応することにより、引き続き市民病院としての役割を果たしていく。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○救命救急センターを効率的に運用し、より迅速かつ的確な診断及び処置を進めるほか、診療当初からチームによる救急医療を展開するとともに、病床管理の徹底を図り、病院全体で救急患者の受け入れ体制の整備・維持を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の安心・安全を守るため、地域医療機関と密接に連携しながら、両病院においてそれぞれの役割に応じて「断らない救急」の実践に取り組んだ。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救命救急センターとして365日24時間体制の救急医療を提供し、救急外来患者数33,324人（前年度比285人減、0.8%減）、うち入院患者数6,589人（前年度比95人減、1.4%減）、救急車搬送受入数9,090人（前年度比141人減、1.5%減）の受入れを行い、応需率は98.1%であった。また、救命率向上の一層の強化を図るため、平成11年7月から運用を開始したドクターカーについて、201回（前年度比13回増、6.9%増）出動し、ヘリコプターによる救急搬送患者については58件（前年度比30件増、107.1%増）受入れた。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○救急患者のスムーズな搬送及び受入れを行うために平成25年8月に運用を変更した脳卒中、胸痛ホットラインに引き続き、6月からは母体搬送や産褥搬送の受入れ体制を充実させるために産科ホットラインの運用を開始し、さらに10月からは小児科ホットラインの運用も開始した。 ○救急救命士の資格を持ったクラークや専門看護師（急性・重症患者看護）の配置、総合診療科と救急科との連携により救急医療も含め個々の患者に最も適した医療を提供する体制を引き続き強化した。また、より一層の病床管理、退院促進等に努め断らない救急を実践するための病床の確保に努めた。 ○ECMO（体外式膜型人工肺による治療）プロジェクト（日本呼吸療法医学会と日本集中治療医学会が主導となり平成24年に発足）に参加し、医師・看護師・臨床工学技士からなるECMOチームを結成しシステム構築を進めており、平成26年12月には急性呼吸不全に対する 	2	4		<p>【評価のポイント】</p> <p>主に下記のポイントから、年度計画を上回って実施したと判断した。</p> <p>中央市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産科、小児科ホットラインを開設したこと。 ・ECMOプロジェクト参加し、他職種によるECMOチームを結成して、急性呼吸不全症例の救命ができたこと。 <p>西市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日24時間救急医療を着実に継続実施したこと。

(西市民病院)

- ・年間を通じて 24 時間体制で救急医療を提供し、地域住民の安心及び安全を守る。

【西市民病院】

- ・平成 25 年度に全面再開した内科系・外科系での 24 時間救急医療体制を年間通じて着実に継続し、市民病院としての役割を果たす。

具体的な取り組み

- 受け入れられなかった救急車搬送患者について、その理由を把握し、毎月の救急委員会で分析を行う

関連指標 (単位：人, 平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
救急外来患者数	31,880	15,314
うち入院	6,318	2,573
うち救急車受入	7,953	2,759

関連指標 (単位：人, 平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
救急外来患者数	31,880	15,314
うち入院	6,318	2,573
うち救急車受入	7,953	2,759

ECMOによる管理を初めて行い、生命生存を得た。また、勉強会を週 1 回開催し、外部講師を招いたECMOオープンカンファレンスを年 2 回実施するとともにドクターカーを重症患者搬送にも対応可能な構造とし、重症患者搬送のシミュレーションを行い受入れ体制を整備した。

【西市民病院】

- ・平成 25 年 9 月から全面再開を果たした毎日 24 時間救急医療について、着実に提供を継続し、救急外来患者数 15,162 人 (前年度比 447 人減, 2.9%減), うち入院患者数 2,829 人 (前年度比 34 人減, 1.2%減), 救急車搬送受入数 2,903 人 (前年度比 57 人増, 2.0%増) の受入れを行った。全科対応等ではない中で、応需率は 63.1%であった。
- ・ファーストコール担当医に加えて、セカンドコールを総合内科が対応する体制の継続実施、土日祝休日を含む昼間の救急外来への救急病棟看護師の配置を継続することにより救急患者受入れの円滑化を図った。また、平成 24 年度に作成した夜間休日救急診療における救急患者トリアージ実施基準を活用し、専任の担当者による救急受診者のトリアージを継続した。さらに、初期研修医の外科系初療体制充実のため、外科系救急患者の対応指針の作成等を開始した。

具体的な取り組み

- 受け入れられなかった救急車搬送患者について、平成 25 年度から開始したその理由についての統計取得を継続し、毎月、救急委員会で状況の把握・分析を行った。また、各診療科部長が出席する業務経営会議でも報告し、「断らない救急」の方針徹底を図った。

関連指標 (単位：人)

	項目	平成 25 年度 実績	平成 26 年度 実績	前年度比 (%)
中央市民病院	救急外来患者数	33,609	33,324	99.2
	うち入院	6,684	6,589	98.6
	うち救急車受入	9,231	9,090	98.5
西市民病院	救急外来患者数	15,609	15,162	97.1
	うち入院	2,863	2,829	98.8
	うち救急車受入	2,846	2,903	102.0

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(2) 小児・周産期医療

中期目標	地域医療機関との連携及び役割分担に基づき小児・周産期医療を担うとともに、安心して子供を産み、かつ、育てられるよう医療の提供を確保する
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関との連携及び役割分担を図り、市域における小児・周産期医療を安定的に提供する。また、市民が安心して子供を産み、かつ、育てられるように、質の高い医療を提供する。 (中央市民病院) 総合周産期母子医療センターとして、県立こども病院との連携及び役割分担の下、ハイリスクな出産への対応をはじめ、小児・周産期医療を安定的に提供する。 小児・周産期医療に加え、産科、新生児科、小児科が一貫した医療を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が安心して子供を産み、かつ、育てられるように、質の高い小児・周産期医療を安定的に提供する。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合周産期母子医療センターとして、医師確保及び養成に努め、ハイリスクな出産にも対応できる受入体制の確立を図る。 成育医療センターにおいて、小児・周産期医療に加え、産科、新生児科、小児科が一体となり、次世代を担う子ども達が健やかな成長発達を遂げるように支援する。 <p>具体的な取り組み</p> <p>○総合周産期母子医療センターとして、合併症妊娠、重症妊娠中毒症、切迫早産、胎児異常等母体又は児におけるリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの医療技術の向上に取り組むとともに、市内の医療機関等との連携を図ることによって、安定的な小児・周産期医療の提供を行った。 小児科患者数については、中央市民病院の延入院患者数は10,801人（前年度比1,124人減、9.4%減）、延外来患者数は14,504人（前年度比65人増、0.5%増）となり、西市民病院では、延入院患者数は4,266人（前年度比226人増、5.6%増）、延外来患者数は10,318人（前年度比365人減、3.4%減）となった。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合周産期母子医療センター（平成25年4月指定）は、産科（MF-ICU6床、病床扱いをしない健康新生児を含む）32床と、NICU9床、GCU12床で構成し運営した。 成育医療センターでは、周産期外来、周産期医療センター（産科、新生児科）、小児外来、小児センター機能を持ち、産科・新生児科・小児科が一体となり、医療・保健を一貫した体制で提供した。また、小児科入院退院カンファレンスと、産科と共同の周産期事例検討会を週1回開催するとともに、夜間や休日は必ず小児科医が当直待機し、小児救急患者の対応処置にあたった。 妊産婦がリラックスした環境の中で安全で快適なマタニティライフを送ることができるよう、助産所の親密さと病院における医療の提供を兼ね備えた「助産師外来」を週3日（月・水・金）継続して実施し、平成26年度は299人（前年度比109人増、57.4%増）と大幅に増加した。 <p>具体的な取り組み</p> <p>○ハイリスク出産への対応 総合周産期母子医療センターとして、分娩について母体に膠原病、血液病、心臓病、腎臓病等の種々の病気がある場合は、各診療科と協力して</p>	2	3		<p>【評価のポイント】 各項目において、年度計画を順調に実施した。</p>

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地西部の中核病院の周産期施設としての役割を果たすため、正常分娩を中心に安定した周産期医療を提供するとともに、小児救急においては神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供する。 	<p>スクの高い妊娠への対応を積極的に行う</p> <p>○セミオープンシステム構築のための登録医制度を活用し、定期的な情報交換と患者情報の共有化等について検討する</p> <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地西部の中核病院の周産期施設としての役割を果たすため、正常分娩を中心に安定した周産期医療を提供するとともに、若年層等リスクの高い分娩に対しても、可能な限り対応する。 引き続き、小児救急輪番に参加し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療の安定的な提供に努める。 	<p>対応した。また、胎児に異常がある場合は、胎児超音波検査、胎児血流波形分析、胎児治療等、最新の医療技術を用いて救命に努めた。分娩件数は792件(前年度比10件増, 1.3%増)で、うち帝王切開314件(前年度比25件増, 8.7%増)、ハイリスク分娩132件(前年度比10件減, 7.0%減)であった。</p> <p>○中央市民病院では、連携登録施設(平成27年3月末現在:産科・産婦人科は41施設)について、患者紹介や緊急搬送の受入れ、逆紹介等を積極的に行うとともに、情報交換及び患者情報の共有化を図った。</p> <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定した周産期医療の提供 平成23年4月に組織化した周産期センターを中心として、引き続き、周産期医療を安定的に提供し、ハイリスク分娩にも対応した。分娩件数は616件(前年度比27件増, 4.6%増)で、うち帝王切開146件(前年度比14件増, 10.6%増)、ハイリスク分娩62件(前年度比6件減, 8.8%減)であった。 助産師外来 平成19年10月に設置した助産師外来については、平成26年度も継続して週2日(火・木)実施した。また、産婦人科部長がカンファレンス等で周知を図り、621人(前年度比59人減, 8.7%減)の利用があった。 小児救急輪番については、平成25年度に月4回から月6回に増加させた二次救急輪番の担当を継続した。 小児科病棟において、感染症患者の対応を円滑にするため、平成25年度からプレイルームを個室病室化した。また、小児科外来を平成24年度に2診から3診に改築し、発達外来、アレルギー外来、頭痛外来を継続するとともに、県立こども病院より医師を招聘し、小児循環器の専門外来を継続した(月2回)。さらに、小児科外来での救急患者のモニタリングのため、生体情報モニターを平成25年度に導入した。 神戸市保健所の要請により、平成25年6月より行っている近隣区役所の乳幼児健診への出務を継続した。 				
--	---	--	--	--	--	--

関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標						
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院	項目	平成 25 年度 実績	平成 26 年度 実績	前年度比 (%)			
小児科患者数(人)	入院延 11,663 外来延 13,530	入院延 3,838 外来延 11,124	小児科患者数(人)	入院延 11,663 外来延 13,530	入院延 3,838 外来延 11,124	中央市民病院	小児科患者数 入院延 (人)	11,925	10,801	90.6		
小児科救急患者数(人)	2,655 うち入院 574	414 うち入院 132	小児科救急患者数(人)	2,655 うち入院 574	414 うち入院 132	市民病院	外来延 (人)	14,439	14,504	100.5		
N I C U 患者数(人)	3,269 N I C U 未設置	N I C U 未設置	N I C U 患者数(人)	3,269 N I C U 未設置	N I C U 未設置		小児科救急患者数 (人)	2,992	2,907	97.2		
分娩件数(人)	827 うち帝王切開 318	539 うち帝王切開 118	分娩件数(人)	827 うち帝王切開 318	539 うち帝王切開 118		うち入院 (人)	712	762	107.0		
ハイリスク妊娠件数(件)	116	46	ハイリスク妊娠件数(件)	116	46		N I C U 患者数 (人)	2,921	2,667	91.3		
ハイリスク分娩件数(件)	171	87	ハイリスク分娩件数(件)	171	87		分娩件数 (件)	782	792	101.3		
助産師外来患者数(人)	251	657	助産師外来患者数(人)	251	657		うち帝王切開 (件)	289	314	108.7		
							ハイリスク妊娠件数(件)	91	91	100.0		
							ハイリスク分娩件数(件)	142	132	93.0		
							助産師外来患者数(人)	190	299	157.4		
							西市民病院	小児科患者数 入院延 (人)	4,040	4,266	105.6	
						市民病院	外来延 (人)	10,683	10,318	96.6		
							小児科救急患者数 (人)	438	453	103.4		
							うち入院 (人)	252	242	96.0		
							N I C U 患者数 (人)	-	-	-		
							分娩件数 (件)	589	616	104.6		
							うち帝王切開 (件)	132	146	110.6		
							ハイリスク妊娠件数(件)	48	26	54.2		
							ハイリスク分娩件数(件)	68	62	91.2		
							助産師外来患者数(人)	680	621	91.3		

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療

中期目標	阪神・淡路大震災及び新型インフルエンザの経験や東日本大震災で得た教訓を生かし、災害時における病院機能を維持し、及び緊急時に対応し得る医療のリーダーとして迅速かつ適切な初動対応に備えるための体制づくりや訓練を行うこと。 また、災害時や新興感染症発生時などの緊急時には、神戸市地域防災計画、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）等に基づき、市長の求めに応じて対応するとともに、自らの判断でも医療救護活動を行うこと。 特に中央市民病院は、感染症指定医療機関等としての役割を果たすこと。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害や新興感染症発生時等には、災害拠点病院及び感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。 <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし、大規模地震をはじめとした様々な災害に万全の対応を図る。また、新興感染症発生時においては、新型インフルエンザ患者の受け入れ経験を生かし、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら速やかに患者を受け入れられる体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害や新興感染症発生時等には、災害拠点病院及び感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし、大規模地震をはじめとした様々な災害に万全の対応を図る。また、新興感染症発生時においては、新型インフルエンザ患者の受け入れ経験を生かし、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら速やかに患者を受け入れられる体制を整備する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○非常時にも継続して医療を提供できるように、対応マニュアルを整備するとともに、様々な状況を想定した訓練をPFI事業者とも連携して実施する。また、研修会や講演会についても継続的に実施する ○災害医療に関する最新、最善の医療を提供するため、国・県の補助 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害や新興感染症発生時には、災害拠点病院及び感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市・県及び地域医療機関とも連携を図れる体制を継続した。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院として、災害その他の緊急時に役割に応じた機能が発揮できるように、災害訓練等を実施するとともに、新興感染症発生の際には、いつでも市・県及び地域の医療機関とも連携を図れる体制を継続した。また、非常時は感染管理室を中心に迅速に対応する。 神戸検疫所主催の「神戸港における新型インフルエンザ水際対策実施要領」改正にむけた取り組みの一環として、ワーキンググループを3回開催するとともに、新型インフルエンザ疑い患者の搬送訓練（11月）及び緊急招集訓練（12月）を実施した。さらに、12月の神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会において、中央市民病院医師が「エボラ出血熱」に関する講義を行った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央市民病院においては、非常時に対応できるように、総合防災訓練、夜間病棟火災出火による避難訓練、消火器・消火栓取扱い訓練等災害訓練を継続的に実施し、職員の意識を高めた。12月には全職種が参加して移転後初めてとなる全病院をあげての避難訓練を実施するとともに、情報収集訓練及び伝達訓練等を実施した（平成26年度実績：災害訓練回数35回）。また、医師・看護師を対象とした蘇生トレーニングコース（ICLS：合計6回実施、計18人参加）と事務職員、コメディカル等を対象とした市民救命士（BLS：合計6回実施、計54人参加）コース 	2	3		<p>【評価のポイント】</p> 年度計画を順調に実施した。 その他評価できるポイントは下記の通り。 中央市民病院 <ul style="list-style-type: none"> 中東呼吸器症候群（MERS）、エボラ出血熱、デング熱等、様々な新興感染症に対し、受入れ体制を整備したこと。 西市民病院 <ul style="list-style-type: none"> 災害対応マニュアル改訂の検討や災害対策チームの立ち上げ等、災害対策に取り組み、神戸市災害対応病院の指定を受けたこと。

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害や新興感染症発生時等には、中央市民病院や市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、市民の安全を確保する。 	<p>金を活用しながら必要な装備, 医療機器等の整備を図るとともに、災害派遣医療チーム (DMAT) 研修に参加し, 資格保有者の確保に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新興感染症発生時に対応できるよう, 市等が行う訓練に参加する等関係機関と連携した対応を円滑に行うほか, 連携施設との相互評価を行う等, 市全域における安全確保に向けて率先した対応を行う ○一類の感染症及びSARS, 鳥インフルエンザ, 結核等それ以外の感染症にも対応するほか, ICD (感染制御専任医師) 及び専従看護師が院内ラウンドや院長回診に同行する。また, 職員の意識向上を目的とした研修会や講演会を継続的に開催する <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害や新興感染症発生時等には、中央市民病院や市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、市民の安全を確保する。 	<p>の講習会を継続的に開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害派遣医療チーム (DMAT) 欠員が生じていたDMAT登録者について, 6月に1名が看護師養成研修を受講し, 補充を図った。引き続き, 欠員補充のため研修受講の登録を行い, 資格保有者の確保に取り組んだ。 ○5月に厚生労働省より, 「中東呼吸器症候群 (MERS) に関する対応について」の協力依頼があり, 感染防止委員会で説明を実施し, 周知を図った。また, 神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会に出席し, 市内の主な病院, 関係機関と日頃から非常時に備えた連携を構築するとともに, 情報の把握・共有に取り組んだ。 ○一類感染症対応マニュアルを改訂し周知を図るとともに, 空気感染対策としてN95マスク (微粒子用マスク) のフィットテストを実施した (約380名に実施)。また, PPE (個人防護具) の整備, 搬送経路の確認等も実施した。さらに, 11月には検疫所・保健所と合同で搬送と病室入室までの訓練を実施した。 ○西アフリカで流行が続いているエボラ出血熱の中央市民病院での受入れ準備として, エボラ出血熱対応マニュアルを作成し, 感染防止委員会で情報共有を行った (8月)。また, 関連病棟で勉強会を開催 (4日間, 約130名参加) し, エボラ出血熱の概論, 防護具の着脱訓練を実施するとともに, 現場からの質問に対応しながら不安の軽減等にも取り組み, マニュアルを適宜修正した。さらに, 11月に加古川医療センターで開催された国立感染症研究所「一類感染症ワークショップ」に医師等が参加し, 対応について再確認を行った。 ○8月に東京都でデング熱に感染したと考えられる患者が発生したことを受け, 患者発生時の対応について再度確認を行った。また, 外来で疑い症例が発生した場合はデング熱迅速検査キットを用い, 検査部と協力して検査し対応していくことにした。 <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害や新興感染症拡大の際には、中央市民病院を中心に、市・県及び地域医療機関と連携を図れる体制を継続した。 				
--	--	--	--	--	--	--

・新興感染症発生時には、感染症医療の専門医師及び感染対策チームメンバーを中心として、課題へ対応する。

・新興感染症発生時には、中央市民病院の患者の転院を受け入れる等連携を図るとともに、感染対策チームメンバーを中心として、医療課題への対応に取り組む。

具体的な取り組み

○災害時等に備え、危機対応能力を高め、自ら考え行動できるよう防災訓練等を行う

○災害時に、医療機能の混乱を避けるため、医療情報システムのサーバを上層階に設置する等の検討を行う

関連指標（単位：人，平成 24 年度実績）

項目	中央市民病院
感染症患者数（一類）	0
感染症患者数（二類）	109

・西市民病院において、引き続き、感染管理認定看護師を専従配置するとともに、平成 23 年度より設置した感染管理室を中心に、感染防止の積極的な取り組みや、新興感染症対策を図った。
 ・エボラ出血熱については、西市民病院に感染の疑われる患者が来院する可能性に備えて、新たに感染管理マニュアルを作成するとともに、個人防護具の着脱研修を実施する等の対策に取り組んだ。

具体的な取り組み

○神戸市災害対応病院の指定

西市民病院は、神戸市地域災害救急医療マニュアルにおける災害発生時に患者の受入れや避難救護所等への備蓄医薬品等の提供を行う「神戸市災害対応病院」の指定を 1 月に受け、必要な医薬品や衛生資材等の備蓄を行った。併せて、災害対策委員会で災害対応マニュアルの改訂等の準備・検討を行った。また、災害対策の現状を振り返り、災害発生時の対応能力の向上を目指すとともに、組織的な取り組みを進めるため、6 月より災害対策委員会の下に災害対策の検討・実践を行う「災害対策チーム」を立ち上げ、病院全体の災害対策を改善するための検討を進めた。

○災害訓練等の実施

職員が災害その他の緊急時に速やかに対応するため、夜間想定避難訓練（11 月）や多数傷病者来院時対応訓練（2 月）、各所属における災害訓練等を実施した（平成 26 年度実績：災害訓練回数 20 回）。また、災害対策委員会で、取り組みの状況を把握し、職員の参画意識を高めるための検討を進めた。さらに、医師・看護師・救急隊員等を対象とした心肺蘇生法トレーニング（ICLS コース 4 回実施、計 71 名受講。BLS コース 2 回実施、計 53 名受講）と事務系・メディカル職員を対象とした心肺蘇生法研修会（BLS 研修会 1 回実施、14 名受講）を継続的に開催した。

○医療情報システムのサーバの移設

災害時における病院機能の維持のため、現在地下 2 階に設置している医療情報システムのサーバ室の移設を東館増築計画に盛り込んで検討を行った。

関連指標（中央市民病院）（単位：人）

項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度比 (%)
感染症患者数（一類）	0	0	0
感染症患者数（二類）	148	120	81.1

関連指標（平成 24 年度実績）			関連指標（平成 24 年度実績）			関連指標					
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院		項目	平成 25 年 度実績	平成 26 年 度実績	前年度 比 (%)	
災害訓練回	47	13	災害訓練回	47	13		中央	災害訓練回数（回）	35	35	100.0
災害訓練参加者数(人)	1,101	400	災害訓練参加者数(人)	1,101	400		市民	災害訓練参加者数（人）	890	989	111.1
災害研修回数(回)	2	3	災害研修回数(回)	2	3		病院	災害研修回数（回）	2	9	450.0
被災地等への派遣件数(件)	0	0	被災地等への派遣件数(件)	0	0			被災地等への派遣件数（件）	0	0	0
							西	災害訓練回数（回）	9	20	222.2
							市民	災害訓練参加者数（人）	208	442	212.5
							病院	災害研修回数（回）	2	3	150.0
								被災地等への派遣件数（件）	0	0	0

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

中期目標	市民病院が有する医療機能に応じて、より高度な医療及び質の高い総合診療を含む専門的な医療を提供すること。他方、高齢化等に伴い複数の疾患を持つ患者に対して横断的に対応するため、診療科の枠を超えた総合的な診療を行うこと。なお、市民病院としての役割を果たした上で、疾病構造の変化、新たな医療課題、患者の動向などの社会の変化及び市民の多様な要望に柔軟に対応し、診療部門の見直しを行い、及び充実を図るなど、市内の医療需要に応じた医療の提供を行うこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 両病院の医療機能に応じたより高度な医療及び専門的な医療を提供する。また、患者のQOL（生活の質）向上のため、より身体の負担が少ない手術や検査の充実に取り組む。 疾病構造の変化や医療需要と供給のバランスに応じて適宜、機能に応じた医療を提供する。 複数の疾患を持つ患者に対応できるように診療科の枠を超えた医療や質の高い総合的な診療を充実する。 <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市全域の基幹病院として、専門外来をはじめ各専門医療センターの充実等を通じて、より高度で専門性を必要とする疾患に対応する。 医療需要の変化に応じて、他の地域医療機関では提供できない医療に適切に対応する。また、先進医療等に積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 両病院の医療機能に応じ、身体の負担が少ない手術や検査の充実等、より高度な医療及び専門的な医療を提供する。また、複数の疾患を持つ患者に対応できるように診療科の枠を超えた医療や質の高い総合的な診療を充実していく。さらに、疾病構造の変化や医療需要と供給のバランスに応じて適宜、機能に応じた医療を提供する。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市全域の基幹病院として専門外来をはじめ、より高度で専門性を必要とする疾患に対応していくため、内科系医師、外科系医師、コメディカル等がチームを組んで治療に当たる体制を充実し、来院当初から最適な治療を提供するために、引き続き高度専門医療センターの運営に取り組む。 <p>【具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手術支援ロボット（ダヴィンチ）及びTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）の導入により、引き続き手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院では市全域の基幹病院として専門外来をはじめ、より高度で専門性を必要とする疾患に対応するため、西市民病院では専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化するため、それぞれ以下のような取り組みを行った。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関では提供できない高度医療機器による検査や手術を行った。特に、腹腔鏡手術や胸腔鏡手術等、高度かつ患者に負担の少ない手術に積極的に取り組んだ。 <p>《平成26年度実績》</p> <p>手術件数：12,261件、前年度比76件減、0.6%減 CT検査：42,758件、前年度比2,193件増、5.4%増 MRI検査：17,109件、前年度比122件増、0.7%増</p> <p>【具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成25年8月に内視鏡下の画像の3次元化及びズーム機能による視野の拡大、コンピューターによる手振れの補正、鉗子類に関節を持たせることによる自在性等を備えた手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、平成26年1月から使用を開始した（平成26年度実施件数：89件）。また、TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）に係る施設基準について、平成25年11月に近畿厚生局に届出を行い12月に承認され、平成26年2月から実施した（平成26年度実施件数：19件）。 	2	4		<p>【評価のポイント】</p> <p>主に下記のポイントから、年度計画を上回って実施したと判断した。</p> <p>中央市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ダヴィンチ」「TAVI」の本格運用を開始し、手術の安全性向上と患者の負担軽減を実現したこと。 <p>西市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器内科の医師を増員し、診療体制を強化したこと。 ・CTを増設し、検査体制を強化したこと。

<p>(西市民病院)</p> <p>・循環器内科をはじめとした診療科の体制強化、内視鏡検査部門の充実等により、さらなる専門性の高い医療を提供する。</p>	<p>○急性呼吸不全症例に対する体外式膜型人工肺による治療成績の向上を目的とし、体外式循環ECMOシステムを導入する</p> <p>○侵襲性の低い内視鏡下手術を増加させる</p> <p>○総合診療科において、患者ニーズに合わせた総合的な医療及び他の診療科からのコンサルテーション対応等に、引き続き取り組んでいく</p> <p>○腫瘍内科において、各種悪性腫瘍の診断、治療方針の決定及びがん化学療法の施行とともに地域医療機関（紹介元）との連携に取り組んでいく</p> <p>○移植・再生医療センターでは、移植医療を実施し、将来的には技術の進展等を見極めながら、患者の選択肢の拡大に向けて高度で質の高い医療の提供に取り組んでいく</p> <p>○現有している血管造影X線診断装置をより低線量かつ高品質な機種に更新することにより、診断から治療までの時間短縮を図る。また、患者の被ばく線量を低減させることにより、患者の負担軽減を図る</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化する。</p>	<p>○急性呼吸不全症例に対する体外式膜型人工肺による治療成績の向上を目的とした、体外式循環ECMOシステムを導入した（平成26年度実施件数：2件）。</p> <p>○各診療科において患者への負担が少ない内視鏡下手術を行った（平成26年度実績：がん内視鏡下手術件数370件、前年度比152件増、69.7%増）。</p> <p>○総合診療科の設置（平成23年4月） 複数疾患を同時に持っている患者、多臓器に問題がある患者、一般的な内科疾患のある患者等、臓器別の枠を超えて患者のニーズに合わせた総合的な医療を提供するため、平成23年4月に総合診療科を設置した（平成26年度実績：延外来患者数9,321人、延入院患者数9,617人）。また、平成25年4月からリウマチ・膠原病診療の充実にも取り組んだ。</p> <p>○腫瘍内科の設置（平成23年7月） 平成23年7月より外来枠を設け、各診療科と連携して、がん化学療法等を行った（平成26年度実績：延外来患者数7,187人、延入院患者数1,210人）。</p> <p>○移植・再生医療センター 無菌室（3床）、4月より8床から9床に増やした準無菌室を含む45床で構成し、患者の治療の選択肢の拡大と、より質の高い医療の提供を目指し治療に取り組んだ。</p> <p>○血管造影X線診断装置の更新 装置更新に向け仕様書作成委員会を開催し、患者の被ばく線量を低減させ、患者負担が軽減される性能を重視することを確認し、9月に入札を行って業者を選定し、10月より稼働させた。</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化した。</p> <p> 《平成26年度実績》</p> <p> 手術件数：3,117件、前年度比65件減、2.0%減</p>				
---	--	--	--	--	--	--

<p>・高齢者医療や生活習慣病医療等，地域が必要とする医療を強化するとともに，総合内科の充実をはじめとする「やさしさのある医療」を提供することにより，病院の特色づくりを行い，魅力ある病院を目指す。</p>	<p>具体的な取り組み</p> <p>○循環器内科の体制強化を図り，血管内治療等，専門性の高い医療を提供する</p> <p>○検査件数が増加しているCTについて増設を図り，検査をスムーズに実施するとともに，冠動脈も見られる機能の付与により循環器内科分野にも対応する</p> <p>○件数が増加している内視鏡検査を充実させるため，今後の内視鏡センターのあり方を具体的に検討する</p> <p>○病棟薬剤師の配置を継続し，医療安全・患者サービスを向上させるとともに，持参薬の確認を通してかかりつけ医や薬局との連携につなげる</p> <p>○総合内科に初診内科の機能を持たせ，詳細内科への振り分けも含め，患者に適切な医療の提供を行う</p> <p>○こうべ市歯科センターの救急対応及び後送システムを継続すると共に，日帰り全身麻酔手術を積極的に行う</p> <p>○腹腔鏡下手術，胸腔鏡下手術及</p>	<p>CT検査：13,791件，前年度比469件増，3.5%増 MRI検査：4,882件，前年度比78件減，1.6%減</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○循環器内科の体制強化 西市民病院では，4月に循環器内科医師1名の増員を行い，体制を充実させた。また，時間内の救急受入れ及び循環器内科医師の日当直日における時間外救急受入れを円滑に行うとともに，従来午後のみを実施していた，予定の血管造影検査，血管内治療について引き続き一部午前にも対応し，血管造影による治療・検査の増加を図った（平成26年度実績：アンギオ（心臓）件数541件，前年度比87件増，19.2%増）。さらに，経皮的冠動脈形成術後の機能回復を安全かつ効率的に実施するため，心臓リハビリテーション用の機器を新たに導入し，運用を開始した。</p> <p>○CTの増設 増加傾向にあるCT検査に対応し，急性期病院としての機能を果たすため，冠動脈の評価も含め，安定した心臓CTの撮影が行えるよう，6月よりCTを増設して稼動を開始し，検査体制の充実を図った。</p> <p>○内視鏡検査の充実 予定している東館の増築・既存施設の改修を進めていく中で，今後の内視鏡センターのあり方についても，拡張する方向で検討を行い，医療機能の向上に取り組む。</p> <p>○病棟薬剤師の配置継続 平成25年度より開始した全病棟への薬剤師の配置を継続した。薬剤師からのヒヤリ・ハット，インシデント報告が数多く報告されているだけでなく，薬剤師から医師への処方提案も行い，医薬品の適正使用に寄与する等，医療安全・患者サービスの向上に積極的に取り組んだ。今後も，更なる増収や安全性の確保に努め，退院患者への服薬指導を強化し，診療所や薬局との地域連携を図る。</p> <p>○総合内科の体制 総合内科の外来診療について，後期研修医が中心に行い，初診患者の診療体制の確保を図ることにより，初診診療による詳細内科への適切な振り分けを行い，患者の流れを円滑にするよう取り組んだ。</p> <p>○歯科の日帰り全身麻酔手術の実施 歯科の日帰り全身麻酔手術の体制を継続し，こうべ市歯科センターの救急対応・後送システムに対応した。また，毎週火曜日午後に日帰り全身麻酔手術枠を継続し，毎週1から2件の症例を実施した。</p> <p>○侵襲性の低い手術や検査の提供</p>				
--	--	---	--	--	--	--

び内視鏡手術等，侵襲性の低い手術や検査を引き続き積極的に行う

○新たに至急検査項目を増加する等，緊急検査の充実を図る

関連指標（平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
検査人数(CT)(人)	38,509	13,066
検査人数(MRI)(人)	16,397	5,125
検査人数(PET)(人)	2,125	-
検査人数 (心臓血管造影)(人)	1,434	147
検査人数 (脳血管造影)(人)	1,082	-
手術件数(手術室で実施)(件)	11,696	3,528
	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡
	1,340	653
内視鏡による手術件数(件)	1,946	893
全身麻酔実施件数(件)	8,279	2,903
HIV患者数(人)	83	-

関連指標（平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
検査人数(CT)(人)	38,509	13,066
検査人数(MRI)(人)	16,397	5,125
検査人数(PET)(人)	2,125	-
検査人数 (心臓血管造影)(人)	1,434	147
検査人数 (脳血管造影)(人)	1,082	-
手術件数(手術室で実施)(件)	11,696	3,528
	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡
	1,340	653
内視鏡による手術件数(件)	1,946	893
全身麻酔実施件数(件)	8,279	2,903
HIV患者数(人)	83	-

ハイビジョン内視鏡下手術システムについて，平成25年3月に増設を行い，外科のほか，泌尿器科，産婦人科，整形外科，耳鼻科でも利用しやすい体制を整えるとともに，引き続き，腹腔鏡下手術，胸腔鏡下手術及び内視鏡手術等，高度かつ侵襲性の低い手術や検査に積極的に取り組んだ。

○緊急検査の充実

緊急手術対応として，平成25年10月よりHIV等の感染症検査項目を追加したほか，輸血検査のオーダーリングを開始し乳酸測定を追加した。また，24時間救急医療の提供に合わせて，生化学・感染症・血液・尿検査等の緊急機器は2台対応とし，故障やメンテナンス時においても，緊急検査の充実を図った。

関連指標

	項目	平成25年度実績	平成26年度実績	前年度比(%)
中央市民病院	検査人数(CT)(人)	40,565	42,758	105.4
	検査人数(MRI)(人)	16,987	17,109	100.7
	検査人数(PET)(人)	2,162	2,141	99.0
	検査人数(心臓血管造影)(人)	971	1,068	110.0
	検査人数(脳血管造影)(人)	768	706	91.9
	手術件数(手術室で実施)(件)	12,337	12,261	99.4
	うち腹腔鏡・胸腔鏡	1,536	1,546	100.7
	内視鏡による手術件数(件)	2,358	2,326	98.6
	全身麻酔実施件数(件)	8,779	8,897	101.3
	HIV患者数(人)	60	59	98.3
西市民病院	検査人数(CT)(人)	13,322	13,791	103.5
	検査人数(MRI)(人)	4,960	4,882	98.4
	検査人数(PET)(人)	-	-	-
	検査人数(心臓血管造影)(人)	454	541	119.2
	検査人数(脳血管造影)(人)	-	-	-
	手術件数(手術室で実施)(件)	3,182	3,117	98.0
	うち腹腔鏡・胸腔鏡	681	658	96.6
	内視鏡による手術件数(件)	1,041	1,119	107.5
	全身麻酔実施件数(件)	2,103	1,988	94.5
HIV患者数(人)	-	-	-	

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(2) 5 疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞，糖尿病及び精神疾患）への対応

中期目標	5 疾病への対応は，市民の健康の重要課題であり，地域医療機関と役割を分担した上で，市民病院の機能に応じた医療を提供すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> がん，脳卒中，急性心筋梗塞については，地域医療機関との役割分担及び連携を明確にした上で，両病院に求められている使命を果たす。 糖尿病については，教育入院や糖尿病教室を引き続き行うとともに，糖尿病地域連携パスの利用を促進する等，生活習慣病医療を強化する。また，糖尿病合併症については，関係診療科との連携を図りながら取り組む。 精神疾患については，地域の専門病院と連携を図りながら，身体合併症等への対応を中心に取り組む。 <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域がん診療連携拠点病院として，がん診断治療の分野において，高度の標準治療を提供するとともに，化学療法及び放射線治療等のより負担の少ない治療を提供する。 脳卒中をはじめとした脳血管障害や急性心筋梗塞をはじめとした心臓循環器領域の疾患に対しては，内科系医師，外科系医師，看護師及びコメディカル等がチームを組んで最適な医療を提供する体制を一層強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの疾患について，地域医療機関との役割分担及び連携を明確にしたうえで，両病院に求められている使命を果たす。また，新たに5 疾病として加わった精神疾患については，身体合併症への対応を中心に取り組む。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> がん治療については，地域がん診療連携拠点病院として，地域連携パスを活用しながら地域医療機関との連携を図り，侵襲性の低い治療，化学療法及び放射線治療等をより多くの患者に提供する。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○がんセンターでは，高度ながん治療と緩和医療を提供することにより，がん患者のQOL（生活の質），治癒率の向上を図る ○がん診療オープンカンファレンス及び研修会を開催し，地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす。また，腫瘍内科・緩和ケア外来や緩和ケアチームの活動を通じ，がんの診断，治療と並行し，①症状マネジメン 	<ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院は市全域の基幹病院として，西市民病院は市街地西部の中核病院として，地域医療機関との役割分担及び連携の下，それぞれの医療機能に応じて以下の通り4 疾患への対応を行った。また，5 疾病として加わった精神疾患については，身体合併症への対応を中心に取り組んだ。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域がん診療連携拠点病院として，がん診療の中心的役割を担い，施設要件に即してがん診療体制や相談業務体制を強化するため，従来のキャンサーボード等ががん拠点病院運営委員会に再編した。また，地域連携パスを活用し，地域医療機関との連携を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○腫瘍内科を設置（平成26年度実績：延外来患者数7,187人，延入院患者数1,210人（再掲））したほか，がん診断と治療に関係した各診療科ががんセンターの主体となって運用した。 ○4月に開催された兵庫県がん診療連携協議会，6月及び2月に開催された兵庫県がん診療連携協議会幹事会，1月に開催された兵庫県がん診療連携協議がん地域連携クリニカルパス部会等に，関係する診療科の医師が出席し，情報共有等を行った。 ○がん診療連携オープンカンファレンスを年4回（6月，9月，12月，3月）開催し，計190名が参加した。また，がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を6月7日・8日に開催（受講者18名（うち中央市民病院医師11名））した。 	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において，年度計画を順調に実施した。</p>

	<p>ト、②身体以外の問題の解決、 ③患者、家族の教育等を行い、 がん患者のQOL向上に貢献する</p> <p>○5大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下、患者の視点に立った、安心して質の高い医療を提供していくことを目指す</p> <p>○新規の抗がん剤についても積極的に導入し、最適ながん薬物療法を提供する</p> <p>○平成25年4月にがんセンターに設立した臓器別ユニット外来において、診療科の枠を超えて患者にとって最適な治療法を選択し、より専門的にがんに対応していく</p> <p>○外来化学療法センターにおいて薬剤師による副作用の説明や治療開始後のモニタリングを行うことにより、安全な治療を提供する。また、外来化学療法センターでは、外来通院治療機能の充実を図るために、がん患者に対する化学療法や血液浄化療法及び外来腹膜透析の管理指導等を行う。</p> <p>○緩和ケア外来において、医師、看護師、薬剤師等多職種によるがん患者の症状コントロール、不安・不眠等の心理的な問題への対応、患者や家族の悩み相談等により、がん患者のQOLの改善に貢献する</p>	<p>○中央市民病院において、5大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し、地域の医療機関との連携を図った（平成26年度実績：連携医療機関117施設、82件）。</p> <p>○薬剤師は、新規の抗がん剤について、特に嚴重な副作用調査を実施し、未知の副作用発見に取り組んだ。</p> <p>○平成25年4月にがんセンターに臓器別ユニット外来を設立し、臓器別に外来を組むだけでなく、周囲に腫瘍内科や放射線治療科、緩和ケア内科を設置し、チームとしてがん患者の治療やケアを実施した。</p> <p>○初めてがん化学療法を受ける患者や新たなレジメンを開始する患者に対し、薬剤師が事前の副作用説明・対策を行うことで、患者の不安を取り除き、治療が円滑に行えるよう取り組んだ。さらに副作用をモニタリングし、用量・用法の変更、支持療法の処方提案することで患者の副作用軽減を図った（平成26年度実績：初回副作用説明335件、副作用説明外来487件、疑義照会件数2,083件）。</p> <p>○緩和ケア内科の設置（平成24年7月） がん疾病等の患者の早期の転院や円滑な在宅支援及びがん救急による緊急入院の回避を図るとともに、地域がん拠点病院として地域連携を深めるため、緩和ケア内科を平成24年7月に新設し、外来枠も毎週火・木・金から、毎日に拡充した（平成26年度実績：延外来患者数2,096人）。また、緩和ケア外来の薬剤師は、患者の症状変化に合わせ薬物によるがん患者の症状コントロールを行い、がん患者のQOLの改善に取</p>				
--	--	--	--	--	--	--

	<p>○がん相談支援センターを紹介し、緩和ケアチームとの連携により、家族を含めたこころのケアサポート体制の充実に取り組む</p> <p>・脳卒中治療については、継続して高度な治療技術を提供し、患者や家族の要望を踏まえた上で、出来る限り早期にリハビリへの移行を図ることができるよう体制の強化を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○脳卒中センターでは、SCU（脳卒中ケアユニット）を設置し、救命救急センターとの連携の下24時間体制で専門医による脳卒中診療を行う</p> <p>○脳卒中地域連携パスのさらなる活用を図るとともに、回復期・維持期リハビリ医療機関との連携及び情報の発信を充実させる</p> <p>・急性心筋梗塞治療については、継続して高度な治療技術を提供するとともに、糖尿病性合併症等については、フットケア等のチーム医療活動の充実を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○心臓センターでは圏域内の心・大血管疾患の中心的病院として救命救急センターとの連携の下24時間対応できる体制により、救命に寄与する</p>	<p>り組んだ（平成26年度実績：緩和ケア外来における薬剤師同席件数960件、処方提案件数は299件（うち受入れ件数278件）、外来緩和ケア管理料算定件数315件）。</p> <p>○中央市民病院では、がん相談支援センター窓口において、緩和ケアチーム等の関連職種と連携しながら、がん相談対応に取り組んだ。また、がん相談体制を強化し、相談件数が大幅に増加した（平成26年実績：468件、前年度比176件増、60.3%増）。</p> <p>・脳卒中治療については、引き続き、脳卒中センターにおいて、継続して高度な治療技術を提供し、患者や家族の要望を踏まえた上で、出来る限り早期にリハビリへの移行を図ることができるよう体制の強化を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○脳卒中センター 脳神経外科と神経内科が協力して脳卒中センター（SCU（12床）と一般病床（33床））の一体的運用を図り、救命救急センターとの連携のもと、24時間体制で脳卒中専門医による脳卒中診察を行い、救命率の向上、後遺症発生率の低減、早期のリハビリへの移行を図った。</p> <p>○脳卒中地域連携パスを積極的に活用し、転院実績は238件（前年度比22件増、10.2%増）であった。</p> <p>・急性心筋梗塞治療については、継続して高度な治療技術を提供するとともに、糖尿病性合併症等については、フットケア等のチーム医療活動の充実を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○心臓センター 循環器内科と心臓血管外科が協力して心臓センター（CCU（6床）とC-HCU（12床）と一般病床（27床））の一体的運用を行い、救命救急センターとの連携の下、心筋梗塞、狭心症等の疾患だけでなく、入院患者を含め虚血性心疾患や大動脈疾患等の心血管患者を対象とした。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> がん治療については、患者の負担が少ない手術や高水準の治療をより積極的に行い、患者のQOLの向上に取り組むとともに、化学療法や市民病院群との連携による放射線治療の充実を図る等、専門的ながん診療機能を有する医療機関としての役割を發揮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○急性心筋梗塞地域連携パスの実施に向けた検討を行うとともに、回復期・維持期リハビリ医療機関との連携及び情報の発信を充実させる。また、デイサービスセンターにて日帰りの冠動脈造影(CAG)検査を実施する ○糖尿病地域連携パスは、Kobe DM net(神戸糖尿病地域連携パス)協議会に参加し、パスの運用に取り組む ○精神疾患については、地域の専門病院と連携を図りながら、身体合併症等への対応を中心に取り組む <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5疾病については、引き続き地域医療機関と連携を図りながら、地域で求められている役割を果たす。特に、がん治療については、より侵襲性が低く安全な手術や温存術及び化学療法等に取り組むとともに、市関連病院、市内の放射線治療装置を設置している施設と密接な連携をとりながら放射線治療を行い、患者のQOLの向上に努める。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○泌尿器科において、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術の施設基準認定を目指し、腹腔鏡下手術の体制を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○急性心筋梗塞治療 急性心筋梗塞治療については、継続して高度な治療技術を提供した。また、冠動脈造影(CAG)パスを1泊中心から日帰り中心に移行させた。平成26年度は緊急カテーテル治療(PCI)を112件(前年度比10件増,9.8%増)、冠動脈造影検査を1,691件(前年度比108件増,6.8%増)実施した。 ○Kobe DM net(神戸糖尿病地域連携パス)運営協議会へ積極的に出席し、運用に向けての情報共有に取り組んだ。 ○精神疾患については、身体合併症等への対応に取り組むとともに、関連会議への出席し、地域の専門病院との情報交換を図った。また、身体合併症対応の精神病床について、他院を視察する等、情報収集に取り組んだ。 <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5疾病については、引き続き地域医療機関と連携を図りながら、地域で求められている役割を果たした。特に、がん治療については、平成24年度より、「がん診療連携拠点病院に準じる病院」に認定されるとともに、県保健医療計画の「専門的ながん診療の機能を有する医療機関」に位置づけられ、がん治療検討委員会(キャンサーボード)を開催し、外来化学療法、緩和ケアチーム活動、がんリハビリテーション、がんカウンセリング等についての情報共有や意見交換を積極的に行った。また、外科的手術を中心に、患者への負担の少ない安全な腹腔鏡下、胸腔鏡下での手術を積極的に行うとともに、外来化学療法センターにおいて、引き続き積極的に外来での化学療法治療を実施(平成26年度実績:2,775件)し、放射線治療が必要な患者については、市関連病院、市内の放射線治療装置を有する施設と密接な連携をとりながら治療を行った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前立腺がん・膀胱がん 泌尿器科において、保険適用が可能となった腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術を積極的に実施した。 				
--	--	---	--	--	--	--

	<p>○「がん看護相談室」を引き続き実施し、がん患者及び家族に対するがん治療への精神的支援や啓発活動を積極的に行う</p> <p>○急性心筋梗塞については、循環器内科の体制強化を図り、冠動脈造影検査や血管内治療への対応を広げる</p> <p>○糖尿病については、引き続き、糖尿病教室の開催等に取り組むとともに、糖尿病地域連携パスの運用において地域医療機関との連携を図る</p> <p>○精神疾患については、各精神科病院から「こころの健康センター」経由で身体合併症患者を受け入れるほか、地域の専門病院との連携にも努める</p> <p>○認知症鑑別診断を引き続き実施し、神戸市長田区認知症連携パスの運用も継続する</p>	<p>○がん患者及び家族に対する精神的支援 西市民病院において、平成 22 年 11 月より開設（週 1 回）した「がん看護相談室」の毎日実施を継続し、がん患者及び家族に対する、がん治療への支援を積極的に行った。</p> <p>○循環器内科の体制強化 西市民病院では、4 月に循環器内科医師 1 名の増員を行い、体制を充実させた。また、時間内の救急受入れ及び循環器内科医師の日当直日における時間外救急受入れを円滑に行うとともに、従来午後のみを実施していた、予定の血管造影検査、血管内治療について引き続き一部午前にも対応し、血管造影による治療・検査の増加を図った（平成 26 年度実績：アンギオ（心臓）件数 541 件、前年度比 87 件増、19.2%増）。さらに、経皮的冠動脈形成術後の機能回復を安全かつ効率的に実施するため、心臓リハビリテーション用の機器を新たに導入し、運用を開始した。（再掲）</p> <p>○糖尿病 糖尿病合併症の予防等に利用するため、引き続き、糖尿病教室を積極的に実施した（平成 26 年度実績：開催回数 10 回）。また、神戸市医師会の発案で、平成 25 年 4 月より本格運用開始となった、病院と診療所が協力して患者の治療にあたる K o b e D M n e t（神戸糖尿病地域連携パス）において、累積で 80 診療所以上、315 症例以上の連携実績をあげた。</p> <p>○精神疾患 引き続き、身体合併症病床を 4 床設置し、各精神科病院から「こころの健康センター」経由で受入れを行うほか、地域の専門病院との連携に取り組んだ。</p> <p>○認知症連携パス 神戸市長田区認知症連携パスの運用に積極的に関わり、認知症鑑別診断を引き続き実施した。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

関連指標 (平成24年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
がん退院患者数(人)	4,286	2,616
がん患者外来化学療法数(人)	9,279	4,447
がん患者放射線治療数※1(人)	10,327	139
緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,953	-
がん患者相談受付件数(件)	1,429	32
脳卒中退院患者数(人)	1,227	54
急性心筋梗塞退院患者数(人)	134	12
糖尿病退院患者数(人)	214	200
精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	61	-
身体合併症受入延患者数(人)	132	168
認知症鑑別診断数(件)	135	153

※1 西市民病院のがん患者放射線治療数は平成24年度の他病院への紹介患者数
 ※2 精神疾患診断初回加算(自殺企図等による重篤な救命救急入院の患者であって精神科の医師が精神疾患に対する診断治療を行った場合に算定可能)を算定している患者数

関連指標 (平成24年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
がん退院患者数(人)	4,286	2,616
がん患者外来化学療法数(人)	9,279	4,447
がん患者放射線治療数※1(人)	10,327	139
緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,953	-
がん患者相談受付件数(件)	1,429	32
脳卒中退院患者数(人)	1,227	54
急性心筋梗塞退院患者数(人)	134	12
糖尿病退院患者数(人)	214	200
精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	61	-
身体合併症受入延患者数(人)	132	168
認知症鑑別診断数(件)	135	153

※1 西市民病院のがん患者放射線治療数は平成24年度の他病院への紹介患者数
 ※2 精神疾患診断初回加算(自殺企図等による重篤な救命救急入院の患者であって精神科の医師が精神疾患に対する診断治療を行った場合に算定可能)を算定している患者数

関連指標

	項目	平成25年度実績	平成26年度実績	前年度比(%)	
中央市民病院	がん退院患者数(人)	4,223	4,205	99.6	
	がん患者外来化学療法数(人)	9,923	7,326	73.8	
	がん患者放射線治療数(人)	8,894	9,288	104.4	
	緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,895	2,096	110.6	
	がん患者相談受付件数(件)	292	468	160.3	
	脳卒中退院患者数(人)	1,085	1,087	100.2	
	急性心筋梗塞退院患者数(人)	108	97	89.8	
	糖尿病退院患者数(人)	207	202	97.6	
	精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	42	30	71.4	
	身体合併症受入延患者数(人)	1,548	1,611	104.1	
	認知症鑑別診断数(件)	131	140	106.9	
	西市民病院	がん退院患者数(人)	2,223	2,282	102.7
		がん患者外来化学療法数(人)	4,194	2,775	66.2
がん患者放射線治療数※1(人)		150	168	112.0	
緩和ケア外来延べ患者数(人)		-	-	-	
がん患者相談受付件数(件)		64	59	92.2	
脳卒中退院患者数(人)		34	53	155.9	
急性心筋梗塞退院患者数(人)		17	20	117.6	
糖尿病退院患者数(人)		147	156	106.1	
精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)		-	-	-	
身体合併症受入延患者数(人)		297	310	104.4	
認知症鑑別診断数(件)	132	153	115.9		

※1 西市民病院のがん患者放射線治療数は他病院への紹介患者数

※2 精神疾患診断初回加算(自殺企図等による重篤な救命救急入院の患者であって精神科の医師が精神疾患に対する診断治療を行った場合に算定可能)を算定している患者数

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

中期目標	全ての医療現場において、医療に携わる全ての職員が、部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下で、チーム医療を実践するとともに、それぞれの専門性を発揮した医療を提供すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会の下、高度複雑化する疾患や高度に進化した治療法に対応するため、あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、チーム医療を一層推進する。 各専門職がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、チーム医療を一層推進する。 <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心臓血管外科と内科とで、大動脈弁狭窄症やコロナリー手術及び術後ケアに関する連携を強化する ○下肢静脈瘤について、形成外科と皮膚科とで連携した診療体制を構築する ○膠原病患者に対しては、総合診療科を中心に関係各科が連携した診療体制を構築する ○腫瘍内科においては、患者や診療科のニーズに合わせた横断的な腫瘍のための医療を提供していく ○入院前または入院当初より、患者の病歴をはじめ身体的・社会的危険を評価するリスクアセスメントを行い、早期より各種チームが連携して問題解決に取り組む、安全で安心な医療を提供する ○院内の栄養管理体制の整備を行 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、両病院においてチーム医療の推進に取り組んだ。 <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大動脈狭窄症やコロナリー（冠動脈）手術及び術後ケアについては、心臓血管外科に加え、循環器内科、呼吸器内科が、また、患者の全身状態に応じて腎臓内科、消化器内科、神経内科等も治療に加わり、チーム医療を行った。 ○下肢静脈瘤について、形成外科と皮膚科とで連携した診療体制の構築に向けた検討を行った。 ○膠原病については、総合診療科を中心に関係各科が連携し、治療にあたった。 ○腫瘍内科については、消化器内科や外科等と連携することで、診療科の枠を超えた横断的な医療を提供した。 ○入院前検査センターとデイサージャリーセンターにてリスクアセスメントを実施した。リスクアセスメントの取得は看護師が行い、薬剤師は常用薬の確認を行い、早期より各種チームが連携して問題解決に取り組んだ。 ○栄養管理体制の整備を実施し、入院診療計画書の特別な栄養管理の必要 	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において、年度計画を順調に実施した。</p> <p>その他、評価できるポイントは下記の通り。</p> <p>中央市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期リハビリを提供するため、救急病棟等へ専従の理学療法士・作業療法士を配置したこと。 <p>西市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日午前中のリハビリテーション診療の試行的実施によるリハビリ提供体制の強化を行ったこと。

	<p>い、それぞれの職種の役割を明確にし、病院全体の栄養管理の質の向上・充実に努めるとともに、栄養指導件数の増加を図る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○複数の診療科医師、看護師、コメディカルで構成するチームにおいて、定期的なカンファレンスで、コミュニケーションを図るとともに、事例検討等で情報交換を行い、患者へのより良い治療・ケアにつなげる</p> <p>○チームによる回診を定期的を実施し、患者を中心とした活動を積極的に行う</p> <p>・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療を提供する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○NST（栄養サポートチーム）、摂食嚥下チーム、褥瘡対策チーム、口腔ケアチーム、緩和ケアチーム、呼吸管理ケアチーム、フットケアチーム、HIV/AIDSサポートグループ、せん妄ケアチーム、ICT（感染管理チーム）による専門性を生か</p>	<p>性の有無の様式変更を行うとともに、「特別な栄養管理の必要性・有」の場合には、栄養管理計画書の記入を行った。今後、「特別な栄養管理の必要性・有」の目安（定義）を明確にし、栄養管理部の対応を確立する（平成27年3月実績：特別な栄養管理の必要性有の割合32.5%）。</p> <p>○栄養指導については、予約制で外来栄養指導、入院栄養指導を行った（平成26年度実績：個別栄養指導2,751件、うち外来1,130人、入院1,621人）。外来栄養指導は、InBody（高精度体成分分析装置）を活用して食習慣改善につなげ、入院栄養指導は、栄養指導を設定したクリニカルパスを増やし栄養指導件数の増につなげた（平成27年3月末時点：栄養指導を設定したパス8種類）。また、糖尿病透析予防管理料の算定の実施に向けた検討を行った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○複数の診療科・部門によるチーム医療</p> <p>複数の診療科医師、看護師、コメディカルで構成される各チームが定期的にミーティングを実施し、コミュニケーションを図ったほか、事例検討等の勉強会や情報交換を行い、患者へのより良い治療・ケアにつなげた。平成26年度は新たに、チーム医療推進のため院長ヒアリングを実施し、各チームの目標や実際の活動内容、今後の課題等について情報共有を行い、各チームの活動促進を図った。また、平成25年度に引き続き、チーム会の活動を紹介するため、チーム医療発表会を開催した（3月）。</p> <p>○チーム医療を推進する中で、院内ラウンドや市民向け教室の運営を行ったほか、定期的なカンファレンスや回診を行う等、患者を中心とした活動を積極的に行った。</p> <p>・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療を提供した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○NST（栄養サポートチーム）、摂食嚥下チーム、褥瘡対策チーム、口腔ケアチーム、緩和ケアチーム、呼吸管理ケアチーム、フットケアチーム、HIV/AIDSサポートグループ、せん妄ケアチーム、ICT（感染管理チーム）による専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践した。また、平成26年1月に「虐待防止委員会」を設置し、児童虐待・成人虐待における検討チームを発足させ、看護師・MSWの専門性を活かしながら対応策について議論した。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

	<p>したチーム医療を引き続き実践していく</p> <p>○リハビリテーションへの的確な移行時期を把握するため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と医師、病棟看護師との連携システムを構築する</p> <p>○入院患者全員に入院時栄養アセスメントを行い、必要に応じて治療食等への食事変更を行う。また、経腸栄養や経静脈栄養が必要とされる患者への内容や量について提案を行い、患者へ説明を行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、リエゾンチーム、糖尿病チーム、感染対策チーム（ICT）、呼吸管理ケアチーム、CPR（心肺蘇生）チーム、改善活動チームによる専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく</p> <p>○各専門医の参加・協力によりICU入室患者を中心として重症患者の治療の質の向上に努める（クリティカルケア・サポートチーム）</p>	<p>○平成24年4月に新設されたリハビリテーション技術部では、リハビリテーションでの的確な移行時期を把握するため、カンファレンスや回診での確認を密に行い、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と医師、病棟看護師でより迅速に情報共有し連携を進めた。また、5月より、救急病棟・EICU・GICU・GHCU・脳卒中センターに専従の理学療法士、作業療法士を配置し、より早期からの関わりを可能にするため医師・看護師と情報共有を行い、リハビリのコンサルタントを行った。</p> <p>○入院時栄養アセスメント</p> <p>入院患者全員に栄養管理計画書を記載するとともに、記載にあたっては、必要な事項は訪問して確認し、必要に応じて主治医に相談し治療食等への食事変更や（平成27年3月実績：特別治療食加算率27.3%）、食べやすい形態に変更した。また、入院前より食事量低下がみられる、体重減少がみられる等の低栄養のリスクを確認した。さらに、12月より電子カルテの患者基本の食物禁忌欄の入力が発生した場合のチェックシステムを強化した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○専門性を生かしたチーム医療</p> <p>NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、リエゾンチーム、糖尿病チーム、感染対策チーム（ICT）、呼吸管理チーム、CPR（心肺蘇生法）チーム、禁煙チーム、改善活動チームを設置し、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供に取り組んだ。</p> <p>○リハビリ提供体制の強化</p> <p>より治療効果を上げるために、リハビリテーション技術部を新設し、午前中半日の土曜日リハビリテーション診療を試行的に開始した。</p> <p>○クリティカルケア・サポートチームとして各専門医・看護師・コメディカルがICU入室患者を中心とした重症患者の診療の質向上のために人工呼吸器操作や血液浄化装置操作の研修会（各1回、参加者各9名）を開催したほか、西市民病院版敗血症診療ガイドライン・初期対応チェックリスト、低体温療法手順書の運用を継続した。また、ICUにおける鎮静処置指針の検討を継続した。</p> <p>○災害対策チームを災害対策委員会の下に新たに設置し、神戸市地域災害救急医療マニュアルに定められる災害対応病院としての機能の確保・充実に向けた検討を行い、1月に神戸市災害対応病院の指定を受けるとともに、チーム会とは別に院内職員向け研修会を3回</p>				
--	--	---	--	--	--	--

○病棟での薬剤師業務を継続し、看護師の負担を減らすとともに、医療安全・患者サービスを向上させる

開催した。
○全病棟への薬剤師の配置継続
西市民病院において、全病棟への薬剤師の常駐を継続し、全ての患者の持参薬の鑑別から副作用や重複服用等の確認、患者が服薬しやすいように持参薬を含めた1包化を行うことにより、看護師の負担軽減や患者サービスに繋げた。注射薬の払い出しについては、平成25年度より病棟での医薬品配置を廃止し、患者個人毎・1施用毎の払い出しに変更し、看護師の注射薬混合の安全性を高めた。今後、病棟での医薬品管理を徹底し、患者の処方・注射の内容確認から薬の実際の使用についても注意し、病棟での薬物治療の安全性をさらに高める。

関連指標 (単位: 件, 平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
薬剤管理指導件数	24,605	7,337
栄養指導件数	個別 1,944 集団 467	個別 1,212 集団 37
リハビリ実施件数	運動器 15,866 脳血管疾患等 33,542 呼吸器 5,087 心大血管疾患 10,661 がん患者 4,548 廃用症候群 6,543	運動器 17,425 脳血管疾患等 9,411 呼吸器 5,881 心大血管疾患 - がん患者 483 廃用症候群 15,571
口腔ケア実施件数	3,163	1,962

関連指標 (単位: 件, 平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
薬剤管理指導件数	24,605	7,337
栄養指導件数	個別 1,944 集団 467	個別 1,212 集団 37
リハビリ実施件数	運動器 15,866 脳血管疾患等 33,542 呼吸器 5,087 心大血管疾患 10,661 がん患者 4,548 廃用症候群 6,543	運動器 17,425 脳血管疾患等 9,411 呼吸器 5,881 心大血管疾患 - がん患者 483 廃用症候群 15,571
口腔ケア実施件数	3,163	1,962

関連指標

(単位: 件)

	項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度比 (%)	
中央市民病院	薬剤管理指導件数	23,527	22,260	94.6	
	栄養指導件数	個別	2,407	2,751	114.3
		集団	405	452	111.6
	リハビリ実施件数	運動器	15,846	17,454	110.1
		脳血管疾患等	39,886	54,465	136.6
		呼吸器	6,101	11,700	191.8
		心大血管疾患	10,428	13,669	131.1
		がん患者	5,187	5,952	114.7
		廃用症候群	8,004	2,578	32.2
		口腔ケア実施件数	3,349	3,138	93.7
西市民病院	薬剤管理指導件数	9,488	10,311	108.7	
	栄養指導件数	個別	1,515	1,821	120.2
		集団	36	70	194.4
	リハビリ実施件数	運動器	10,322	11,853	114.8
		脳血管疾患等	4,044	5,329	131.8
		呼吸器	5,271	6,425	121.9
		心大血管疾患	145	644	444.1
		がん患者	329	1,307	397.3
		廃用症候群	10,476	5,681	54.2
		口腔ケア実施件数	2,747	2,334	85.0

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(4) 臨床研究及び治験の推進

中期目標	より多くの市民に提供できる医療となるよう、医療機器や新薬の開発への貢献や再生医療等の高度な医療の早期実用化に向けて体制整備の充実を図るなど、臨床研究及び治験を推進すること。なお、推進にあたっては、患者への十分な説明の下で行うとともに、安全性及び倫理性を十分に確保すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、様々な職種の参画あるいは他病院との共同研究も含め、より多角的な視点から新薬や新医療機器の開発及び再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、治験及び臨床研究に積極的に取り組む。なお、実施にあたっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p>	<p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、より多角的な視点から新薬や新医療機器の開発及び再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、治験及び臨床研究に積極的に取り組む。なお、実施にあたっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○治験・臨床試験管理センターにおいて、治験・臨床研究のさらなる推進・充実を図るため、データマネジメント、統計解析スキルを有する職員の確保に努める ○院内講習会等を通じて臨床研究倫理についての啓発に努めるとともに、利益相反管理委員会に 	<p>・治験及び臨床研究を継続して積極的に推進し、中央市民病院では治験109件（前年度比26件増、31.3%増）、受託研究178件（前年度比10件増、6.0%増）、臨床研究140件（前年度比12件増、9.4%増）を実施した。また、西市民病院においては治験6件（前年度比4件減、40.0%減）、受託研究34件（前年度比19件減、35.8%減）、臨床研究20件（前年度比3件減、13.0%減）を実施した。</p> <p>・中央市民病院では、患者への説明責任を徹底するとともに、臨床研究及び治験に関する標準業務手順書等の更新を適宜行った。また、「臨床研究倫理委員会議事録」及び「治験審査委員会議事録」の概要のホームページへの掲載を継続した。さらに、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職間の情報共有を進め、治験及び臨床研究の質の向上に取り組んだ。西市民病院においても患者への説明責任を徹底するとともに、「治験審査委員会議事録」の概要のホームページへの掲載を継続して実施した。また、平成25年度に治験ならびに治験審査委員会についての標準業務手順書を改訂し、治験増加の際には、速やかに院内治験コーディネーター（CRC）を契約し、患者への説明や、その後の意見集約に対して配慮を行った。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療統計学の専門性を有する薬剤師1名を新規採用し、治験・臨床試験管理センターに配置した。中央市民病院の医師が主体となって実施する臨床研究のデータマネジメント業務の確立を目指して、システムの構築について検討を進め、試作した電子症例報告書について検証を行った。 ○臨床研究倫理の啓発の目的で、先端医療センターと共催の講習会を3月に開催した（参加者：中央市民病院124人、先端医療センター51人）。また、利益相反管理委員会を開催し、臨床研究の透明性確保、適正な利 	1	3		<p>【評価のポイント】 各項目において、年度計画を順調に実施した。</p>

<p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データを下に、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信する。また、論文投稿や学会発表等により医療の発展に貢献する。</p>	<p>おいて利益相反についての透明性の確保や適正な管理に取り組む</p> <p>○再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、先端医療センターや独立行政法人理化学研究所神戸事業所と連携し、治験及び臨床研究に取り組んでいく</p> <p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データをもとに、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信する。また、論文投稿や学会発表等により医療の発展に貢献する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○学術支援センターにおいて、論文の書き方や統計解析のセミナーの開催、相談窓口の設置、ポスター作成、データ入力等、論文投稿や学会発表等の支援を行い、論文投稿や学会発表等の実績や意欲の向上を図り、医療の発展に貢献していく</p>	<p>益相反管理に取り組んだ。</p> <p>○先端医療センター臨床研究支援部に薬剤師を1名(週1.5日)派遣して連携を強化し、治験・臨床研究推進体制の構築に向けた業務を開始した。先端医療センター病院における標準業務手順書の作成、見直しに参画するとともに、中央市民病院のマニュアル類についても順次新設した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○講習会と教育への参加</p> <p>新規採用職員を対象に臨床研究等に伴う倫理や病院の取り組みに関する説明を行った(平成26年度実績:4回実施,22人参加)。また、院内イントラネットに、臨床研究に関する倫理指針や倫理委員会規程等の関連情報を掲載し、随時閲覧できるようにした。</p> <p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データをもとに、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信するとともに、論文投稿や学会発表に両病院とも積極的に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○学術支援業務</p> <p>学術支援センターにおいて研究立案から発表、論文作成に至る支援業務を行った。</p> <p>【平成26年度実績】</p> <table border="1" data-bbox="1181 1438 2030 1879"> <thead> <tr> <th></th> <th>業務内容</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究計画立案支援</td> <td>学術研究アドバイザー相談</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎データ作成支援</td> <td>研究用データ入力</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>術野画像の取り出し・編集</td> <td>7,359</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">研究発表支援</td> <td>スライド作成</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ポスター作成</td> <td>264</td> </tr> <tr> <td>挿入用イラスト作成</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>挿入用動画編集</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>論文作成支援</td> <td>英語論文翻訳校閲</td> <td>82</td> </tr> </tbody> </table>		業務内容	合計	研究計画立案支援	学術研究アドバイザー相談	77	基礎データ作成支援	研究用データ入力	0	術野画像の取り出し・編集	7,359	研究発表支援	スライド作成	6	ポスター作成	264	挿入用イラスト作成	6	挿入用動画編集	18	論文作成支援	英語論文翻訳校閲	82			
	業務内容	合計																										
研究計画立案支援	学術研究アドバイザー相談	77																										
基礎データ作成支援	研究用データ入力	0																										
	術野画像の取り出し・編集	7,359																										
研究発表支援	スライド作成	6																										
	ポスター作成	264																										
	挿入用イラスト作成	6																										
	挿入用動画編集	18																										
論文作成支援	英語論文翻訳校閲	82																										

関連指標 (単位: 件, 平成 24 年度実績)			関連指標 (単位: 件, 平成 24 年度実績)			関連指標 (単位: 件)																																																																																								
						<table border="1"> <tr> <td>その他</td> <td>学会等主催データ入力</td> <td>1,816</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>学会研究会開催支援</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>講習会等の開催</td> <td>臨床研修セミナー</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					その他	学会等主催データ入力	1,816					学会研究会開催支援	6					その他	26				講習会等の開催	臨床研修セミナー	8																																																															
その他	学会等主催データ入力	1,816																																																																																												
	学会研究会開催支援	6																																																																																												
	その他	26																																																																																												
講習会等の開催	臨床研修セミナー	8																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>治験実施件数</td> <td>59</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>162</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>臨床研究件数</td> <td>113</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>論文掲載件数</td> <td>166</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>981</td> <td>181</td> </tr> </tbody> </table>			項目	中央市民病院	西市民病院	治験実施件数	59	5	受託研究件数	162	66	臨床研究件数	113	25	論文掲載件数	166	44	学会発表件数	981	181	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>治験実施件数</td> <td>59</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>162</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>臨床研究件数</td> <td>113</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>論文掲載件数</td> <td>166</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>981</td> <td>181</td> </tr> </tbody> </table>			項目	中央市民病院	西市民病院	治験実施件数	59	5	受託研究件数	162	66	臨床研究件数	113	25	論文掲載件数	166	44	学会発表件数	981	181	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 25 年度実績</th> <th>平成 26 年度実績</th> <th>前年度比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">中央市民病院</td> <td>治験実施件数</td> <td>83</td> <td>109</td> <td>131.3</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>168</td> <td>178</td> <td>106.0</td> </tr> <tr> <td>臨床研究件数</td> <td>128</td> <td>140</td> <td>109.4</td> </tr> <tr> <td>論文掲載件数</td> <td>222</td> <td>225</td> <td>101.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学会発表件数</td> <td>631</td> <td>664</td> <td>105.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">西市民病院</td> <td>治験実施件数</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>60.0</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>53</td> <td>34</td> <td>64.2</td> </tr> <tr> <td>臨床研究件数</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>87.0</td> </tr> <tr> <td>論文掲載件数</td> <td>23</td> <td>18</td> <td>78.3</td> </tr> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>76</td> <td>84</td> <td>110.5</td> </tr> </tbody> </table>						項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度比 (%)	中央市民病院	治験実施件数	83	109	131.3	受託研究件数	168	178	106.0	臨床研究件数	128	140	109.4	論文掲載件数	222	225	101.4		学会発表件数	631	664	105.2	西市民病院	治験実施件数	10	6	60.0	受託研究件数	53	34	64.2	臨床研究件数	23	20	87.0	論文掲載件数	23	18	78.3	学会発表件数	76	84	110.5
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																												
治験実施件数	59	5																																																																																												
受託研究件数	162	66																																																																																												
臨床研究件数	113	25																																																																																												
論文掲載件数	166	44																																																																																												
学会発表件数	981	181																																																																																												
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																												
治験実施件数	59	5																																																																																												
受託研究件数	162	66																																																																																												
臨床研究件数	113	25																																																																																												
論文掲載件数	166	44																																																																																												
学会発表件数	981	181																																																																																												
	項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度比 (%)																																																																																										
中央市民病院	治験実施件数	83	109	131.3																																																																																										
	受託研究件数	168	178	106.0																																																																																										
	臨床研究件数	128	140	109.4																																																																																										
	論文掲載件数	222	225	101.4																																																																																										
	学会発表件数	631	664	105.2																																																																																										
西市民病院	治験実施件数	10	6	60.0																																																																																										
	受託研究件数	53	34	64.2																																																																																										
	臨床研究件数	23	20	87.0																																																																																										
	論文掲載件数	23	18	78.3																																																																																										
	学会発表件数	76	84	110.5																																																																																										

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底（クリニカルパス及び臨床評価指標の充実等）

中期目標	より質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）の充実と活用に積極的に取り組むこと。 また、電子化を推進し、並びにDPC（診断群分類別包括評価）による診療情報のデータを活用し、臨床評価指標などを設定し、及び分析することによって、医療の質の向上と標準化を図るとともに、患者に最適でより効果的な医療を提供すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用する。また、ICT化の促進等により、医療の質を継続的に管理できる体制を確立する。</p>	<p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用する。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○クリニカルパスのアウトカム評価の精度を上げ、クリニカルパスによる診療の評価やバリエーション分析を行う</p> <p>○クリニカルパスの説明時に使用する患者用パスについて、患者自身が自分の体温や健康管理目標等を記載できるように変更する等、患者が診療計画に参加できるような工夫を検討する</p> <p>○DPCを用いてコスト等の面からクリニカルパスを評価し、改善する</p>	<p>・両病院において、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用し、質の高い医療の提供に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○電子カルテにおけるバリエーション分析を目標の1つとして、クリニカルパス委員会に「アウトカム・バリエーション分析チーム」を作り活動した。平成26年度は各診療科で1つのパスのバリエーション分析を行うことを目標として、アウトカム評価の入力率の向上への取り組み、バリエーション入力されない要因分析、外部講師による院内講演会等を行った。また、アウトカム評価が行われている外科、循環器内科、脳神経外科、呼吸器外科、糖尿病・内分泌内科のバリエーション分析を行った。</p> <p>○クリニカルパスの具体的な記載方法と、対象についてクリニカルパス委員会で検討を実施し、一部のパスの修正を行った。患者用パスの未作成や内容が実際と違うパスやクリニカルパスの適応外使用があり、見直しの依頼と注意喚起を行った結果、不適切な運用の報告が大幅に減少した。さらに、12月から入院前検査センターの看護師をクリニカルパス公開前のチェック者に追加し、平成27年度からのクリニカルパス委員会出席を依頼した。</p> <p>○平成25年度からDPCデータを活用し、全診療科におけるクリニカルパス適用症例のコスト評価を行った。引き続き、コスト評価チームが中心となりクリニカルパスのコスト評価を実施し、各診療科に結果を説明した。また、経営的な視点から平成26年度の診療報酬改定より対象手術・検査が大幅に拡大された短期滞在手術基本料に着目し、改定前DPC</p>	1	3		<p>【評価のポイント】 各項目において、年度計画を順調に実施した。 その他、評価できるポイントは以下のとおり。 中央市民病院 ・「アウトカム・バリエーション分析チーム」によるバリエーション分析を行ったこと。 西市民病院 ・電子カルテを導入することにより、患者情報の一元管理やコスト算定漏れ防止等運用面・経営面での効率化を図ったこと。</p>

	<p>(西市民病院)</p> <p>○院長ヒアリングや業務経営改善委員会等において、D P C 分析を行い、改善提案等を各診療科に向けて積極的に行う</p> <p>○クリニカルパスについては、実状に合わせて追加・改定、及び削除を行い医療の質の標準化を進める</p> <p>○ホームページで公開している臨床評価指標を更新するとともに、電子カルテ導入によるデータの蓄積状況を踏まえ、新たな</p>	<p>C上の収入と比較分析を行い収益が改善していることを確認した。さらに、短期滞在の症例をD P Cと比較し、コスト評価を行うとともに、クリニカルパス分析結果を1月のクリニカルパス大会で発表した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○D P C分析による改善提案等 従来のものよりも加入病院数が多く、またベンチマーク機能も豊富なD P C分析ソフトを平成 23 年度より導入し、市内主要病院や同規模病院との診療科ごと・手技ごとの収益や件数比較等、今後の戦略を立てるための分析を実施した。11月の院長ヒアリングにおいて、主要診療科のD P C分析を実施し、改善提案を行った。</p> <p>○適切なコーディングを行うため、D P C保険対策委員会を 12 回開催し、D P Cについての基本的理解や運用について議論し、特に毎月の査定事例の詳細な検討や情報共有を行い、査定減対策を図った。また、保険診療の知識を高めるため職員全体を対象に保険診療講習会を4月に開催した。</p> <p>○平成 26 年度診療報酬改定の検討項目について、情報共有を行い、実際の運用について関係者と協議を行った。また、業務経営改善委員会として、平成 26 年度診療報酬改定以後の全国的な状況と次回改定の動向についての講演会(7月)及び地域医療構想や次回診療報酬改定の内容を予測する講演会(2月)を開催し、職員への理解を深めた。</p> <p>○クリニカルパス・医療の質の標準化 クリニカルパス委員会を定期的に開催(12回)し、現状の把握と、パス適用率向上に向けた今後の進め方について検討した。各医療職への積極的な働きかけや、D P Cデータを用いた疾患別パスの提案を引き続き行い、パスの適用率を向上させるとともに、使用されていないパスの利用促進を行った。また、医事課で傷病別の診療構造を分析し、パスに適用可能な症例については、新しいパス作成の参考資料として各診療科に提示した。</p> <p>○バリエーション評価の実施に向けて、適応・除外基準とアウトカムの設定を検討するとともに、医師・看護師が共同し、胃切除(胃全摘含む)と肺切除術のパスについて分析を行った。また、その他のパスについても検証を開始した。今後、電子パスの運用に向けてのアウトカム・バリエーションの評価の取り組みについても検討を進める。</p> <p>○臨床評価指標の更新 平成 22 年度業務経営改善委員会にて項目を設定し、ホームページへの掲載を開始した臨床評価指標(患者数や病床利用率等の基本情報や退院患者統計データ)について、データの更新を行った。今後</p>				
--	---	--	--	--	--	--

<p>・医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図る。</p>	<p>項目の抽出について検討を開始する</p> <p>・医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○病院機能評価並びに卒後臨床研修評価の更新時の評価項目を踏まえ，引き続き医療の質の向上に取り組んでいく</p> <p>○医療情報システムの内部監査を年1回行い，医療情報システム運用の安全性の向上を図る</p> <p>○診療記録や退院サマリーに記載すべき内容を整理し，記録類の質の向上を図る。また，記録の量的・質的監査を年1回実施し，改善を図る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○平成25年度に受審した病院機能評価の結果等の外部評価をもとに，必要な事項は改善し，医療の質向上に努める</p>	<p>は，電子カルテ導入後のデータの蓄積状況も踏まえ，病院の特色を出せる新たな項目の抽出についても検討を行う。</p> <p>・両病院において，医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○病院機能評価等の外部評価活用による病院運営改善</p> <p>平成25年11月に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受け，すべての項目について概ね良好との講評を得て，平成26年3月に5年間の認定証の交付を受けた。また，平成25年11月にはNPO法人卒後臨床研修評価機構の認定施設について4年間の更新を受けた。平成26年度も引き続き，医療機能の維持向上に取り組んだ。</p> <p>○医療情報システム内部監査</p> <p>内部監査対象部署とスケジュールを作成し，7月に病棟3部署と臨床検査技術部の計4か所に対して内部監査を実施した。8月には監査結果を対象部署に提示し，9月に改善策の立案を指示した。2月には監査対象部署より改善策の提出を受け，3月には監査責任者に対して監査内容を報告した。</p> <p>○退院サマリーやカルテ記載等の記録を随時確認し，不備がある場合は訂正を依頼した。また，診療情報委員会において，質的監査の基準を改定し，9月に新基準で診療情報委員が質的監査を実施し，その結果について10月に診療情報委員及び病院運営協議会で報告，周知を行った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○病院機能評価等の外部評価活用による運営改善</p> <p>公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を平成26年2月に受審し，平成26年5月に5年間の更新認定を受けた。更新認定に向け医療安全により一層取り組むため，薬剤管理業務において，平成25年度に専用カート導入や運用の大幅な見直しを行い，注射薬の1施用毎の払い出しを全病棟で開始，配薬上での安全性を向上させた。また，療養環境の整備に加え，各職種が集まり事務処理面における課題についても点検・検討を重ね，感染対策マニュアル等の各種マニュアルの改訂を行うとともに，カルテの記載の仕方を統一する等の事務改善を図った。</p>				
---	--	---	--	--	--	--

<p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図る。 	<p>○卒後臨床研修評価の認定取得に向けて具体的な検討を行う</p> <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図る。 <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療安全、患者サービス、経営改善、業務の効率化のため、医療情報システムの機能追加や改善を行う</p> <p>○C I（臨床指標）・Q I（医療の質評価指標）について定期的な検討会で分析内容を検討した上で、改善策を講じ、改善結果をデータで確認する。また、指標については各診療科の実績として活用できるよう整備する</p> <p>○診療補助や学術研究のために、診療情報を2次利用した院内開発を進める</p> <p>○電子カルテを含む医療情報システム</p>	<p>○NPO法人卒後臨床研修評価機構の認定施設登録に向け、研修管理常任委員会が中心となって、臨床研修の基本理念をベースに臨床研修プログラムについて改訂を行うとともに、診療科ごとの研修プログラムの見直しを実施した。</p> <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療情報システムの機能追加等</p> <p>利用者から寄せられる変更要望について、CRM(Change Request Management)会議にて毎週検討し、順次実施した(平成26年度実績:217件)。また、診療に係る定型文書(同意書等)の電子カルテへの登録(平成26年度実績:562件)、電子カルテ記事記載を標準化するためのスマートテンプレートの作成・修正(平成26年度実績:70件)や、医療情報システムの不具合の改修等(平成26年度実績:267件)を行い利便性の向上に取り組んだ。</p> <p>○C I（臨床指標）</p> <p>C Iの項目と内容について、全診療科に実施したヒアリングの結果を基に整理検討し項目を見直して、平成26年度分のデータを作成した。また、9月にホームページへの臨床指標公開基準を作成し、診療実績と医療質改善の指標を区別して掲載する方向とした。</p> <p>○Q I（医療の質評価指標）</p> <p>日本Q Iプロジェクト、全国自治体病院協議会「医療の質の評価・公表事業等推進事業」への参加登録を行い、報告を受けた結果についてQ I WG(7月,12月)で検討した。また、病院独自の指標は定期的に評価し、改善を行った。Q Iへの取り組み意識の向上と、PDCAサイクルの結果報告のため、Q Iニュースを発行(7月,1月)するとともに、Q I講演会「医療の質指標を改善につなげよう」(7月)、「臨床指標をどうとらえるべきか」(12月)を開催し、院内への啓発を図った。</p> <p>○診療情報の2次利用</p> <p>診療現場の多様なニーズに柔軟に対応するため、診療情報データを活用したツールを院内で開発した(平成26年度実績:新規27件,改造45件)。</p> <p>○中央市民病院では、医療情報システム更新に向けて、新たに更新担当主</p>				
---	--	--	--	--	--	--

<p>・医療情報の共有化を進め、市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行う。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>・電子カルテを中心とした総合的な医療情報システムを円滑に導入する。また、導入により医療の質向上と安全確保を図るとともに、患者へのきめ細かい情報提供や経営の効率化にも繋げる。</p> <p>・電子カルテを中心とした医療情報システムの導入により有用な臨床評価指標を設定し、医療の質の改善及び向上を図る。</p>	<p>の更新基本計画を作成し、更新に向けての準備を進める</p> <p>・医療情報の共有化を進め、市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療クラスター内の病病連携に必要な医療情報連携システムの導入を検討する</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・新規となる電子カルテ及び部門システムの導入を円滑に進める。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○電子カルテ導入時の部門システムについては、必要性を見極めて優先順位を付け取捨選択を行う</p>	<p>幹を配置するとともに、医療情報システムの更新年度について、既存システムの耐用年数や、システム全体にかかる費用の長期的な試算等から、基幹システム及び関連する部門システムを7年更新とし、残りの部門システムを原則8年更新とすることを決定した(6月)。また、現行システムのカスタマイズ状況を踏まえ、次期医療情報システムのカスタマイズについて検討し、できる限り定期的なバージョンアップが可能な範囲内で、必要最小限とすることを決定した(8月)。</p> <p>○コンサルタントの意見を踏まえ、現行の医療情報システムの重点課題を洗い出し、院内検討会で大手ベンダーの最新機能を確認し、費用の圧縮も含めた改善策を検討し(8月2回、9月5回、10月2回)、更新に係る費用についての方針を策定した。これらの検討結果を元に医療情報システム更新基本計画書の第1版を策定するとともに、部門システムの継続利用について各部門の意見を集約し、今後、部門システムの更新にかかる費用について精査を行う。</p> <p>・市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行うため、医療情報の共有化について検討を行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療クラスター連携(中央市民病院)</p> <p>医療クラスター内での連携推進を目的として、メディカルクラスター連携推進委員会(7月、11月)及びシステム連携部会(12月、1月、3月)が開催された。今後、BCPを含めたシステム面における提案について協議を進める。</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・新規となる電子カルテ及び部門システムの円滑な導入に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○電子カルテ及び部門システムの導入</p> <p>電子カルテの導入については、院内に電子カルテ検討部会や各種WGを立ち上げ検討を行い、入院カルテは平成27年1月20日に、外来カルテは平成27年3月5日にそれぞれ運用を開始した。なお、電子カルテ導入を想定したオーダーリングシステムおよび各部門システムについては平成25年12月に更新を終了した。この更新により、医師が診察中でもオーダー操作が容易になり効率化が図られ、リハビリでは、オーダーを受けてから実施まで従来の紙での運用を</p>				
--	---	--	--	--	--	--

					電子化したことにより、コスト算定に漏れがなくなったほか、予約・実施等の実績管理も容易となった。平成 25 年度に引き続き、電子カルテ導入にあわせた部門システムの新規導入や新たな機能を付与した更新についても、必要性・優先順位の検討を行った。																															
関連指標 (平成 24 年度実績)					関連指標 (平成 24 年度実績)					関連指標																										
項目		中央市民病院		西市民病院		項目		中央市民病院		西市民病院																										
クリニカルパス数 (種類)		308		179		クリニカルパス数 (種類)		308		179																										
目標値 (実績値は平成 24 年度・目標値は毎年度)					目標値 (実績値は平成 24 年度・目標値は毎年度)					目標値																										
項目		中央市民病院		西市民病院		項目		中央市民病院		西市民病院																										
		実績値		目標値		実績値		目標値		実績値		目標値																								
クリニカルパス適用率 (%)		55.6		60.0以上		46.7		50.0以上		55.6		60.0以上		46.7		50.0以上																				
										<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>平成 25 年度実績</th> <th>平成 26 年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>クリニカルパス数 (種類)</td> <td>347</td> <td>367</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>クリニカルパス数 (種類)</td> <td>181</td> <td>203</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>					項目		平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度差	中央市民病院	クリニカルパス数 (種類)	347	367	20	西市民病院	クリニカルパス数 (種類)	181	203	22							
項目		平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度差																																
中央市民病院	クリニカルパス数 (種類)	347	367	20																																
西市民病院	クリニカルパス数 (種類)	181	203	22																																
										<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>平成 26 年度目標値</th> <th>平成 25 年度実績値</th> <th>平成 26 年度実績値</th> <th>目標差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>クリニカルパス適用率 (%)</td> <td>60.0 以上</td> <td>58.3</td> <td>59.9</td> <td>△0.1</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>クリニカルパス適用率 (%)</td> <td>50.0 以上</td> <td>49.4</td> <td>49.8</td> <td>△0.2</td> </tr> </tbody> </table>					項目		平成 26 年度目標値	平成 25 年度実績値	平成 26 年度実績値	目標差	中央市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	60.0 以上	58.3	59.9	△0.1	西市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	50.0 以上	49.4	49.8	△0.2				
項目		平成 26 年度目標値	平成 25 年度実績値	平成 26 年度実績値	目標差																															
中央市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	60.0 以上	58.3	59.9	△0.1																															
西市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	50.0 以上	49.4	49.8	△0.2																															

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(2) 医療安全対策及び医療関連感染（院内感染）対策の強化

中期目標	<p>医療の質の管理を徹底するため、引き続き組織として医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）の醸成に努め、医療の全過程に関して、全ての職員が意識して、インシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に傷害を及ぼした事例）に関する情報の収集及び分析を行い、その結果を反映させた上で、医療事故の予防及び再発の防止に取り組むなど、医療安全対策を徹底すること。</p> <p>また、医療関連感染（院内感染）についても、職員への教育及び啓発を徹底するなど、院内感染対策を確実に実践すること。</p>
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）を醸成する。</p>	<p>・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）を醸成する。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○職員に対する事故防止研修会を継続的に実施し、医療安全に対する職員の意識を高める</p> <p>○平成25年度に改訂した医療安全マニュアルと他のマニュアル類との整合性を確認し、追加・改訂を行い、周知徹底を図ることにより、医療安全の一層の向上に努める</p> <p>○医療安全文化醸成度を可視化する目的で、国立保健医療科学院</p>	<p>・両病院において、患者の安全を最優先に万全な対応がとれるよう、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化の醸成に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○医療安全研修 全職員が医療安全研修を年2回以上受講することを目標とし、研修を実施した。4月には新規採用者を中心に医療ガス講習会を実施（124名参加、新規採用医師は必須とし別途開催）したほか、CVカテーテル挿入研修会（計5回実施、計53名参加）、MRI高磁場体験（173名参加）、患者対応に関する講演会（431名参加）等医療安全に関する様々な研修会を、年間を通じて継続的に実施し、職員の医療安全に対する意識向上に取り組んだ。</p> <p>○医療安全マニュアル一部改訂に向けて、医療安全管理会議において議論を進めた。また、平成25年度に改訂された医療安全マニュアルの要素を収録した常時携行できる医療安全ポケットマニュアル医師版を印刷製本し、全医師に配布（7月）した。さらに、臨床検査技師版ポケットマニュアル、放射線技術部ポケットマニュアルがそれぞれ完成し、関係者に配布した。医療安全についての周知徹底を図るために、医療安全ニュースを5回発行した。なお、医師の為の医療安全ニュースについては毎月発行した。</p> <p>○毎年実施している「医療における安全文化に関するアンケート」を全職員対象に継続実施した。支援が特に必要な職種は看護職で、部署は救急</p>	2	3		<p>【評価のポイント】 各項目において、年度計画を順調に実施した。 その他、評価できるポイントは以下のとおり。 共通 ・医療安全や感染対策に関する職員研修を積極的に実施したこと。 中央市民病院 ・感染管理に関する体制を強化したこと。</p>

	<p>の「医療における安全文化に関するアンケート」を全職員対象に毎年実施し経年的に評価を行う。</p> <p>○救命救急センターで医療安全のためのチームワーク推進活動である「Team STEPPS」の考え方を導入し、さらなる医療安全文化の醸成を図る</p> <p>○医療安全管理室・薬剤部との連携による院内講習会の開催により、医薬品適正使用の推進を啓発する</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○医療安全集中管理ソフトを活用し、迅速な情報収集を図るとともに、分析にも努め、再発防止及び発生予防に取り組む</p> <p>○医療安全管理委員会を定期的に開催するとともに、要点を業務経営会議で報告することにより、各診療科・各部門に周知する</p>	<p>部であった。結果をもとに、医療安全管理会議、医療安全リーダー会、医師へのニュースで、看護師への支援及びマンパワーを要さないためには分かりやすい指示の実施が必要であることを周知した。今後も継続してアンケートを実施し、医療安全文化醸成のベンチマークとする。</p> <p>○救急に関わるコメディカル、事務職員、KMCPスタッフを対象にTeam STEPPSの活動を継続した(10回実施)。12月以降は、11月まで受講したフロントラインリーダーをコアメンバーが支援しながら、各セクションでTeam STEPPSの研修を企画し、どのように医療安全文化を醸成していくかを検討しながら活動を行った。また、12月からは救命救急センターで働く医師・看護師、救急救命士クラブを対象に研修を実施した(6回実施)。その他、臨床研修医対象(9月)、師長会、主任会、看護部の新人研修、事務局及びKMCP(いずれも10月)等においてもそれぞれ実施し、医療安全文化の醸成を図った</p> <p>○医療安全管理室と薬剤部が連携し、「安全にインスリンを取り扱うために」と題し、薬剤師、医師、看護師が講師となり、講習会を実施した(計3回実施)。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○医療安全対策の徹底と医療安全文化の醸成 医療安全管理室が中心となり、患者が安全に安心して療養生活を送るために、職員や患者・家族、面会者等すべての人たちがその場で患者の状況を知り、介助等の支援がしやすくなることを目的として、「医療看護支援ピクトグラム」(見やすい場所に、わかりやすい図記号で、患者の状態や制限事項等を表示すること)を8月より一部病棟で導入した。また、患者の転落等予防のため、吹き抜け部分への落下防止ネットの設置及び一部病棟の窓の網戸を固定する工事を11月に行った。</p> <p>○医療安全集中管理ソフトの活用 医療安全集中管理ソフト「セーフマスター」を継続して活用するとともに、週1回医療安全管理室で事例検討会を開催し、インシデント・アクシデントに関して討議した。また、医療安全対策専従看護師を中心に、医療安全管理室メンバーによるインシデント・アクシデントの調査・分析を実施した。</p> <p>○医療安全管理委員会の開催 医療安全管理委員会を月1回定期的に開催するとともに、その要点を業務経営会議で詳細に報告することにより、各診療科・各部門にも周知した。</p>				
--	---	--	--	--	--	--

<p>・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し，その内容を分析することにより再発防止に取り組む。</p>	<p>○病院職員全体を対象とした，医療安全研修会を実施する</p> <p>・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し，その内容を分析することにより再発防止に取り組む。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○提出された報告案件や報道事例等のうち，特に注意が必要な事象に対して文書やメールでの注意喚起，または研修会を実施する</p> <p>○インシデントレポート・アクシデントレポートをこれまで通り収集できるよう，報告者へのフィードバックを通じて各部署との共通理解，相互コミュニケーションを図る。その中で医療事故に関わるすべての問題点を吸い上げ，遅滞なく毎日のミーティングの中で分析や新たな医療安全対策の考案を行う。</p> <p>○各部署における重要事例についてはインシデントレポートKYT（危険予知トレーニング）を行うことで，危険予知能力の改善を促す</p>	<p>○医療安全研修会の実施</p> <p>病院全体の医療安全研修会を延べ 22 回実施したほか，毎週火曜日に事例検討会を実施し，適切な対応を図るとともに，情報共有を行い，積極的に医療安全対策に取り組んだ。</p> <p>・両病院においてインシデント及びアクシデントについての報告を強化し，その内容を分析することにより再発防止に取り組んだ。中央市民病院のインシデントレポート数は 4,105 件（前年度比 278 件減，6.3%減），うち合併症を含むアクシデントは 43 件（前年度比 26 件減，37.7%減）となった。なお，医師からの報告件数は 253 件（6.2%）であった。西市民病院のインシデントレポート数は 1,630 件（前年度比 145 件増，9.8%増），うちアクシデントは 8 件（前年度比 4 件増，100%増）となった。なお，医師からの報告件数は 38 件（2.3%）であった。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○医療安全集中管理</p> <p>医療安全に関する検討会を 220 回実施し，ヒヤリ・ハット，インシデント，アクシデントについて検討を行った。</p> <p>○アクシデント，インシデント事例からの主な懸案事項と改善策</p> <p>入院時に結核感染対策目的で必ず「胸部レントゲン」を撮影し，その所見の見落としを防ぐため，入院前検査センターで【所見見落とし防止】を警告する赤付箋を貼るよう運用を変更した。その他，電子カルテ表示されたアレルギー情報・感染情報が診療情報提供書に取り込まれるようシステムの変更を行うとともに，血栓・塞栓症をリスクのある女性ホルモン系薬剤についても術前使用が「禁忌」「慎重投与」となっている場合は，主治医へ確認し継続が必要な場合は同意書を取得する等，アクシデント及びインシデント事例から運用の見直し等を随時行った。</p> <p>○事例分析</p> <p>同じインシデントが起こっている場合，レポートにインシデントKYTを行うよう各部署へ依頼し，その後，医療安全ミーティングにおいて，カルテ記録を確認し，医師の指示，指示コメント，看護記録等インシデント報告になる内容の確認を行い，看護計画や転倒転落アセスメント等を確認してからコメントを入力し，必要時は医療安全管理室からコメン</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>・医療事故が発生した場合には、公表基準に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する。</p> <p>・感染管理医師、感染管理看護師を中心に、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンドを実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>・研修や講演会を適宜実施し、院内すべての従事者に対して医療安全と感染症及び感染防止に関する正しい知識の維持向上を図る等、教育を充実</p>	<p>(西市民病院)</p> <p>○安全管理ニューズレターを発行し、職員に周知することにより、有害事象の共有化、再発防止、予防の徹底を行う</p> <p>・医療事故が発生した場合には、公表基準に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○公表にあたっては、引き続き外部委員、西神戸医療センター及び先端医療センターを交えた医療安全会議によって、検討を行い、信頼性や透明性を確保する</p> <p>・感染管理医師、感染管理看護師を中心に、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンドを実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○専任の医師及び専従看護師を配置した感染管理室やリンクナーズを中心に、効率的な感染対策への取り組みを進める</p>	<p>トをみてもらうよう連絡を入れた。</p> <p>○RRS（院内救急対応システム） 患者の急変時に速やかに対応できるよう、救急病棟だけではなく一般病棟にも拡充して導入を実施した（平成27年6月には全病棟での導入が終了する予定）。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○安全管理ニューズレターの発行 安全管理ニューズレターを適宜発行（平成26年度実績：13回発行）し、有害事象の共有化、再発防止、予防の徹底を図った。</p> <p>・医療事故が発生した場合には、公表基準に基づき公表し、信頼性と透明性の確保に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療事故公表基準に基づいた公表 四半期に一度、市民病院群医療安全会議を実施し（5月、8月、11月、2月）、公表基準に基づき、医療事故について公表を行った（計4件）。 個別公表 中央市民病院（4月） 1件 包括公表 中央市民病院（6月） 1件 包括公表 中央市民病院（10月） 1件 包括公表 中央市民病院（1月） 1件</p> <p>・両病院において、感染管理医師、感染管理看護師を中心に、研修会や各種会議、院内メール等を活用し、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンド等を実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○平成26年度より感染管理専従看護師を2名に増員し、サーベイランスの強化を図った。定期的に感染発生率を算出し、感染の急な増加や予防策の実施状況のモニタリングを行うとともに、5月に心臓血管外科と協働して抗菌薬の使用手順や術前鼻腔スクリーニングの手順を作成し、運</p>				
---	---	---	--	--	--	--

<p>する。また、医療事故の再発防止や院内感染の予防対策が確実に実行できるように体制を強化する。</p>	<p>○ハイリスク耐性菌や感染症疾患が発症した場合は、早期の確実な対応（隔離・監視培養・感染経路の遮断）によりアウトブレイクを防止する</p>	<p>用を開始した。また、感染症科医師によるラウンド・コンサルテーションを毎日実施した。</p> <p>○手指衛生については、直接観察法と、手指消毒アルコール製剤の使用量を毎月観察し、手指衛生ルールの遵守率向上を図るとともに、各部署の環境ラウンドを年2回行い、感染を起こさない環境作りに取り組んだ。また、看護技術の統一を図るため、業者による説明会を取り入れ、7月に針が変更となったインスリンペンの説明会を実施した。さらに、感染リスクの高い看護ケア（オムツ交換と吸引手技）の手順が統一できていなかったため、見直しと標準化を図り、手順作成前の遵守率と手順作成・教育実施後の遵守率を調査することで、手技精度向上に取り組んだ。</p> <p>○感染防止対策地域連携 感染防止対策地域連携加算を算定し、加算1・加算2の病院とカンファレンス、相互評価を行った。また、院内ラウンドの年間計画を立案し、結果については感染防止委員会及び各部門へフィードバックした。</p> <p>○職業感染対策 針刺し・切創、血液・体液曝露等について、集計・分析を行い、フィードバックを実施した。リキャップによる針刺しについて発生時の状況の聞き取りを再度行い、リキャップ禁止、廃棄容器持参を周知した。また、職員の抗体価検査と各種ワクチン接種について、職員安全衛生委員会と年間計画を立案し、職員の職業感染対策に取り組んだ。</p> <p>○職員研修 全職員を対象に研修会や講演会等を定期的実施した。また、これまでの講演会のDVDをeラーニングで研修できるよう準備を開始した。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○引き続き、感染管理認定看護師（C N I C）を専従配置するとともに、感染制御医師（I C D）を室長とする感染管理室を中心に、感染防止の積極的な取り組みや、新興感染症対策等に取り組んだ。医師・看護師だけでなく、薬剤師・臨床検査技師も加わったI C Tによる院内ラウンドを週1回実施するとともに、手指衛生のタイミングラウンドを週2日実施した。また、厚生労働省の院内感染対策サーベイランス事業に参加し、国内の耐性菌検出における西市民病院の位置と傾向についての把握を行った。</p> <p>○I C Tニューズレターの発行 ニューズレターを発行し、院内感染に係わる情報や治療に必要な情報を発信する体制を整え、継続して最新の情報提供を行った（平成26年度実績：発行回数16回）。</p>				
--	---	--	--	--	--	--

	<p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品及び医療機器の安全確保のため、安全に関する情報の的確な提供・管理体制の充実を図る。また最新の医療薬学に基づいて患者中心の医療に沿った薬物治療を提供するとともに、職種間の連携を図りながら、医薬品適正使用の推進と医療の安全性の向上を図る <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○D I（医薬品情報）業務の充実を図り、院内への医薬品情報（医薬品安全性情報、副作用情報等）提供を行う。また、院内で発生した副作用情報については、引き続き迅速に情報収集し、医薬品医療機器総合機構（PMDA）への報告を行う 	<p>○感染防止対策加算，感染防止対策地域連携加算</p> <p>平成 25 年度に引き続き，感染防止対策加算・感染防止対策地域連携加算を算定し，加算 1・加算 2 の病院と年 1 回の相互評価，年 4 回のカンファレンスを行った。</p> <p>○職員感染対策</p> <p>麻しん患者の外来受診に伴い，麻しん排除に向けた積極的疫学調査ガイドラインに基づき，接触者のリストアップ，診療体制の整備等を実施した。また，抗体価基準値未満の職員に対して麻しんワクチン接種を 4 月に実施するとともに，引き続き，職員に季節性インフルエンザや B 型肝炎等のワクチン接種を実施し，罹患及び媒介となるリスクの低減を図った。さらに，採血室に採血ホルダー一体型翼状針を導入し，職員感染防止に取り組んだ。</p> <p>○職員研修</p> <p>感染制御のための知識・技術の周知を図るため，院内を対象とした研修会及び院外も対象に含めたオープンカンファレンスを実施した（平成 26 年度実績：実施回数：16 回，延参加人数：1,345 人）。また，必要に応じて部署ごとに講習会を実施した。</p> <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品情報管理室（D I 室）では，最新情報の収集・評価に努め，院内に最新の医薬品情報提供を行った。また，全病棟及び，手術室に専任の薬剤師を常駐させ医薬品の安全管理に取り組んだ。さらに，外来においても薬剤師外来を設け，患者指導や副作用マネジメントを実施した。 ・薬剤師外来（平成 26 年度実績） 内服薬確認外来 1F／2F＝15 件／838 件 デイサージャリー 1,904 件 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医薬品情報管理室（D I 室）では，PMDAメディアナビや各製薬会社からの最新情報の収集・評価に努め，必要に応じて病棟薬剤師や院内メール等を通じて情報提供を行った。また，院内スタッフからの医薬品に関する問い合わせに対応し，医薬品の適正使用を進めた。院内で発生した副作用情報については，薬事法に従い医師と協力して報告を行った（平成 26 年度実績：PMDAメディアナビからの最新情報の収集件数 235 件，院内スタッフからの医薬品に関する問い合わせ件数 2,278 件） 				
--	---	---	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の計画的更新及び保守による安全管理の徹底と医療機能の確保を図るとともに、薬剤師の病棟配置による医薬品処方、調剤及び与薬における安全管理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各病棟に薬剤師を常駐させ、入院患者に対する持参薬の確認等を行うことで、適正な薬物治療実施のサポートに努める。また、集中治療室、救急部門を含めた全病棟で薬剤管理指導のより一層の充実に努め、安全性の向上を図る。 手術室・デイスার্ジャーセンター等の中央診療部門において、麻薬、麻酔薬、向精神薬を管理し、麻酔医の負担軽減や適正な在庫管理を行う 外来がん患者に対する服薬支援等、薬剤師外来を活用した患者指導の充実に努めることで、医薬品投与に伴う安全性の確保に努める <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の計画的更新及び主要機器の保守等、安全管理の徹底と医療機能の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 全病棟に専任の薬剤師が常駐して病棟薬剤業務を継続実施し、入院患者の持参薬チェックは100%実施した。さらに入院前から患者の常用薬を確認し、後発医薬品との重複服用中止、手術前の抗凝固薬の中止等、安全な薬物治療に取り組んだ。土日を含む時間外に救急や一般病棟に入院された患者の持参薬についても当直薬剤師が確認して電子カルテに登録し、翌日病棟薬剤師が再度確認した。 手術室にサテライトファーマシーを設置して薬剤師が常駐し、麻酔薬、筋弛緩薬、向精神薬の入ったリアルタイム薬品管理装置をすべての手術室に導入し、常時薬品管理を行った。手術時に使用する麻薬は薬剤師が手術前にセットし、手術後に確認、回収することで医師の負担を軽減させ、医薬品の適正使用に寄与した。 従来薬剤師外来に加え、平成26年4月に新設されたがん患者指導管理料の算定を開始した。経口抗がん剤の薬剤師予診型外来とし、医師の診察前にアドヒアランス（患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること）の確認、副作用のモニターが可能となり、必要に応じて処方提案を行い、がん患者の経口抗がん剤治療を支援した（平成26年度がん患者指導管理料算定件数：393件）。 <p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の安全管理の徹底等 <p>主要な医療機器の保守契約等を徹底し、定期点検のほか、故障時の至急対応をするとともに、導入後10年を超える機器の更新を計画的に、また必要に応じて随時実施した。医療機器の計画的な更新を行うため、病院全体の医療機器全般において、故障や修理の状況等、臨床工学技士や医師から頻繁に情報を収集し、医療機能の確保を図った。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

関連指標 (平成 24 年実績値)			関連指標 (平成 24 年実績値)			関連指標						
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院	項目	平成 25 年 度実績	平成 26 年 度実績	前年度 比 (%)			
医療安全委員会等開催回数(回)	12	12	医療安全委員会等開催回数(回)	12	12	中央市民病院	医療安全委員会等開催回数(回)	12	12	100.0		
医療安全研修等実施回数(回)	17	5	医療安全研修等実施回数(回)	17	5	中央市民病院	医療安全研修等実施回数(回)	17	107	629.4		
インシデントレポート報告件数(件)	3,594	1,129	インシデントレポート報告件数(件)	3,594	1,129		インシデントレポート報告件数(件)	4,383	4,105	93.7		
うちアクシデントレポート報告件数(件)	14 (47) ※	8	うちアクシデントレポート報告件数(件)	14 (47) ※	8		うちアクシデントレポート報告件数(件)	43 (69) ※ ¹	31 (43) ※ ¹	72.1		
感染症対策委員会等開催回数(回)	12	12	感染症対策委員会等開催回数(回)	12	12		感染症対策委員会等開催回数(回)	12	12	100.0		
感染管理チームラウンド回数(回)	週1回(対象菌発生時にはその都度実施)	49	感染管理チームラウンド回数(回)	週1回(対象菌発生時にはその都度実施)	49		感染管理チームラウンド回数(回)	週1回※ ²	週1回※ ²	100.0		
感染管理研修等実施回数(回)	5	2	感染管理研修等実施回数(回)	5	2		感染管理研修等実施回数(回)	14	16	114.3		
※ () 書きは合併症(検査や治療に伴って、ある確立で不可避に生じる病気や症状)を含む。			※ () 書きは合併症(検査や治療に伴って、ある確立で不可避に生じる病気や症状)を含む。				西市民病院	医療安全委員会等開催回数(回)	12	12	100.0	
						医療安全研修等実施回数(回)		5	22	440.0		
						インシデントレポート報告件数(件)		1,485	1,630	109.8		
						うちアクシデントレポート報告件数(件)		4	8	200.0		
						感染症対策委員会等開催回数(回)		12	12	100.0		
						感染管理チームラウンド回数(回)		51	51	100.0		
						感染管理研修等実施回数(回)		5	16	320.0		
						※1 () 書きは合併症(検査や治療に伴って、ある確立で不可避に生じる病気や症状)を含む。						
						※2 対象菌発生時にはその都度						

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底

中期目標	市民病院としての使命を適切に果たすため、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、個人情報の保護や情報公開に関しては本市の条例に基づき適切な対応を行うなど、行動規範と倫理を確立し、社会的信用を高めることで、市民から信頼される病院となるよう努めること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 市民病院としての使命を適切に果たし、市民からの信頼を確保するために、職員一人ひとりが医療提供者であるという意識を持ち、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守を徹底する。 法令及び行動規範遵守の重要性を全職員が認識及び実践するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民からの信頼を確保するために、職員一人ひとりが医療提供者であるという意識を持ち、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守を徹底するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図る。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践することを目的として、職場内研修や新規採用職員研修・フォローアップ研修等の各階層における研修において、コンプライアンスやサービス事故防止策等を取り入れた研修を実施する ○監事や会計監査人による監査に適切に対応するとともに、情報セキュリティに関する取り組みを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンスの推進 平成 26 年度に発覚した中央市民病院薬剤部門システム開発にかかる収賄事件を受け、コンプライアンス推進本部の設置（12 月）等の対応を行うとともに、コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践するために、新規採用職員研修（4 月）、フォローアップ研修（10 月）、3 年次研修（1 月）、主任研修（1 月）、看護師長研修（2 月）において、コンプライアンスやサービス事故防止について研修を実施した。また、10 月から倫理規程遵守や情報セキュリティに主眼に置いた全職場研修を実施するとともに、全所属長に対しコンプライアンス推進室長（法人本部長）より倫理規程の遵守についての研修（10 月）、外部講師（弁護士）からコンプライアンスの重要性についての研修（11 月）をそれぞれ実施した。 ○監事監査及び会計監査人監査 平成 25 年度決算監査については、法令に基づく会計監査人による監査及び監事監査規程に基づく監事による会計監査等を実施し、6 月の理事会で報告を行った。決算監査において指摘を受けた医薬品のたな卸資産の差異等について対応を検討し、9 月に西市民病院経理係と法人本部財務チーム共同でプレ監査を実施し、期中監事監査（10 月、11 月）において監事に報告を行った（なお、平成 26 年度末の医薬品たな卸については、改善が認められた）。 ○第 1 回情報セキュリティ委員会（6 月）において監査実施計画を決定し、7 月に中央市民病院、法人本部、11 月に西市民病院において情報セキュリティ監査を実施した。また、情報セキュリティ監査の結果説明のため、第 2 回情報セキュリティ委員会を 3 月に開催した。さらに、西市民病院では医療情報委員会として情報セキュリティの強化を図るため、9 月に情報セキュリティ関係規程集を作成し、職員への周知を行った。 	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において、年度計画を順調に実施した。</p> <p>その他、評価できるポイントは以下のとおり。</p> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス推進本部を設置し、全職場研修や外部講師による研修を実施し、コンプライアンスの徹底を図ったこと。

【ウエイト付の理由】平成 26 年度計画重点項目

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

4 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

中期目標	患者のニーズを適切に把握し、インフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。）や診療等の待ち時間対策などを実施するとともに、誰もが利用しやすい病院となるよう環境を整備するなど患者及びその家族の立場を踏まえ、患者に対するサービスの向上に努めること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査や意見箱に寄せられた意見等により患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行い、ボランティアとも連携し、患者の視点に沿った病院づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査等の実施により患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行い、ボランティアとも連携し、患者の視点に沿った病院づくりを進める。 	<p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月から8月及び1月の年2回、患者満足度調査を実施し、引き続き、医療スタッフの評価（態度・言葉遣い）や病院の機能（ベッドサイド端末、セキュリティカード等）、立地（来院手段・駐車場）等に関する項目を掲載した。患者満足度（1月実施分）は入院で96.8%（前年度比0.8%減）、外来で92.8%（前年度比0.3%減）となった。また、意見箱を引き続き設置（平成26年度投稿件数：408件）するとともに、入院患者全員に「退院時アンケート」を実施して患者のニーズ把握等に取り組んだ。 患者満足度調査の結果や意見箱等のご意見を踏まえ、10月より外来部門と手術待合でBGMを流し、待ち時間環境の改善を図った。また、座面が高く座りやすいソファを外来に追加設置するとともに、入院パンフレットをより分かりやすいものに改訂し、1月より配布を開始した。 患者満足度向上の一環として、接遇月間マナーを決め、病院全体で取り組んだ。また、患者サービスの向上を図るため朗読や合唱の院内コンサートを合計9回実施し、来場者は延べ694人にのぼった。 ボランティア総会を12月に開催し、長時間活動していただいている個人及び団体に対して表彰を行うとともに、市民向けに病院の機能や地域医療連携について周知する一環として、かかりつけ医を持つことについても周知した。 <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者サービス向上委員会が中心となって、入院と外来に分けて患者満足度調査を2月に実施し、患者満足度は入院で95.3%（前年度比0.9%増）、外来で91.8%（前年度比3.4%減）となった。また、引き続き、意見箱の設置（平成26年度投稿件数：160件）による来院者からの要望・意見等の把握に取り組むとともに、全所属長が出席する業務経営会議（毎月開催）にて報告することで、各診療科・部門 	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において、年度計画を順調に実施した。</p> <p>その他、評価できるポイントは以下のとおり。</p> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査等を継続し、患者ニーズの把握に努めたこと。 医療通訳システムを継続したこと。

<p>・患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上を図る。</p>	<p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○潜在的な高リスク患者のスクリーニング等による安全確保や安心感の醸成、標準医療の実施による計画的な病床運用を目的とした入院前検査センターの機能を充実させる</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○引き続き、ボランティアとの意見交流会を定期的に実施し、患者ニーズの把握を行う</p> <p>・患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上を図る。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○携帯端末を用いた呼び出しシステムによる待ち時間の有効活用及び自動精算機による会計窓口での待ち時間の短縮を推進する。また、外来の待ち時間対策について引き続き検討する</p>	<p>にも情報共有し、改善を図った。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○標準医療の実施による計画的な病床運用を目的とした入院前検査センターを機能させるため、MSW・地域医療推進課看護師も、スクリーニング等によるリスクアセスメントを実施し、入院までに患者が問題解決できるよう支援した(平成26年度実績:介入件数10,736人中470人)。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○ボランティア調整会議を3か月に1回定期的に開催(平成26年度実績:4回実施)して意見交換を行い、患者ニーズの把握に取り組んだ。また、外来看護担当マネージャー及びフロアマネージャーが、ボランティアに参加された方々の意見を随時聴取することで、さらなる患者サービスの向上を図った。さらに、ボランティア活動に参加しやすいよう、ボランティア保険の保険料及び交通費の病院負担を平成26年度より開始した。</p> <p>・両病院において、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上に引き続き取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○外来患者待ち時間調査を5月と12月に実施し、現状の把握を行うとともに、待ち時間のより一層の短縮及び外来の混雑緩和に向け、駐車料金の自動精算機を増設に向け検討を進めた。携帯端末の活用により、待ち時間の有効活用やスムーズな受診が可能となり、患者サービスの向上を図った。また、外来から地域医療連携センターへ患者を案内する際に、迅速・円滑に案内できるよう、用件等を申し送る連絡票を新たに作成し、6月から使用を開始した。さらに、外来の混雑緩和策として、診察及び採血の受付開始時間を15分早め外来予約枠の見直しを実施するとともに、採血受付機の位置を変更し、足形のカーペットを設置して並び</p>				
--	--	---	--	--	--	--

	<p>○FAX予約については、地域医療機関の要望に沿えるよう受け入れの円滑化に努める。また、FAX予約患者はできるだけ待ち時間なく診察が受けられるよう優遇措置を徹底し、FAX予約の利用を地域医療機関に働きかける</p> <p>○市民健康ライブラリーの充実等、待ち時間を快適に過ごせるための対策を進める</p> <p>○入院食の内容の充実や選択食の認知度・選択率の向上に向けた取り組みを行い、入院食事アンケートの満足度の向上を図る</p>	<p>やすく、かつ通路を塞がないような工夫を行った。なお、病院創立 90 周年を迎え、記念事業としてパネル・年表を展示及びパンフレットの配布を行い、10 月より一般に公開した。</p> <p>○建物増築、既存施設改修の具体的検討 中央市民病院では、南棟・北棟増築、既存施設改修により、外来待合スペースの混雑緩和、外来診察室・説明室の拡張や救命救急センター拡充等による診療機能の拡充のほか、研修室・更衣室・仮眠室等を設置し、患者サービスの向上に取り組むとともに執務環境の改善を図ることとし、院内協議を進め基本計画の策定、詳細設計を行った。</p> <p>○FAX予約を引き続き推進し、予約患者の待ち時間優遇措置を徹底するとともに、ホームページや中央市民病院ニュース等を用いてFAX予約の利用を地域医療機関に働きかけた（平成 26 年度実績：FAX予約件数 13,410 件、前年度比 547 件増、4.3%増）。また、FAX予約の簡便な申込み（予約申込み時の記載の省略や仮予約）についても改めて地域医療機関に周知を行い、積極的な利用を呼び掛けた。</p> <p>○市民健康ライブラリーの充実等 待ち時間を快適に過ごせるよう、外来フロアにカフェやレストラン、1 階にテレビを設置するとともに、「市民健康ライブラリー」については、平成 25 年 8 月から約 1,000 冊の書籍・雑誌を取り揃え、患者・市民が自由に閲覧できるように充実を図り、待ち時間を快適に過ごせるよう取り組んだ。また、かかりつけ医探しの一助となるよう連携登録医情報を情報端末「タッチでワカル君」により提供した。</p> <p>○病院食の内容充実等の取り組み 朝食メニューの小鉢について、パン食と和食のそれぞれに合うメニューを検討し、充実に取り組むとともに、選択食の認知度向上を図るため、分かりやすい説明チラシを作成し、11 月より病棟コンシェルジュが説明を行った（平成 26 年度実績：選択率 4.0%、前年度比 1.5%増）。また、現在はベットサイド端末より患者が選択することとなっている選択食について、1 病棟で試行的に紙ベースでの配布及び回収を行い、選択率向上への取り組みについて検討を行った。さらに、入院食の味等の満足度の向上を図るため、献立の確認、検食時の確認、盛り付け時の確認、味の標準化のためのマニュアルの確認等を行うとともに、患者満足度調査及び食事摂取状況調査（栄養管理部）を実施し、患者満足度の把握に取り組んだ。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

	<p>○引き続き、小児病棟において、病棟保育士やボランティアを活用することにより、親子ともに入院生活を過ごしやすくする等、療養環境の向上を図る</p> <p>○栄養管理及びNST活動の充実・推進により、的確な時期に低栄養状態を改善させ、治療効果の向上とともに在院日数の短縮を図る。また疾病等に応じた栄養指導を行うとともに、栄養管理に関わるTNT（臨床栄養教育プログラム）修了医師やNST専門療法士の充実を図る</p> <p>(西市民病院)</p>	<p>○中央市民病院では、小児病棟でのボランティア活動の希望者が多くなっており、ボランティアコーディネーターが調整し、プレイルームやデイルームでのイベント等を毎月実施した。</p> <p>○NST 管理栄養士を専従とし、医師、看護師、薬剤師等から構成されるNST（コアチーム）1チームが、主治医よりコンサルテーションのあった低栄養患者に対して、カンファレンス・回診を週1回実施した（平成26年度実績：栄養サポートチーム加算算定412人、前年比75人減、15.5%減）。また、サテライトチームとして各病棟において管理栄養士が中心となり、コアチームと同様の職種が参加し、低栄養または低栄養が予測される患者を対象にカンファレンスを行った（平成26年度実績：サテライトチーム活動実績2,404人、前年度比244人減、9.2%減）。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○待ち時間対策 引き続き7月に外来患者待ち時間調査を実施し、待ち時間についての検証を行うとともに、紹介患者に対する外来診察の優先的な実施、外科診察室の空き時間を利用して整形外科の外来診療を行う等診療時間枠の柔軟な設定、外来採血開始時間の繰上げ（8:45→8:30）を継続し、待ち時間の軽減を図った。また、24年度に放射線一般撮影において機器を更新したほか、6月にはCTの増設を行い、検査時間および検査待ち時間の短縮に繋げた。</p> <p>○療養環境の維持・向上 毎週金曜日に病院周辺の美化清掃を引き続き実施したほか、月1回院長の院内巡回を実施し、療養環境の維持・向上に努めた。</p> <p>○安全かつ良好な入院食の提供 栄養サポートチーム（NST）において、勉強会及びコアメンバーミーティングを毎月1回ずつ開催し、栄養管理の観点からの治療向上に向けての検討を行った。また、医師がオーダーしやすいように医療情報端末で注意喚起する等、栄養管理室が中心となって、入院患者の既往歴に応じ、適切な特別食を積極的に提供できるよう対応するとともに、栄養サポートチーム加算の取得に積極的に取り組んだ（平成26年度実績：558件、前年度比43件減、7.2%減）。</p> <p>○病院食は治療効果を高め、退院後の参考にもなることから、特に</p>				
--	--	---	--	--	--	--

<p>・「患者の権利章典」の下，患者中心の医療を常に実践し，インフォームド・コンセントを徹底するとともに，引き続きセカンドオピニオンについても対応する。</p>	<p>○総合案内機能を継続し，どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス，患者が多い時のきめ細かい対応等を行う</p> <p>○院内コンサートや夏まつりの継続開催等による，やすらぎの提供のほか，患者サービスの向上を図る</p> <p>・「患者の権利章典」の下，患者中心の医療を常に実践し，インフォームド・コンセントを徹底するとともに，引き続きセカンドオピニオンについても対応する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○患者からの依頼に応じ，引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する</p>	<p>特別食を喫食している入院患者への病棟での栄養指導に取り組んだ。外来患者に対しても指導機会の増加を図るため，平成 25 年度に予約枠を週 22 枠から 41 枠に増加させ，平成 26 年度からは新たに小児食物アレルギーに対する指導用の枠も 1 枠増加させた。</p> <p>○献立に制限の大きい嚥下食について，新たな材料を採用することで，盛り付けの工夫を行い，視覚的な改善を図った。また，新たな献立の導入も行い，患者が食べることに楽しみを持てるよう取り組みを進めた。</p> <p>○総合案内機能の継続 西市民病院において，平成 22 年度より配置した外来看護担当マネージャー（外来患者の診察に関するアドバイス等を実施）及びフロアマネージャー（案内のほか軽微な苦情にも対応）を継続配置し，また，平成 24 年度より医事課職員 1 名を増員して，苦情や質問にきめ細かく対応できるよう体制を強化し，総合案内機能の充実を継続した。</p> <p>○院内コンサート等の開催 入院患者やその家族等を対象として，合唱や演奏会等の院内コンサートを 6 回開催し，来場者は計約 400 名となった。また，7 月には恒例の夏祭りを開催し，入院患者及びその家族約 350 名が参加した。さらに，患者へのやすらぎの提供と病院の魅力向上のため，ボランティア等の協力を得ながら，6 階庭園の緑化リニューアルを行うとともに，1 階周りの植栽についても継続的に管理を行った。</p> <p>・両病院において，「患者の権利章典」の下，患者中心の医療を常に実践し，インフォームド・コンセントを徹底するとともに，引き続きセカンドオピニオンについても対応した。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○患者が十分納得して治療を受けることができるよう，病状，治療内容，診断や今後の治療方針について，引き続き，セカンドオピニオンについて対応した（平成 26 年度実績：224 件，前年度比 13 件減，5.5%減）。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>・患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行う。</p>	<p>・患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○市が整備する医療通訳派遣制度に参画し、外国人患者にとっても安心かつ適切な医療サービスの提供に取り組む</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○案内表示の多言語化表記に加えて、患者へ配付する印刷物やホームページ等についても、多言語化対応を継続していく</p> <p>○一般外来の各フロアに外国語に対応できるスタッフを引き続き配置する</p>	<p>・患両病院において、患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展等による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医療通訳派遣制度</p> <p>両病院において医療通訳派遣制度の試行的運用を継続し、外国人患者にとっても安心かつ適切な医療を受けられるよう取り組んだ。</p> <p>《平成26年度医療通訳派遣実績》</p> <p>中央市民病院：中国語48件、英語21件、ポルトガル語7件、スペイン語4件、ベトナム語2件、ドイツ語1件、韓国語1件</p> <p>西市民病院：ベトナム語112件、ポルトガル語1件</p> <p>また、1月からは緊急時でも医療通訳を利用できるよう、予約の必要のない電話での医療通訳システムを新たに導入した(平成26年度実績：なし)。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○案内表示の多言語化(英語、中国語、韓国語)を行っており、患者に配布する印刷物についても、外来パンフの多言語化(英語、中国語、韓国語)を実施した。また、平成25年7月にリニューアルしたホームページでは、英語、中国語、韓国語のページについても一新し、多言語化に対応した。</p> <p>○平成25年10月から外国語に対応できるスタッフを外来に配置した(英語、中国語、仏語)。また、対応可能な外国語のピンバッジ(国旗)を制服に着けることで、患者が識別できるようにした。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標					
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院		項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度差	
患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	99	89.3	患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	99	89.3	中央市民病院	患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	97.6	96.8	△0.8	
患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	95.6	89.4	患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	95.6	89.4		患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	93.1	92.8	△0.3	
入院食事アンケート結果(%)(満足+やや満足)	80.4*	78.5*	入院食事アンケート結果(%)(満足+やや満足)	80.4*	78.5*		入院食事アンケート結果(%)(満足+やや満足)	78.0	73.9	△4.1	
ボランティア登録人数(人)	184	33	ボランティア登録人数(人)	184	33		ボランティア登録人数(人)	207	234	27	
ボランティア活動時間(時間)	690	136	ボランティア活動時間(時間)	690	136		ボランティア活動時間(時間/月)	667	693	26	
セカンドオピニオン受付数(件)	200	9	セカンドオピニオン受付数(件)	200	9		セカンドオピニオン受付数(件)	237	224	△13	
※ 患者満足度調査結果より(中央市民病院:平成 25 年 8 月実施,西市民病院:平成 25 年 2 月実施)			※ 患者満足度調査結果より(中央市民病院:平成 25 年 8 月実施,西市民病院:平成 25 年 2 月実施)				西市民病院	患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	94.4	95.3	0.9
								患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	95.2	91.8	△3.4
								入院食事アンケート結果(%)(満足+やや満足)	82.5	85.5	3.0
								ボランティア登録人数(人)	31	31	0
						ボランティア活動時間(時間/月)		138	136	△2	
						セカンドオピニオン受付数(件)		2	1	△1	
※西市民病院の患者満足度調査結果及び入院食事アンケート結果は、全体の評価としての数値に変更した											

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(2) 市民及び患者へ開かれた病院（市民への情報発信）

中期目標 市民及び患者に対し，市民病院の役割，機能などについてホームページ等により分かりやすく情報提供を行うとともに，健康づくりのための情報発信を積極的に行うことにより，市民及び患者へ開かれた病院になるよう努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・両病院の特色や疾患の治療方針，地域医療機関との連携状況，さらには急性期病院であるといった市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため，広報誌やホームページを充実する等，情報を積極的に発信する。</p> <p>・患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や各種教室及び患者サロン等の充実を図り，全ての市民の健康向上のため，市とともに健康づくり施策に取り組む。</p>	<p>・市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため，広報誌やホームページを充実する等，情報を積極的に発信する。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○市民への情報提供を強化するために，ホームページの充実や適宜更新に努めるとともに，患者向け広報誌を定期的に発行する等市民に適切な情報をわかりやすく提供する</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」を発行し，診療情報や新しい取り組みについて情報を提供する</p> <p>・患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や各種教室及び患者サロン等の充実を図り，全ての市民の健康向上のため，市とともに健康づくり施策に取り組む。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○がんサロン開催やピアサポートの導入に取り組む等，がん患者支援への強化を図る</p>	<p>・両病院において，市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため，広報誌やホームページ等を活用して情報を積極的に発信した。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○平成25年7月に全面リニューアルを実施したホームページにおいて，新たな情報があれば，速やかに更新手続きを行い，患者等への情報提供に取り組んだ。また，患者向け広報誌である「しおかぜ通信」を年3回発行し，最新の医療情報等をわかりやすく提供した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」を年2回発行し，西市民病院の診療情報や医療スタッフの役割，新しい取り組み等について情報を提供した。また，平成27年度からは発行回数を3回に増やし，多色印刷を行って，より親しみやすいものとするを広報委員会で決定した。なお，ホームページについても，引き続き随時新しい情報の追加・更新を行い，市民等に分かりやすい情報の提供に取り組んだ。</p> <p>・市がん対策推進条例の施行を踏まえ，情報交換や対策について協議を行う庁内関係者会議が開催（4月，10月，1月）され，機構からも参画するとともに，他都市の取り組み状況を調査するため，市健康部及び法人本部，中央市民病院事務局と合同で視察を実施した（6月，神奈川県）。</p> <p>具体的な取り組み (中央市民病院)</p> <p>○他院での取組状況について視察を実施する等，情報収集に取り組み，3月に中央市民病院のがん患者やその家族を対象とした「がんサロン」を試行的に開催した。また，胃がん，肺がん，がん予防，血液がんをテー</p>	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において，年度計画を順調に実施した。</p> <p>その他，評価できるポイントは以下のとおり。</p> <p>中央市民病院</p> <p>・「がん市民フォーラム」や「がんサロン」を開催する等，市民への広報，がん患者やその家族の支援に取り組んだこと。</p>

○糖尿病教室や消化器病教室等各種患者及び市民向け教室の開催と充実に取り組む

(西市民病院)

○市民公開講座や患者向け教室において、1つのテーマに対し、医師やコメディカルがそれぞれの立場で講師を行い、患者へよりきめ細かい情報提供を行う

マにしたがん市民フォーラムを4回開催し、計744人が参加した。さらに、2月よりがん相談室に相談員が常駐し、がん患者やその家族からの相談に応じる「がん相談室開放日」を設け、相談支援を行った（平成26年度実績：2月4回、3月4回）。

○教室の開催

入院患者、市民に各疾患について、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士がチームを組み、年間31回（前年度比1回増、3.3%増）の教室を開催した。また、年間参加者総数は951名となった。

《主な教室》

糖尿病教室 8回 209人、心臓病教室 9回 228人
腎臓病教室 8回 233人、消化器病教室 6回 281人

(西市民病院)

○各種患者向け教室

患者家族や市民も対象として、医師・看護師・コメディカルが中心となり、年間26回（前年度比1回増、4.0%増）開催した。また、年間参加者総数は779名となった。

《主な教室》

禁煙教室 10回 27人、糖尿病教室 10回 534人
市民公開講座 6回 218人

また、「がん看護相談室」の毎日実施を継続し、がん患者及び家族に対する、がん治療への支援を積極的に行った。（再掲）

関連指標（単位：回、平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
各種教室等開催回数	28	25
	(心臓・糖尿病・腎臓・消化器病)	(糖尿病・禁煙・市民公開講座)
市民向け広報発行回数	しおかぜ通信 2	虹のはし 1
ホームページアクセス回数	3,420,291	121,915

関連指標（単位：回、平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
各種教室等開催回数	28	25
	(心臓・糖尿病・腎臓・消化器病)	(糖尿病・禁煙・市民公開講座)
市民向け広報発行回数	しおかぜ通信 2	虹のはし 1
ホームページアクセス回数	3,420,291	121,915

関連指標

(単位：回)

	項目	平成25年度実績	平成26年度実績	前年度比 (%)
中央市民病院	各種教室等開催回数	30 ^{※1}	31 ^{※1}	103.3
	市民向け広報発行回数	しおかぜ通信 3	しおかぜ通信 3	100.0
	ホームページアクセス回数	3,404,402	3,239,976	95.2
西市民病院	各種教室等開催回数	25 ^{※2}	26 ^{※2}	104.0
	市民向け広報発行回数	虹のはし 2	虹のはし 2	100.0
	ホームページアクセス回数	150,864	179,422	118.9

※1 心臓、糖尿病、腎臓、消化器病教室

※2 糖尿病、禁煙教室、市民公開講座

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

中期目標	地域医療連携体制の構築に資するため、地域医療機関との連携及び協力体制を更に充実させ、医療機能や役割に応じて患者の紹介（地域医療機関からの患者の紹介）を受け、又は逆紹介（地域医療機関に対する患者の紹介）を行い、病病・病診連携（市民病院が行う地域の病院及び診療所との連携）を推進すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・地域医療機関のニーズを把握し、両病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行うとともに、地域連携パスの活用、持参薬情報の整理と共有等、地域医療機関との連携をより一層推進する。</p> <p>・オープンカンファレンスや研修会の開催、講師派遣等により顔の見える地域連携を実現する。</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>・高度医療機器の共同利用促進や連携登録医とのさらなる連携等、地域医療機関との協力体制を充実するとともに、後方支援病院の確保に努める。</p>	<p>・地域医療機関のニーズを把握し、両病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行う等、地域医療機関との連携をより一層推進する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○患者が「かかりつけ医」を持つようにするため、「かかりつけ医相談窓口」による患者へのサポート体制を継続する</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・連携登録医とのさらなる連携や高度医療機器の共同利用促進等、地域医療機関との協力体制を充実するとともに、後方支援病院の確保に努める。また、介護施設や福祉関係機関との情報交換も積極的に行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○地域医療連携センターにおいて、入院前検査センター等と連携して、患者が円滑かつ安心な治療を受けられるよう支援を行う</p>	<p>・地域医療機関のニーズを把握し、両病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行う等、地域医療機関との連携をより一層推進した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○中央市民病院ではかかりつけ医を持つことについて、市民向けの啓発を行政に働きかけるとともに、患者向けに外来待合でのポスター掲示等により勧奨し、かかりつけ医相談窓口では年間1,472件の相談を受けた。西市民病院においても平成24年度から毎日実施している「かかりつけ医相談窓口」を継続し、かかりつけ医を持ってもらうための相談体制を継続した。また、関係文書作成及び地域医療推進課業務の支援のため、平成24年度に導入した地域医療連携システムの活用を継続した。</p> <p>【中央市民病院】</p> <p>・平成24年度より導入した退院支援看護師とMSWのペア構成に基づいたチーム制を継続し、円滑な退院支援及び後方連携の強化を図った。さらに、退院支援看護師、MSW（午前中のみ、平成25年5月から）の救急部門への土曜日対応を行い、週明けのスムーズな関わりに取り組んだ。</p> <p>・地域医療支援事業運営委員会を8月に開催し、中央市民病院の地域医療支援病院としての事業運営について外部委員も交えて議論するとともに、2月に市内の診療所を対象に「病診連携アンケート」を実施した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○入院前検査センターにおいてリスクアセスメントを行い、入院当初から退院後の療養についての相談等を受け支援を行った（平成26年度実績：入院前検査センターからの相談依頼受付数470件）。</p> <p>○6月から退院支援業務にタブレット端末を導入し、患者・家族への端末画面によるわかりやすい説明、病棟等での迅速な情報収集等に効果を発揮した</p>	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において年度計画を順調に実施した。</p> <p>その他、評価できるポイントは以下のとおり。</p> <p>共通</p> <p>・市内医療従事者との懇話会の開催や、地域医療機関との積極的な情報交換、医療機関向けのアンケートの実施等、地域医療連携を推進したこと。</p>

	<p>○神戸市民間病院協会や、財団法人 神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院をはじめ地域の医療機関との情報交換を密にし、急性期及び亜急性期の患者の転院や後方連携の強化に取り組む</p> <p>○大腿骨頸部骨折や脳卒中等急性期から回復期へのリハビリテーションについては、地域連携パスを活用し、患者や家族のニーズを踏まえたうえで、できるだけ早期に継続したリハビリテーションが実施できるよう地域との連携を密に機能回復を図る。また、5大がんやその他の疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め、地域の医療機関との連携を図る</p> <p>○高度医療に対応した最新医療機器の導入等により、高度医療機器の共同利用等の促進に取り組む患者にやさしい検査・治療を提供する</p>	<p>(平成26年度実績:退院支援実績3,364件,転院2,102人,自宅退院1,028人,施設130人)。また、外来からの他院入院紹介(転送)も実施した(平成26年度実績:384人)。</p> <p>○救急搬送患者等の地域連携 中央市民病院において、救急患者の早期転院を図る「救急搬送患者地域連携」による病病連携を行った(平成26年度実績:救急搬送患者地域連携による転院144件,登録医療機関数64機関)。また、神戸市民間病院協会加盟病院への急性期、回復期、慢性期転院については患者情報シートを活用し、連携強化と円滑な転院を図った。さらに、病病連携の強化のため、中央区医師会の呼びかけで区内の病院の地域連携部門の連絡調整や情報交換の場として、神戸市中央区地域医療連携部門連絡協議会が設立され、中央市民病院も世話人に加わるとともに11月と3月の協議会に参加した。</p> <p>○ポートアイランド病院等との連携 一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院と平成23年9月より隔月で開催している連携会議を継続実施し、中央市民病院の主な後方病院として、両病院の診療科医師同士の個別協議の内容や具体的な紹介実績、事例を挙げながら協議を行った(平成26年度実績:年間転院支援実績228件)。また、神戸通信病院についても主な後方支援病院として病病連携を図るため、中央市民病院から呼吸器内科医師を派遣した。</p> <p>○大腿骨頸部骨折や脳卒中地域連携パスの積極的な活用を行った。大腿骨頸部骨折患者78人のうち地域連携パスで転院した患者は16人(前年比3人増,23.1%増)、脳卒中患者740人のうち地域連携パスで転院した患者は238人(前年比22人増,10.2%増)となった。また、がん連携パスについても積極的に活用を図った。さらに、8月より人工関節手術患者等の退院を促進するため、後方の回復期リハビリテーション病院等と協議を行い、人工関節パスの期間を3週間から2週間へ短縮した。</p> <p>○高度医療機器等の共同利用(FAX検査予約) CT, MRI等(骨シンチ, ガリウムシンチ, 骨塩定量, 脳波, 心エコー, 肺機能検査, 上部消化管内視鏡検査, 腹部エコー, 胎児超音波検査)の検査についてFAXによる予約申込を受け付け、地域医療機関の利用を図った。(平成26年度実績:地域医療機関からのFAX検査予約503件, 前年</p>				
--	--	---	--	--	--	--

<p>・地域医療における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催する。</p>	<p>○地域医療機関との顔の見える連携促進を図り、新たな連携先を開拓する</p> <p>○こども家庭センターとの連携の下、虐待疑い事例に対する院内外の連携について具体的な手順を検討する等、子供の安全を守る</p> <p>・地域医療水準の向上を図り、地域における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○連携登録医に対しては、病院の情報を積極的に提供し連携しやすい環境を作るとともに、顔の見える連携の強化を図り、地域連携懇話会を開催する</p>	<p>度比 40 件増, 8.6%増)</p> <p>○各科の協力のもと、病院の機能や医師を紹介する「病院機能案内」の早期発行に取り組み、各区医師会等の協力を得て、地域の医療機関に周知するとともに、病院の取り組みやカンファレンスの情報を地域医療機関へ発信するため「中央市民病院ニュース」を発行した。また、新規開院の医療機関にFAX予約や緊急連絡用のホットライン（脳卒中・胸痛・産科）等の案内を送り、患者紹介を呼びかけた。さらに、返書管理システムに患者カルテ起動機能を追加する等の改善を行い、各診療科・医師による返書管理の利便性の向上に努めた。</p> <p>○虐待事例検討会を隔月で開催し、こども家庭センターとの連携のもと、虐待疑い事例に対する院内外のスムーズな連携及び手順の検討を行った。なお、こども家庭センターへの通報の判断については児童虐待防止チーム（CAPS）で迅速に対応した（平成 26 年度実績：報告症例件数 315 件、うち、こども家庭センターへの通報件数 13 件、こども家庭センターからの通報による受診依頼件数 38 件）。</p> <p>・地域医療水準の向上を図るとともに、地域における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○連携登録医の登録</p> <p>中央市民病院では、圏域内の地域医療機関を対象に連携登録医を募集し、登録を行った（平成 27 年 3 月末現在：登録医療機関数 942 機関、登録医数 1,171 人）。連携登録医へはEメールで講演会やカンファレンス開催のお知らせ等の情報を発信し（平成 26 年度実績：Eメール発信件数：73 件）、緊密なコミュニケーションに取り組んだ。さらに、紹介・逆紹介の促進や患者のかかりつけ医探しの利便性向上のため、平成 27 年 4 月より連携登録医の一覧をホームページに掲載する方針を決定した。</p> <p>○地域連携懇話会</p> <p>連携登録医等の市内医療従事者との懇話会を 11 月に開催し、地域連携の強化を図った（参加者数 院内 102 人、院外 137 人）。</p> <p>○地域医療機関との情報・意見交換</p> <p>地域医療機関への訪問や来院時の面談を積極的に行い、地域との情報交換や連携強化を効果的に推進した（平成 26 年度実績：地域医療機関への訪問 105 件、地域医療機関の来院 97 件）。</p>				
---	---	--	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <p>・各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り、信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。</p>	<p>○オープンカンファレンス等の研修会を引き続き開催し、地域医療機関等にとって有用な情報を提供する等内容の充実に努め、院外からの参加の促進を図る</p> <p>○病診病連携の推進や地域の医療従事者の交流を図るため、引き続き医師会と協力して学術集談会を開催する</p> <p>○地域の医療従事者を対象とした研修会等へ積極的に講師を派遣する</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け、地域医療推進課が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図る</p> <p>○診療科部長等とともに、より目的を明確化して地域医療機関訪問を行うことによって、さらなる連携強化に取り組む</p>	<p>○地域合同カンファレンス等の開催</p> <p>中央市民病院においては、地域の医療従事者との合同カンファレンスを通じて、地域医療機関とのさらなる連携強化を図った（平成 26 年度実績：実施回数 45 回、院外参加者数 1,351 人）。また、「リハビリテーションの質の向上を目指して」と題してリハビリテーション地域連携講演会を7月に開催した（院外参加者数 377 人）。</p> <p>○病診病連携学術集談会</p> <p>神戸市医師会、中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター（当番病院）、神戸市との共催で8月28日に開催した（参加者 271 人）。テーマ：「2025 年に向けて〈地域包括ケアシステム〉と医療の連携～神戸市では～」</p> <p>○中央市民病院では、地域の医療従事者を対象とした研修会等に積極的に講師を派遣し、地域の医療従事者の質向上に取り組んだ。</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○地域医療支援病院</p> <p>地域医療支援病院としての役割の継続に向け、地域医療推進課が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図るための方策について精力的に検討し、業務経営改善委員会、地域医療委員会等において地域医療支援病院の承認継続に向けた取り組みを議題として取り上げ議論した。また、紹介率の向上に向け、FAX 予約をより円滑に推進するための体制づくりに取り組んだほか、受診の際に、かかりつけ医の紹介状をできるだけ持参してもらえよう患者・家族にPRするチラシを作成し配布した。</p> <p>○地域医療機関訪問</p> <p>地域医療機関（病院や医院）との役割分担や機能連携を明確にするため、地域医療部長や各診療科長等による地域医療機関への訪問を行った（平成 26 年度実績：25 件／院長代行 3 件、副院長 1 件、糖尿病内分泌内科部長代行 12 件、泌尿器科部長 9 件）。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

○各診療科・部門については、積極的にオープンカンファレンスを実施し、地域医療機関との連携強化に取り組む

○地域医療連携をより密接にはかる目的で、連携医との交流会を年1回実施する

目標値（単位：％，実績値は平成24年度・目標は毎年度）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
紹介率	54.4	55.0以上	43.2	45.0以上
逆紹介率	83.5	84.0以上	62.6	65.0以上

※紹介率，逆紹介率は地域医療支援病院算定式によるもの

○オープンカンファレンス
西市民病院において、各診療科、チームにおいて積極的にオープンカンファレンスを実施し、地域医療機関との関係を密にすることで、連携の強化を図った（平成26年度実績：34回実施，前年度比3回増，9.7%増）。

○連携医との交流
地域医療連携充実のため、2年に1度近隣の医療機関に対して実施している「病診病連携アンケート」を11月に実施し、さらなる地域医療連携の充実に向けた検討を行った。また、連携の強化を図るため、3区（長田・兵庫・須磨）医師会との交流会を実施してきたが、地域医療支援病院の名称承認を受け、平成25年度より新たに「地域連携のつどい」として開催しており、平成26年度も2月に開催した（参加者：43医療機関126名，うち院外参加者69名）。

○地域医療支援病院の名称承認を受け、連携医向けの冊子「ご利用の手引き（連携医用）」を新たに作成し、7月より配布を開始した（平成27年3月末現在：登録医療機関数387機関，登録医数488人）。

目標値（単位：％）

	項目	平成26年度目標値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	承認要件との差
		中央市民病院	紹介率	55.0 (50.0) 以上	56.8
	逆紹介率	84.0 (70.0) 以上	88.3	111.8	41.8
西市民病院	紹介率	45.0 (50.0) 以上	44.5	41.7	△8.3
	逆紹介率	65.0 (70.0) 以上	73.9	91.3	21.3

※ 紹介率，逆紹介率の平成25年度実績値及び平成26年度目標値は、旧基準による地域医療支援病院算定式によるもの（紹介率＝（紹介患者数＋救急患者数）／初診患者数，逆紹介率＝逆紹介患者数／初診患者数）

※ 紹介率，逆紹介率の平成26年度目標値（ ）内及び平成26年度実績値は、新基準による地域医療支援病院算定式によるもの（紹介率＝紹介患者数／初診患者数，逆紹介率＝逆紹介患者数／初診患者数）

関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標				
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院		項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度比 (%)
地域連携パス適用患者数※ (人)	264	66	地域連携パス適用患者数※ (人)	264	66	中央市民病院	地域連携パス適用患者数※ (人)	292	349	119.5
地域医療機関向け広報発行回数	6	12	地域医療機関向け広報発行回数	6	12	中央市民病院	地域医療機関向け広報発行回数 (回)	6	4	66.7
オープンカンファレンス開催回数 (回)	34	33	オープンカンファレンス開催回数 (回)	34	33	中央市民病院	オープンカンファレンス開催回数 (回)	43	45	104.7
オープンカンファレンス院外参加者数 (人)	801	1,163	オープンカンファレンス院外参加者数 (人)	801	1,163	中央市民病院	オープンカンファレンス院外参加者数 (人)	1,604	1,351	84.2
※ 診療報酬上評価されているもの			※ 診療報酬上評価されているもの			西市民病院	地域連携パス適用患者数※ (人)	62	68	109.7
						西市民病院	地域医療機関向け広報発行回数 (回)	12	12	100.0
						西市民病院	オープンカンファレンス開催回数 (回)	31	34	109.7
						西市民病院	オープンカンファレンス院外参加者数 (人)	877	720	82.1
						※ 診療報酬上評価されているもの				

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域医療連携の推進

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

中期目標	本市において構築を予定している地域包括ケアシステム（高齢者が自らが住み慣れた地域でなじみの人とのつながりを大切にしながら安心して生活を続け、及び自らのニーズに応じた住宅に居住することを基本とした上で、高齢者の生活上の安全・安心・健康を確保するために、高齢者に対して医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスを日常生活の場で適切に提供できるような地域での体制）に、市民病院の機能に応じて協力して取り組み、市民病院と地域の間における診療体制やケアの連続性を重視し、市民病院を退院した患者が安心して在宅で生活を送れるよう支援すること。その際、本市と協力し、医療、保健及び福祉の連携を図ること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 患者が退院から在宅へと円滑に移行できるように、入院初期から積極的に退院支援を行う。 患者が安心して地域で療養できるように、地域の在宅診療医や介護施設、訪問看護ステーション等との連携や支援の強化、急変時の受け入れ体制の強化等を行い、神戸市における地域包括ケアシステムの中での市民病院としての役割を果たす。 <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、早期に退院ができるよう患者の状況に応じた支援を行う。特に、後方支援病院を経由して在宅復帰を目指す患者が在宅へ円滑に移行できるよう、回復期リハビリ病棟を設けている病院と連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者が安心して地域で療養できるように、入院初期からの退院支援及び地域の在宅診療医等との連携の強化に努める。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、退院前カンファレンス等を積極的に行って円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行う。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等との連携を図り、在宅看護交流セミナーを積極的に開催する ○後方連携支援業務に従事する薬剤師を配置し、転院時等の薬剤情報の円滑な提供に努めることで、後方支援体制の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 両病院において、患者が安心して地域で療養できるように、入院初期からの退院支援及び地域の在宅診療医等との連携の強化に取り組んだ。 <p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、退院前カンファレンス等を積極的に行って円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○退院前カンファレンスの開催（訪看・ケアマネジャー対象 44 回、医師対象 15 回）、各区でのネットワーク会議や在宅医療推進協議会等への参加、在宅看護交流セミナーの開催（7 月、9 月、11 月、2 月、参加者総数 97 名）を積極的に行うことで、居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の地域の在宅医療・介護の担い手との連携強化に取り組んだ。 ○地域医療連携センターに薬剤師を 1 名配置し、転院先へのアレルギー・副作用、持参薬・常用薬、転院直前の処方等の薬剤情報提供を西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、マリナーズ厚生会ポートアイランド病院、神戸マリナーズ厚生会病院を対象に実施した（平成 26 年度実績：薬剤情報提供書作成件数 463 件、薬剤に関する相談応需 123 件、疑義照会 122 件）。 	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において年度計画を順調に実施した。</p>

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅支援室を中心に地域の訪問看護ステーションの後方支援機能を充実させる等、地域との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院、地域医療の受け皿かつ砦となる病院を目指す。 <p>関連指標（単位：件，平成24年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整実施件数</td> <td>1,416</td> <td>828</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	退院調整実施件数	1,416	828	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	1	<p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅支援室を中心に地域の訪問看護ステーションの後方支援機能を充実させる等、地域社会との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院、地域医療の受け皿かつ砦となる病院を目指す。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認定看護師が訪問看護ステーションの訪問看護師と同行訪問する等、在宅支援室が中心となって連携を密にすることで、在宅医療の支援を図る ○介護士、介護支援専門医、訪問看護師、理学療法士、作業療法士等と一緒に参加できるテーマのオープンカンファレンスを開催することで、病介護、病看護連携を図る <p>関連指標（単位：件，平成24年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整実施件数</td> <td>1,416</td> <td>828</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	退院調整実施件数	1,416	828	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	1	<p>【西市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺地域での高齢化率の上昇も踏まえ、在宅医療を進めていくため、平成25年度より地域医療部に「在宅支援室」を設置するとともに、在宅支援室の運営基準を検討する在宅支援委員会を設置した。 神戸市看護大学の地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）と連携し、在宅医療を支援するにあたって西市民病院に求められる役割等について、地域の訪問看護ステーションや保健所等へのニーズ調査を実施した。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問看護ステーションからの要請により、認定看護師等が訪問看護師に同行して技術支援を行う等、連携を深めるとともに、在宅医療の支援を図った。 ○病介護、病看護連携 退院前カンファレンスを開催するとともに、介護施設、訪問看護ステーションを中心とした地域医療機関を対象に、「在宅医療支援交流会」を4回開催し、退院患者の情報交換を行う等、一層の地域医療連携の推進を図った。 <p>関連指標（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成25年度実績</th> <th>平成26年度実績</th> <th>前年度比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央市民病院</td> <td>退院調整実施件数</td> <td>1,446</td> <td>1,485</td> <td>102.7</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">西市民病院</td> <td>退院調整実施件数</td> <td>964</td> <td>1,127</td> <td>116.9</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		項目	平成25年度実績	平成26年度実績	前年度比 (%)	中央市民病院	退院調整実施件数	1,446	1,485	102.7	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0	0	西市民病院	退院調整実施件数	964	1,127	116.9	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	2	0	0				
項目	中央市民病院	西市民病院																																													
退院調整実施件数	1,416	828																																													
専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	1																																													
項目	中央市民病院	西市民病院																																													
退院調整実施件数	1,416	828																																													
専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	1																																													
	項目	平成25年度実績	平成26年度実績	前年度比 (%)																																											
中央市民病院	退院調整実施件数	1,446	1,485	102.7																																											
	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0	0																																											
西市民病院	退院調整実施件数	964	1,127	116.9																																											
	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	2	0	0																																											

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 優れた専門職の確保

中期目標 市民病院としての役割を果たすために優秀な医師，質の高い看護師など医療職を始めとする人材の採用方法を工夫し，優れた専門職の確保に努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・すべての職種について，新卒採用のみならず，中途採用，外部登用，定年退職後の再雇用等，柔軟な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材を確保する。</p>	<p>・すべての職種について，新卒採用のみならず，中途採用，外部登用，定年退職後の再雇用等，柔軟な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○全国的な看護師不足の状況を踏まえ，県内及び県外において採用試験，採用説明会への参加，大学・専門学校等の訪問を実施，また毎月中途採用試験の実施や平成25年度に拡充した修学資金貸付制度を効果的に運用する等の取り組みを行い，看護職員の確保を図る</p> <p>○柔軟な採用形態を用いて，引き続き，専門的な知識や経験を有する職員の確保に努める</p>	<p>・すべての職種において，様々な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材の確保に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○看護職員確保対策</p> <p>引き続き採用説明会への積極的参加，募集広告の掲載に加え県内外の大学や専門学校等への訪問を実施した（平成27年4月採用対象：合同説明会35回，学校訪問18回）。また，平成26年度も市外での採用選考に加え，4月以降は毎月中途採用試験を実施する等，看護職員の確保に取り組んだ結果，年度途中採用者が12名，平成27年4月採用者は198名となった。また，平成25年度に拡充した修学資金貸付制度（定員100名）について，積極的なPRに取り組み，85名の貸付を決定した（1次募集：29名，2次募集：56名）。さらに，6月に看護職員の借上寮の入寮期限を，従来の4年11か月から7年11か月に延長し，入寮者の利便性の向上を図った。</p> <p>○経験者の採用</p> <p>豊富な知識や経験を生かし，即戦力となってリーダー的な役割を担える人材を求めため，幅広い職種において病院等の勤務経験者を対象とした採用選考を継続実施した。</p> <p>《主な採用選考》</p> <p>薬剤師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，臨床工学技士，管理栄養士，治験コーディネーター（CRC），病院業務員，事務職員課長級，事務職員係長級，事務職員（8月採用，1月採用，平成27年4月採用）</p> <p>○機構固有職員の再雇用制度</p> <p>平成26年度末に初めて機構固有職員が定年退職を迎えるにあたり，雇用と年金の円滑な接続を図る観点から，神戸市及び国立病院機構の再任用制度に準じた機構固有職員の再雇用制度を新たに構築した。</p> <p>○救急救命士のパート職員の賃金について，実務経験に応じた処遇となるよう改正を行った。</p>	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において年度計画を順調に実施した。</p>

<p>・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実，県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材を確保する。</p>	<p>(中央市民病院) ○薬剤師レジデント（薬剤師研修）制度に加えて，リハビリ職員レジデント制度についても活用し，優れた医療技術者の育成及び確保に努める</p> <p>(西市民病院) ○薬剤師レジデント制度を導入し，優れた人材の確保に努める</p> <p>・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実，県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材を確保する。</p> <p>具体的な取り組み ○神戸市看護大学との連携を強化し，実習等を通じて優れた看護職員の育成に貢献するとともに，看護職員の確保を図る</p> <p>(中央市民病院) ○近隣大学薬学部，薬科大学との連携により，職員同士の相互交流を図ることで，職員のスキル向上に努める</p>	<p>(中央市民病院) ○レジデント制度の活用 薬剤師免許を取得している者を対象にした薬剤師レジデント制度を引き続き活用し，人材育成及び確保を図った。平成 26 年度はレジデント 7 名を採用し，ローテーションしながら調剤，製剤，薬品請求，抗がん剤無菌調製，病棟（服薬指導ほか）の薬剤師の基本業務等を習得し，2 月のレジデントフォーラムにおいて一人 1 題研究成果のポスター発表を行った。また，平成 25 年度に導入したリハビリテーション技術部のレジデント制度についても継続し，新たに理学療法士 3 名，作業療法士 2 名，言語聴覚士 1 名を採用し，高度急性期医療・地域連携に対応しながらチーム医療を実践できる人材の育成に取り組んだ。</p> <p>(西市民病院) ○薬剤師レジデント制度の導入 高度医療に対応した薬剤業務，チーム医療を実践できる薬剤師の育成と人材の確保のため，平成 26 年度より薬剤師レジデント制度を導入し，1 名を採用した。また，薬剤部において積極的に学生の受入れ（平成 26 年度実績：615 名，前年度比 119 名増，24.0%増）を行った。</p> <p>・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実，県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材の確保に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み ○市看護大学との連携 6 月に機構，神戸市看護大学，神戸市地域医療振興財団との 3 者間において連携協定書を締結するとともに，9 月に連携検討会を開催し，具体的な方策等について意見交換を行った。</p> <p>(中央市民病院) ○平成 23 年度に神戸学院大学大学院薬学研究科と締結した教育・研究協力に関する協定に基づき，連携教員の委託を受けた薬剤部長が大学において講義を行うほか，中央市民病院において大学院学生に対して研究指導等を行った。また，近隣の大学からも大学院・病院薬剤部による連携大学院連携教員を受入れ，薬剤師レジデントの指導や共同研究等を行った。さらに，武庫川女子大学大学院薬学研究科や神戸学院大学薬学部で薬剤部長が講義を行うとともに，平成 26 年度がん化学療法看護認定看護師教育課程においても講義を担当</p>				
---	---	--	--	--	--	--

関連指標（単位：人，平成 25 年 3 月現在）

項目	中央市民病院	西市民病院
専門医数(延人数)	258	96
認定医数(延人数)	177	71
臨床教授等(延人数)	19	13
研修指導医数(延人数)	61	23
専門看護師数	10	3
急性・重症患者	3	1
慢性疾患	1	1
感染	1	精神 1
がん	2	
老人	1	
精神	1	
小児	1	
認定看護師数	29	6
皮膚・排泄ケア	5	皮膚・排泄ケア 1
集中ケア	3	感染管理 1
救急	3	がん化学療法 1
感染管理	2	緩和ケア 1
がん化学療法	3	手術 1
がん性疼痛	2	集中ケア 1
糖尿病	1	
手術	1	
摂食・嚥下障害	1	
乳がん	1	
不妊症	1	
脳卒中リハ	1	
新生児集中ケア	2	
認知症	1	
慢性心不全	1	
がん放射線療法	1	
専門薬剤師数	22	7
診療情報管理士数	4 (7)	1 (4)
医療情報技師数	27	9

※（ ）書きは嘱託職員，委託職員，派遣職員の有資格者数

（西市民病院）
○大学医局へ訪問を行う等連携を強化し，優秀な人材確保につなげる

関連指標（単位：人，平成 25 年 3 月現在）

項目	中央市民病院	西市民病院
専門医数(延人数)	258	96
認定医数(延人数)	177	71
臨床教授等(延人数)	19	13
研修指導医数(延人数)	61	23
専門看護師数	10	3
急性・重症患者	3	急性・重症患者 1
慢性疾患	1	慢性疾患 1
感染	1	精神 1
がん	2	
老人	1	
精神	1	
小児	1	
認定看護師数	29	6
皮膚・排泄ケア	5	皮膚・排泄ケア 1
集中ケア	3	感染管理 1
救急	3	がん化学療法 1
感染管理	2	緩和ケア 1
がん化学療法	3	手術 1
がん性疼痛	2	集中ケア 1
糖尿病	1	
手術	1	
摂食・嚥下障害	1	
乳がん	1	
不妊症	1	
脳卒中リハ	1	
新生児集中ケア	2	
認知症	1	
慢性心不全	1	
がん放射線療法	1	
専門薬剤師数	22	7
診療情報管理士数	4 (7)	1 (4)
医療情報技師数	27	9

※（ ）書きは嘱託職員，委託職員，派遣職員の有資格者数

し，地域の人材育成に貢献した。
（西市民病院）
○大学医局への訪問等連携強化
関連大学及び医局への訪問等を行い，連携強化と医師の確保に取り組んだ。また，新たな取り組みとして，先端医療センター病院との後期研修医の合同コースを平成 27 年度から開始することを決定した。（平成 27 年度予定：呼吸器内科 1 名）

関連指標（単位：人）

項目	中央市民病院			西市民病院		
	平成 26 年 3 月現在	平成 27 年 3 月現在	前年度差	平成 26 年 3 月現在	平成 27 年 3 月現在	前年度差
専門医数（延人数）	308	310	2	101	111	10
認定医数（延人数）	203	201	△2	78	70	△8
臨床教授等（延人数）	23	23	0	13	10	△3
研修指導医数（延人数）	98	111	13	26	22	△4
専門看護師数	11	13	2	4	4	0
急性・重症患者	3	4	1	2	2	0
慢性疾患	1	1	0	0	0	0
感染	1	1	0	0	0	0
がん	3	3	0	0	0	0
老人	1	1	0	1	1	0
精神	1	1	0	1	1	0
小児	1	1	0	0	0	0
母性	0	1	1	0	0	0
認定看護師数	29	29	0	7	7	0
皮膚・排泄ケア	5	5	0	1	1	0
集中ケア	3	3	0	1	0	△1
救急	3	3	0	0	0	0
感染管理	2	2	0	1	1	0
がん化学療法	3	3	0	1	1	0
緩和ケア	0	0	0	1	1	0
がん性疼痛	2	1	△1	0	1	1
糖尿病	1	1	0	0	0	0
手術	1	1	0	1	1	0
摂食・嚥下障害	1	1	0	0	0	0

		乳がん	1	1	0	0	0	0				
		不妊症	1	1	0	0	0	0				
		脳卒中リハ	1	1	0	0	0	0				
		新生児集中ケア	2	2	0	0	0	0				
		認知症	1	1	0	0	0	0				
		慢性心不全	1	1	0	0	0	0				
		がん放射線療法	1	1	0	0	0	0				
		慢性呼吸疾患	0	1	1	1	1	0				
		専門薬剤師(延人数)	27	27	0	7	7	0				
		診療情報管理士数	5 (7)	5 (7)	0(0)	2 (5)	4 (5)	2(0)				
		医療情報技師数	26	27	1	10	10	0				

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成

(2) 職員の能力向上等への取組み

中期目標	病院で働く職員の能力の高度化及び専門化を図るため、職員の資格取得等に対する支援や指導者の育成に努めるとともに、専門技術の向上に加えて患者への応対も含めた人材の成長を促す研修制度の充実を図ること。 なお、病院業務の受託者に従事する者も共に病院を運営するパートナーであるので、その能力向上が可能となるような環境の整備に努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性を兼ね備えた職員を育成する。 すべての職員が必要な技能や知識を習得できるよう教育及び研修制度を充実し、指導者の育成も含めた次世代医療を担う人材を育成する。また、高い意識とホスピタリティ（思いやり）の心を持った職員を育成するため、患者応対研修等も実施する。 学術や研究の促進支援体制、研究休職制度及び資格取得支援制度を充実させ、積極的に活用することにより、職員の技術及び知識の向上や専門性の高い資格の取得を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性及びホスピタリティ（思いやり）の心を兼ね備えた職員を育成するため資格取得の促進、研修制度の充実を図る。 <p>具体的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○従来より実施している各階層における研修や、資格取得支援制度、研究休職制度、短期国内外派遣制度及び看護職員に対する各種研修制度を継続的に実施し、職員の資質向上や専門性の向上を図る ○係長昇任時における研修や中堅職員への研修等、職員の資質向上及び職場内でのリーダーシップを養成する研修を実施する <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学術支援センターでの研究計画支援等の業務や講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性及びホスピタリティ（思いやり）の心を兼ね備えた職員を育成するため資格取得の支援及び促進、研修制度の充実を図った。 <p>具体的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員の専門性の充実を図るために、従来から実施している資格取得支援制度、医師の研究休職制度、短期国内外派遣制度等を継続して実施した。また、看護職員長期留学制度については、助成金を40万円から70万円に増額し、対象人数も毎年3名から5名に拡充し充実を図った。さらに、職員の自発性や自主性を活かした能力向上の機会を図るため、国際貢献活動や大学・大学院等で履修を行う自己啓発等休業制度を新設した。 《主な制度の利用者数》 <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得支援制度 平成26年度交付決定人数：46名 ・医師研究休職制度 平成26年度実績：中央1名、西1名 ・看護職員長期留学制度 平成26年度実績：中央3名 ・看護職員大学院留学制度 平成26年度実績：中央1名 ○医事課職員のスキルアップを目的とした中央、西、西神戸、先端医療センター合同の医事課職員研修会を引き続き実施し、3月に発表会を開催した。また、平成26年度より中央、西、西神戸合同のMSW研修会を開始し、外部講師を招いた研修会（11月）及び各病院代表者による発表会（3月）を開催した。 ○6月に医療技術職員の中堅職員に対し、資質向上及び職場における立場・役割を再認識するための研修を実施した。また、4月に係長級に昇格した職員に対し、マネジメント能力の向上を図るための研修を8月に実施した。 <p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学術支援センターにおいて、院内スタッフを対象に、統計ソフトの使い方、文献管理の方法、論文の書き方、医療統計学の基礎等のテーマで臨床研修セミナ 	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において年度計画を順調に実施した。</p> <p>その他、評価できるポイントは以下のとおり。</p> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発等休業制度を新設し、職員の能力向上を図ったこと。

<p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJT（職場の上司や先輩が部下や後輩に対し具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識、技術、技能及び態度等を指導すること。）による人材育成を基本にできるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行う。</p> <p>・受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような</p>	<p>等により、研究活動や質の高い研究ができるような支援を行い、職員の研修・教育・研究の充実を図る</p> <p>○臨床研修センターを利用した研修支援体制の強化により、職員のモチベーションの向上を図る</p> <p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJTによる人材育成を基本にできるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○長期的な人材育成を考慮し、様々な部署での経験が積めるよう、特に事務職員の長期在職者については、計画的に人事異動を行い、将来の病院運営を担う人材を育成する</p> <p>○薬剤師レジデントについては、平成25年度に締結した「中央市民病院・西市民病院薬剤師レジデント研修受け入れに係る覚書」に基づき、相互の施設での研修の充実を図る</p> <p>・受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の</p>	<p>一を開催（7回）し、職員の研究・教育の充実を図った。</p> <p>○中央市民病院では、平成24年度に開設した臨床研修センターに専任の事務担当者を配置することにより、研修プログラムのより質の高い事務的サポートを継続して行った。また、初期研修医の相談役となる等、状況把握に取り組み、モチベーションの維持、向上を図った。なお、引き続き初期研修医に対する上級医の指導及びカウンターサイン（初期研修医の研修プログラムに対する承認）の義務化等の臨床研修システム、指導体制の強化に取り組んだ。</p> <p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJTによる人材育成を基本に、できるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動等を行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○長期的な人材育成を考慮した人事異動（ジョブローテーション）を行った。また、特定の職員に情報が集中することの無いようにしたほか、専門分野に関し知識を有する職員を複数育成することや職員の総合力の向上に積極的に取り組んだ。</p> <p>○薬剤レジデント</p> <p>平成25年度に締結した「中央市民病院・西市民病院薬剤師レジデント研修受け入れに係る覚書」に基づき、中央市民病院採用のレジデント薬剤師が3週間西市民病院で研修を実施した。また、西市民病院では平成26年度から薬剤師レジデント制度の活用を開始し、1名の採用を行い、中央市民病院での研修についても検討を行った。</p> <p>○中央市民病院薬剤部と先端医療センター薬剤部の人事交流を行い、先端医療センターより1名の薬剤師研修を受入れた。</p> <p>・受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に取り組んだ。</p>				
---	---	---	--	--	--	--

環境の整備に努めるよう働きかける。

整備に努めるよう働きかける。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

○病院経営のパートナーであるPFI事業者においても、医療安全の確保や業務品質・患者サービスの向上を図るため、患者対応研修等への受講を促していく

(西市民病院)

○医事委託職員について、DPC保険対策委員会への出席による診療報酬担当者の査定等についての教育を積極的に実施するとともに、現場責任者の業務経営会議への参加により、病院全体の情報把握に努める

具体的な取り組み

(中央市民病院)

○病院主催の医療安全や感染管理の研修には病院職員に加え、PFI職員の受講も促し、病院職員としての質向上を図った。

(西市民病院)

○医事委託職員について、DPC保険対策委員会へ毎回出席してもらい、査定等についての学習を積極的に実施した。また、医事委託職員の責任者については、各診療科部長及び部門長が出席する業務経営会議への参加により、病院全体の情報把握を図った。さらに、診療報酬改定に関する講演会等に、医事委託職員も対象として参加してもらい、最新情報を提供するとともに、引き続きBLS講習会等、院内で実施される研修等への参加を促した。

関連指標 (単位:人,平成24年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
患者対応研修等参加者数※1	1,668	77※2
研修休暇制度等利用者数	5	1
資格取得支援制度利用者数	22	6

※1 委託職員等も含む。

※2 委託業者等が主催する研修会は含まない。

関連指標 (単位:人,平成24年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
患者対応研修等参加者数※1	1,668	77※2
研修休暇制度等利用者数	5	1
資格取得支援制度利用者数	22	6

※1 委託職員等も含む。

※2 委託業者等が主催する研修会は含まない。

関連指標 (単位:人)

	項目	平成25年度実績	平成26年度実績	前年度差
中央市民病院	患者対応研修等参加者数※1	1,097	990	△107
	研修休暇制度等利用者数	6	5	△1
	資格取得支援制度利用者数	29	38	9
西市民病院	患者対応研修等参加者数※2	121	82	△39
	研修休暇制度等利用者数	1	1	0
	資格取得支援制度利用者数	10	7	△3

※1 委託職員等も含む。

※2 委託業者等が主催する研修会は含まない。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成

(3) 人材育成等における地域貢献

中期目標	臨床研修医及び後期研修医の受入れ及び神戸市看護大学を始めとした看護学生の受入れに努め、教育研修制度を充実させるなど教育病院（専門医等の研修施設として認定された教育施設としての性質を有する病院）としての役割を果たすこと。 また、学生だけでなく地域医療機関の職員への研修を行うことを始めとして地域全体の医療の質の向上に資すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、臨床研修医及び後期研修医のみならず、医学部生、看護学生、薬学部生をはじめとした、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実等、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。</p>	<p>・公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実を図り、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○潜在看護師の復職支援対策として、兵庫県看護協会が実施する再就業支援研修会に対する講師派遣を行う。また、各病院において、潜在看護師向けの研修等を開催し、潜在看護師の復職支援についての取り組みを進める</p> <p>○神戸市看護大学等と連携を図り、看護学生の受け入れを行い、看護学生の能力向上に寄与する</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○薬剤師等、医師・看護職員以外の専門職についても引き続き学生等の受け入れを行う</p>	<p>・中央市民病院では平成24年4月に設置した臨床研修センターを中心に、西市民病院では組織化した研修室を活用し研修管理常任委員会を中心に研修制度の充実を図り、中央市民病院では臨床研修医35名、後期研修医106名、西市民病院では臨床研修医15名、後期研修医17名を受入れた。また、薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士等でも学生の受入れを引き続き積極的に行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○潜在看護師の復職支援対策 看護師の資格を持ちながら、家庭の事情等で看護の現場を離れ、ブランクはあるが再就業を希望している方を対象に、復職支援のための研修を開催した。 《平成26年度実績》 中央市民病院：2月開催 参加者1名 西市民病院：2月開催 参加者1名</p> <p>○6月に市民病院機構、神戸市看護大学、神戸市地域医療振興財団との3者間において連携協定書を締結するとともに、9月に連携検討会を開催し、具体的な方策等について意見交換を行った（再掲）。また、両病院において地域医療技術の向上に貢献するとともに優秀な人材の確保のため、神戸市看護大学等から看護学生の積極的な受入れを行った。さらに、両病院から神戸市看護大学へ講師派遣を行った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○将来、当機構や神戸市内医療施設で働く優秀な人材を確保し、市内全体の医療の質の向上を図るため、依頼施設と協力し医師・看護職員以外の職種についても積極的に学生等の受け入れを行った。</p>	1	4		<p>【評価のポイント】 主に下記のポイントから、年度計画を上回って実施したと判断した。</p> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学生実習等の受入れをしたこと。 <p>西市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か年に渡り、ベトナム・ダナン産婦人科・小児科病院の人材育成のための草の根技術協力事業へ参画したこと。

○「がん専門薬剤師研修施設」
として、資格取得を目指す薬
剤師を外部より受け入れ、講
習会等を開催する

(西市民病院)

○引き続き看護部による草の
根技術協力事業への積極的
な参加を行い、ベトナムダナ
ン市産婦人科・小児科病院の
人材育成に貢献する

関連指標 (単位:人,平成24年
度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
講師等派遣数 (延人数)	504	208
臨床研修医数	36	15
後期研修医数	102	18
学生実習等受 入数 (延人数)	医学部生・ 歯学部生 1,033 看護学生 4,529 薬学部生 1,955 臨床検査 15 理学療法・ 作業療法・ 言語聴覚 872 臨床工学 608 管理栄養 0 視能訓練 100	医学部生・ 歯学部生 252 看護学生 2,523 薬学部生 495 臨床検査 194 理学療法・ 作業療法・ 言語聴覚 166 臨床工学 116 管理栄養 99 視能訓練 0

○平成25年度に日本病院薬剤師会のがん薬物療法専門薬剤師の研修施設の更新
を行い、9月よりがん薬物療法専門薬剤師の研修施設として加西市民病院、国
立舞鶴病院より各1名ずつの研修を受入れた。また、大阪薬科大学大学院薬学
研究科との間における授業科目の履修に関する覚書を交わし、がんプロフェッ
ショナル養成プラン事業への協力を継続し1名を受入れた。

(西市民病院)

○ダナン産婦人科・小児科病院への貢献
ベトナム・ダナン産婦人科・小児科病院の看護師・助産師の人材育成に平成
24年度から取り組み、5月に看護師3名、9月に看護師3名、2月に看護
師4名を専門家として派遣し、過去の受入研修にかかるフォローアップ状
況の確認や新人看護師を対象としたセミナー等を実施した。さらに、7月、
11月には研修員各6名を受入れ、フィジカルアセスメント(消化器)や、
がんの化学療法の副作用に関する症状緩和等のテーマで研修を実施した。

関連指標 (単位:人)

項目	中央市民病院			西市民病院		
	平成25年 度実績	平成26年 度実績	前年 度差	平成25年 度実績	平成26年 度実績	前年 度差
講師等派遣数(延 人数)	606	1,104	498	212	225	13
臨床研修医数	35	35	0	15	15	0
後期研修医数	96	106	10	23	17	△6
学生実習等受入 数(延人数)						
医学部生・ 歯学部生	991	1,151	160	286	205	△81
看護学生	4,031	4,198	167	2,439	2,295	△144
薬学部生	2,019	2,156	137	496	615	119
臨床検査	221	232	11	151	168	17
理学療法・作業療 法・言語聴覚	1,292	1,685	393	62	185	123
臨床工学	641	484	△157	98	128	30
管理栄養	40	50	10	200	200	0
視能訓練	83	144	61	0	0	0

関連指標 (単位:人,平成24年
度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
講師等派遣数 (延人数)	504	208
臨床研修医数	36	15
後期研修医数	102	18
学生実習等受 入数 (延人数)	医学部生・ 歯学部生 1,033 看護学生 4,529 薬学部生 1,955 臨床検査 15 理学療法・ 作業療法・ 言語聴覚 872 臨床工学 608 管理栄養 0 視能訓練 100	医学部生・ 歯学部生 252 看護学生 2,523 薬学部生 495 臨床検査 194 理学療法・ 作業療法・ 言語聴覚 166 臨床工学 116 管理栄養 99 視能訓練 0

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

(1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入

中期目標	努力が評価され、報われる人事給与制度や昇任制度を導入するなどやりがいのある病院となるよう努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を導入し、社会一般の情勢への適合に加え病院の経営実績も加味しつつ、賞与等の給与に反映する制度を構築する。</p> <p>・昇任制度について、能力や経験等を踏まえた昇任資格の見直し等の改善を行い、優秀な職員を積極的に登用する。</p>	<p>・組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を構築する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医師の評価制度について、導入に向けて検討会を開催し、制度構築の検討を行う</p> <p>・昇任制度について、能力や経験等を踏まえた昇任資格の見直し等の改善を行い、優秀な職員を積極的に登用する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○法人職員の係長昇任選考試験を実施し、優秀な職員を積極的に登用する</p>	<p>・組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を構築するための検討を進めた。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○医師の人事・給与制度再構築</p> <p>医師の人事・給与制度の再構築検討のため、5月にコンサルタント会社を決定し、6月に理事長及び院長等に対して、7月には診療科部長等に対してヒアリングを実施した。その後、医師人事・給与制度再構築委員会（8回開催）において制度構築の検討を実施し、委員会の途中経過について、3月に診療科部長等に対し報告を行った。</p> <p>・昇任制度について、能力や経験等を踏まえた改善を行い、優秀な職員を積極的に登用した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○法人職員の係長昇任選考</p> <p>優秀な職員を積極的に登用するため、法人固有職員の係長昇任選考を実施した（平成26年度合格者：事務職2名、薬剤師1名）。</p>	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において年度計画を順調に実施した。</p>

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

(2) 働きやすい環境の整備

中期目標	市民病院で働く職員の業務を明確にし、適切な役割分担を図るとともに勤務環境を整備するなど、意欲ある職員が働き続けられるように努めること。
------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・病院で働くすべての職員にとってやりがいが持て、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上に繋がる具体的な取り組みを実施する。</p>	<p>・病院で働くすべての職員にとってやりがいが持て、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上につながる具体的な取り組みを実施する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○職員のモチベーション向上のため、優秀職員表彰を継続して実施する（優秀職員表彰、善行職員表彰、永年勤続表彰）</p> <p>○執務環境を整備し、アメニティの改善を図る等職員の士気向上に取り組む</p>	<p>・職員ニーズを把握し、よりよい執務環境を提供するため、両病院及び法人本部において全職員（委託職員、中央市民病院のPFI職員等を含む）を対象とした職員満足度調査を実施した。「全体としてこの病院に満足しているか」については「満足している」・「やや満足している」の割合が、中央市民病院では73.9%、西市民病院では71.6%となった。結果を踏まえ、改善すべき項目等について検討を開始した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○優秀職員表彰等の実施 特に優れた行いや病院経営に貢献した職員・団体を表彰することにより、職場の活性化・勤労意欲の向上を図ることを目的として、優秀職員表彰を実施した。3月には特に優れたものについて理事長表彰を実施した。</p> <p>①優秀職員表彰：理事長表彰 1名1団体 院長表彰 6名16団体</p> <p>②善行職員表彰：実績なし</p> <p>③永年勤続表彰：勤続20年11名 勤続30年1名</p> <p>○両病院において、各部門・部署における日頃の業務を、病院全体の職員等にアピールする発表会を開催し、来場者による投票で院長から表彰を行うとともに、西市民病院においては、同時に各部門・部署における、病院機能の向上・業務の効率化を達成させるための改善活動・提案を病院全体に報告する発表会「改善活動発表会」を開催し、審査員による投票で院長表彰を行った。</p> <p>○職員が働きやすい環境づくりの一環として、7月より主に係長級以上の職員を対象に、名刺作成に係る経費を機構で負担する運用を開始した。</p>	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において年度計画を順調に実施した。</p> <p>その他、評価できるポイントは以下のとおり。</p> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員対象の職員満足度調査を実施し、改善項目について検討を開始したこと。 ・優秀職員表彰等を継続し、職員のモチベーション向上を図ったこと。

<p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や、超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組む。</p> <p>・職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行う。</p>	<p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や、超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組む。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○育児や介護と仕事を両立する柔軟な勤務制度のため、育児短時間勤務制度や介護休暇制度の継続的な運用を図る</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、院内保育所の充実を図り、利用しやすい運営に努める。また、病児保育についても検討を進める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、院内における病児保育について検討を進める</p> <p>・職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行う。</p> <p>具体的な取り組み</p>	<p>○中央市民病院では、南棟・北棟増築、既存施設改修設計に向けた院内協議を行う中で、基本計画の策定及び詳細設計を実施した。</p> <p>○西市民病院では、CTの増設に伴い、放射線技術部内の設備を再整備し、執務環境の改善を図った。また、東館増築・既存施設改修設計に向けた院内協議を行う中で、執務環境やアメニティの改善についても検討を行った。さらに、看護職員（看護師・病院業務員）の制服について、平成25年度末より順次、ナース服に替えて、スクラブ・スーツを導入し、平成26年度からは新たに歯科衛生士へも導入した。</p> <p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や、超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○育児や介護と仕事を両立する柔軟な勤務制度のため、育児短時間勤務制度や介護休暇制度の継続的な運用を図った。</p> <p>利用者：4名（平成27年3月末時点）</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○勤務環境の改善の一環として院内保育所の設置及び21時までの延長保育を継続実施した。また、更なる利便性向上のため、平成23年9月から体調不良児対応型保育を実施した。さらに、病児保育所について、委員会を設置し、検討を行った結果、病児保育所を増築する南棟に設置することを決定した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○職員の子育てを支援し、働きやすい環境をととのえるための必要事項を協議する場として、「保育所運営委員会」に代わり、新たに「職員子育て支援委員会」を設置し、院内における病児保育室の整備に向けた要望や問題点等について協議を開始した。</p> <p>・職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行った。</p> <p>具体的な取り組み</p>				
---	--	--	--	--	--	--

<p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス、ハラスメント及び内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実する。</p>	<p>○医師・看護職員の負担軽減のため、医療クラークや病棟クラーク等の更なる活用のための検討及び職種間における連携や役割分担を引き続き進める</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○外来クラークと文書作成補助等を行うドクターズクラークについて、引き続き業務内容の検討を行い、医師の負担軽減に努める</p> <p>○看護職員等の負担軽減を図るため、ナースサポーター（病棟クラーク）を活用する</p> <p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス・ハラスメント・内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○労働安全衛生の確保のため、法人本部において両病院を統括する市民病院機構安全衛生委員会を開催して、機構内の情報共有を図り、必要な対策に取り組む</p>	<p>○両病院において医療クラーク等を継続配置し、医療職の事務負担軽減を図った。西市民病院においては、7月より新たに放射線技術部に遠隔画像取込業務のための事務クラークを配置した。</p> <p>《医療クラーク（医師事務作業補助者）人数》</p> <p>中央市民病院 平成25年度 85人 → 平成26年度 85人</p> <p>西市民病院 平成25年度 22人 → 平成26年度 21人</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○ドクターズクラーク検討委員会を開催（6月）し、クラーク業務に関する要望について検討した。</p> <p>○ナースサポーターについて、より効率的な業務体制を構築するため、7月及び8月に業務検討会を開催し、ナースサポーター業務のうち、患者搬送や介助補助等の患者周辺業務を病院業務員業務（ナースエイド）に統合する形で、業務整理を行った（10月より実施）。ナースサポーターは文書入力等の機器操作に関する業務等を行うこととし、名称を病棟クラークに改めた。</p> <p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス・ハラスメント・内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○市民病院機構職員安全衛生委員会を2回（11月、3月）に開催し、両病院職員安全衛生委員会の活動状況等について意見交換を行った。また、2月に西市民病院において安全パトロールを実施した。中央市民病院の安全衛生委員会では、公務災害や職員の健康管理に関する課題について議論を行った。また、近年増加傾向にある院内暴力事案に対し、外来エリアを中心に、非常通報装置の設置状況を総点検し、必要な箇所に順次設置した。西市民病院の職員安全衛生委員会においても、労働安全衛生の確保に取り組んだ。また、結核暴露が疑われる職員について、定期的に胸部レントゲン検査と受診状況および治療完了等の確認を行うこととし、病院機能評価受審時に開催を検討するよう指摘のあった虐待に関する</p>				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>○リエゾンチームによるせん妄患者、うつ患者への診療サポートの充実を図り、職員のメンタルヘルスサポート体制を強化して安心して勤務できる環境づくりに取り組む</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○夜間・休日に安心できる環境をつくるため、警察OBの毎日24時間配置体制を継続して行う</p>	<p>講習会については、他病院の状況を確認し、開催に向けた検討を開始した。</p> <p>○両病院において、リエゾンチームによるせん妄患者、うつ患者への診療サポートの充実を図るとともに、職員のメンタルヘルスサポート体制についても強化に取り組んだ。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○警察OBの毎日24時間配置の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務課への警察OBの配置、警備員の24時間365日配置を継続し、安全・安心な診療体制の確保に取り組んだ。また、暴言暴力や徘徊等問題行動をとる恐れがある患者等について、警備員及び警察OBに対して定期的な巡回等を依頼する警備対応依頼書の運用を継続実施した。さらに、暴言暴力に対する医療安全講習会を開催し、対応への知識を深める機会を設けるとともに、暴言・暴力等に対する病院の対応についての掲示物を外来と病棟に掲示し、暴力行為等に的確に対応していくため、「暴力行為等対策マニュアル」の改定を行った。 				
--	--	---	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持

中期目標	本市からの運営費負担金の交付の下、政策的医療を行い、市民病院としての役割を果たしながら、中期目標期間を通じて収支を均衡させるよう、各年度安定的な病院経営の維持を図ること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> 政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、増収対策及び費用の合理化により、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行う。 医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、的確な経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特性を生かした、機動的かつ戦略的な病院経営を行うことにより、安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行う。 医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、的確な経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特性を生かした、機動的かつ戦略的な病院経営を行うことにより、安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。 <p>具体的な取り組み</p> <p>○会計規程等の関連規程の下、弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行った。 <p>【平成26年度決算概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央市民病院においては、新たな診療報酬加算の取得、地域医療連携のさらなる推進に努めたことや入院前検査センターの活用等によって平均在院日数が平成25年度を下回る11.2日に短縮されたこと、高額手術件数の増等により、入院収益が上昇した。また、外来についても外来手術の件数の増加及び外来化学療法による注射料単価の増等により増収となった。西市民病院においては、新たな診療報酬加算を通年で取得したことや外来化学療法による注射料単価の増等によって医業収益を確保した。費用の合理化の面では、共通で購入している診療材料について値下げ交渉を行い、医薬品については、民間のベンチマークの活用等による価格交渉を実施し費用の削減につなげた。さらに、在庫整理を行い、適正な維持管理を行った。平成26年度決算では、診療報酬改定や消費税の改正等、病院を取り巻く環境が急激に厳しさを増す中、上記のような取り組みを継続した結果、年度計画における単年度資金収支については、中央市民病院で13億7,500万円の黒字、西市民病院で8,000万円の黒字となり、経常収支比率も中央市民病院については、目標値100.2%に対して100.1%、西市民病院においては、目標値100.0%に対して100.3%となり、ほぼ目標値どおりの実績となった。 <p>具体的な取り組み</p> <p>○会計規程等の関連規程のもと、弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行った。また、別途協議事項となっている運営費負担金について神戸市財政当局と調整し、適正な額を確保できるよう協議を進めた。</p>	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において年度計画を順調に実施した。</p>

	<p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院の意思決定や経営管理・評価等に有用な情報提供及び分析を担う「経営支援システム」を活用し、経営改善に取り組んでいく ○診療科別原価計算を活用した院長ヒアリングを実施することで、各診療科の傾向把握・分析を行うとともに、各診療科長が経営の視点を踏まえて業務を行うことを徹底し、安定した経営基盤の確立に取り組む <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○診療科別損益計算を活用した院長ヒアリングを実施することで、各診療科長が経営の視点を踏まえて業務を行うことを徹底するとともに、戦略的投資による収益力の向上を図り、安定した経営基盤を維持する ○平成26年度の診療報酬改定に迅速に対応するとともに、外部コンサルタントの講演会を開催する等、外部情報の収集も図り、病院職員全体に経営視点を醸成する 	<p>(中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度の赤字を回避し、健全かつ安定的な病院経営を維持していくため「経営改善方針」を10月の幹部会で決定し、病院運営協議会にて院内全体へ周知し取り組みを進めた。 ○各診療科の医業収支の改善を図るため、SPCより経営支援業務として、診療科別・部門別・DPC別収支資料の作成が提案され、診療科別収支資料については、各診療科長の意見をもとに、見直し等を行い、平成25年度の院長ヒアリングより活用した。また、6月からの第1回院長ヒアリングでは、各診療科の現状分析や特性の把握、今後の方針決定に診療科別収支資料を活用し、12月からの第2回院長ヒアリングでは第1回資料に加え、DPC資料も活用した。 <p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○診療科別損益計算 診療科別の収益概要及び原価計算書をもとに、各診療科・部門ごとに院長ヒアリングを行い(5月, 11月)、診療科ごとの経営改善意識の向上を図った。 ○診療報酬改定への対応・職員全体の経営視点の醸成 診療報酬改定に伴う課題の抽出を行い、院内に周知するとともに、副院長をリーダーとするプロジェクトチームを2チーム立ち上げ、課題解決に向け検討を行い、7対1入院基本料等の維持を図った。また、業務経営改善委員会を継続的に開催(平成26年度実績:10回)し、新たな加算算定による増収や、コスト削減対策について、報告・検討を行うとともに、病院の質を向上させるための取り組みも積極的に議論した。さらに、平成26年度診療報酬改定以後の全国的な状況と次回改定の動向についての講演会(7月)及び地域医療構想や次回診療報酬改定の内容を予測する講演会(2月)を開催し、職員への理解を深めた。 				
--	---	---	--	--	--	--

目標値（実績値は平成24年度・目標値は平成30年度、単年度資金収支の目標値は5年間の累計）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
単年度資金収支（百万円）	2,606	571	525	48
経常収支比率（%）	105.2	100.5	105.9	100.1

関連指標（単位：%，平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
運営費負担金比率	7.6	10.1
医業収支比率	99.0	99.4

目標値（実績値は平成24年度目標値は平成26年度）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
単年度資金収支（百万円）	2,606	1,355	525	68
経常収支比率（%）	105.2	100.2	105.9	100.1

関連指標（単位：%，平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
運営費負担金比率	7.6	10.1
医業収支比率	99.0	99.4

目標値

	項目	平成26年度目標値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	目標差
中央市民病院	単年度資金収支（百万円）	1,355	2,290	1,375	20
	経常収支比率（%）	100.2	102.5	100.1	△0.1
西市民病院	単年度資金収支（百万円）	68	522	80	12
	経常収支比率（%）	100.0	104.3	100.3	0.3

関連指標（単位：%）

	項目	平成25年度実績値	平成26年度実績値	前年度差
中央市民病院	運営費負担金比率	7.4	7.1	△0.3
	医業収支比率	96.9	96.1	△0.8
西市民病院	運営費負担金比率	10.2	10.2	0
	医業収支比率	97.3	95.3	△2.0

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(2) 収入の確保

中期目標	病床や手術室及び高度医療機器の効率的な運用を行うとともに、診療報酬の請求漏れや減点を防止し、堅実な未収金対策を講ずるなどして、確実に収入を確保すること。 また、診療報酬改定に的確かつ速やかに対応するため、人的及び物的な資源を有効に活用し、収入が確保できるよう努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
・各病院の医療機能に応じた患者の受け入れ強化や適切な病床利用率の維持、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化、手術室や医療機器の効率的な運用等を行う。	・各病院の医療機能に応じた患者の受け入れ強化や適切な病床利用率の維持、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化、手術室や医療機器の効率的な運用、増収のために体制の充実・適正化等を行い継続的に安定した収入を確保する。 具体的な取り組み ○資金需要を予測した上で、大口定期、国債、地方債等での資金運用を積極的に行う ○寄付金を積極的に受け入れるため、院内でPRチラシを配布するとともに、寄付をいただいた方をホームページで紹介する等の取り組みを行う (中央市民病院) ○円滑な病床管理によって、救急部門、重症部門の効率的な運用を図る	・両病院において医療機能に応じた患者の受け入れを行い、適切な病床利用率を維持するとともに、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化に取り組み、手術室等の効率的な運用や増収のための体制づくり等を実施し、安定した収入の確保を図った。 具体的な取り組み ○資金需要を予測し、大口定期や地方債での資金運用を積極的に行った（平成26年度実績：利息収入額15,352千円）。 ○寄付金を積極的に受入れるため、院内でPRチラシを配布するとともに、寄付をいただいた方をホームページで紹介する等の取り組みを行った（平成26年度実績：機構全体での寄付受入額16,941千円、前年度比6,939千円減）。特に、中央市民病院では外来待合へ寄付金案内チラシを常時配置するとともに、病院創立90周年展示コーナーへも案内チラシを配置する等、院内各所で寄付金募集をPRするとともに、ホームページにおいても、寄付のお願いバナーをトップページに設置し、病院長名で寄付をお願いする等の取り組みを行った（平成26年度実績：中央市民病院での寄付受入額13,758千円、前年度比9,975千円増）。 (中央市民病院) ○引き続き、看護部所属の病床管理専従看護師（ベッドコントローラー）を地域医療推進課との兼務にすることによって、病床の一元的管理を行い、稼働状況を適切に把握し、スムーズな情報伝達を行えるようにした。	2	3		【評価のポイント】 各項目において、年度計画を順調に実施した。 その他、評価できるポイントは以下のとおり。 共通 ・病床の一元管理の徹底等により、在院日数の適正化に努めたこと。

<p>・診療報酬の徹底した分析を行い、増収のために体制の充実及び適正化を図る等、継続的に安定した収入を確保する。</p>	<p>○専門外来を積極的にPRし、新たな患者獲得を図るとともに、紹介・逆紹介をより一層推進し、地域医療機関との連携を進め新規患者確保に努める</p> <p>○高度専門医療センターをはじめとした新たな機能を有効に活用する等、さらなる医業収益の確保に向け経営戦略を推進していく</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○循環器内科の体制を強化し、専門性の高い医療を提供するとともに、血管造影装置の稼働率向上を図る</p> <p>○看護部病床一元管理者により、午前退院午後入院を含め、病床利用を円滑に行う</p> <p>・診療報酬の徹底した分析を行い、増収のために体制の充実・適正化を図る等、継続的に安定した収入を確保する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○平成26年度の診療報酬改定について、新たな加算の取得に向けた体制強化や運用変更等、増収に向けて円滑な対応を行う</p>	<p>○引き続き、専門外来を積極的にPRし、新規患者確保に取り組んだ(平成26年度専門外来患者数：女性外来356人、生活習慣外来354人、フットケア外来299人、ストーマ外来528人、がん化学療法副作用説明外来489人、内服薬確認外来848人)</p> <p>○中央市民病院では、新たな医療機能を有効に活用する等、さらなる医業収益の確保のために検討を行った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○循環器内科の体制強化</p> <p>4月に循環器内科医師1名の増員を行い、体制を充実させた。また、時間内の救急受入れ及び循環器内科医師の日当直日における時間外救急受入れを円滑に行うとともに、従来午後のみを実施していた、予定の血管造影検査、血管内治療について引き続き一部午前にも対応し、血管造影による治療・検査の増加を図った(平成26年度実績：アンギオ(心臓)件数541件、前年度比87件増、19.2%増)。さらに、経皮的冠動脈形成術後の機能回復を安全かつ効率的に実施するため、心臓リハビリテーション用の機器を新たに導入し、運用を開始した。(再掲)</p> <p>○病床一元管理</p> <p>看護部病床一元管理者について、平成24年度より交代制から専任制に変更し、病床の稼働状況把握や判断をさらに円滑に行い、午前退院午後入院を含め、救急患者受入れ等のための病床確保を的確に行った。</p> <p>・両病院において診療報酬の分析を行い、増収のために体制の充実・適正化に取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○中央市民病院では、診療報酬改定に伴い、増収に向けて新たな加算の取得に取り組み、特定集中治療室管理料1、ハイケアユニット入院医療管理料1等を取得した。西市民病院では、7対1看護体制の維持に努め、平成25年度より算定を開始した「病棟薬剤業務実施加算」及び「地域医療支援病院入院診療加算」の算定を継続した。また、</p>				
--	---	--	--	--	--	--

<p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、その発生の未然防止を図るとともに、回収率を向上させる。</p>	<p>(中央市民病院)</p> <p>○救急、小児及び周産期医療に注力するとともに、多職種によるチーム医療を推進し、診療報酬改定にきめ細かく対応する</p> <p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、その発生の未然防止を図るとともに、回収率を向上させる。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○未収金対策について、より効果的な取り組みが両病院で実施できるよう、検討会を適宜開催し、方法の検討や調整、ノウハウの共有、実施段階での協力を積極的に行う</p> <p>○未収金の回収について引き続き弁護士法人に債権回収を委託するとともに、支払い能力があるにも関わらず請求に応じない者については、簡易裁判所を通じての支払督促を行う等回収策の強化を図る</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○診療報酬の請求漏れや減点の防止のために、医事課内に対策チームを設置し、引き続き請求漏れ対策について検討する</p>	<p>新たな加算取得について病院全体で意識を高めるため、業務経営改善委員会で議題として取り上げた。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○診療報酬改定の重点である、救急、小児及び周産期医療に注力するとともに、他職種によるチーム医療を推進し、診療報酬改定に細かく対応した。</p> <p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、その発生の未然防止を図るとともに、回収率を向上させる取り組みを行った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○中央市民病院では、入院、外来が別々に対応するのではなく、医事課未収金対策チームを設置し、派遣職員も含め入院、外来で一体となって未収金対策を引き続き行った。西市民病院では、退院時の支払誓約書の記入を徹底するとともに、国保の高額貸付や公費負担制度、出産一時金直接支払制度の説明を徹底した。また、法人本部では、両病院医事課のヒアリング（6月、12月）、医事課長会（7月、1月、3月）、未収金対策会議の開催（7月、3月）、理事会・常任理事会への平成25年度取組み状況の報告（7月）、弁護士法人へのヒアリング（8月）を行い、機構全体で未収金対策に取り組んだ。</p> <p>○中央市民病院では支払い能力があるにも関わらず請求に応じない者については、平成24年8月から開始した簡易裁判所を通じての支払督促を継続実施した。また、西市民病院では、未収発生日より1週間以内に委託業者より初期対応を実施し、その後、医事課より文書督促を各3回以上実施した。また、分納支払者の入金確認を強化するとともに、督促業務の流れに関し、委託業者及び人材派遣会社と連携し、継続して催告を実施した。さらに、両病院において、回収困難な債権については、引き続き弁護士法人に督促業務を委託し、回収策の強化を図った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○診療報酬の請求漏れや減点の防止のために、医事課を中心に対策チームを設置し、請求漏れ対策について検討した（平成26年度実績：12回実施）。また、少額の請求であっても確認して請求することにより、当月請求率の向上に取り組んだ。</p>			
---	---	--	--	--	--

<p>目標値（単位：％，実績値は平成 24 年度・目標値は平成 30 年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率※</td> <td>95.5</td> <td>93.5</td> <td>90</td> <td>89.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率＝{毎日 24 時現在の在院患者数＋退院患者数（当日入院当日退院患者も含む。）/許可病床数（中央は感染症病床を除く。）×日数（365 又は 366）}×100 ※{毎日 24 時現在の在院患者数/許可病床数（中央は感染症病床を除く。）×日数（365 又は 366）}×100にて算出した平成 24 年度の病床利用率は中央市民病院 87.3％，西市民病院 83.0％となる。</p>	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	病床利用率※	95.5	93.5	90	89.5	<p>目標値（単位：％，実績値は平成 24 年度・目標値は平成 26 年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率※</td> <td>95.5</td> <td>93.5</td> <td>90.0</td> <td>89.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率＝{毎日 24 時現在の在院患者数＋退院患者数（当日入院当日退院患者も含む。）/許可病床数（中央は感染症病床を除く。）×日数（365 又は 366）}×100 ※{毎日 24 時現在の在院患者数/許可病床数（中央は感染症病床を除く。）×日数（365 又は 366）}×100にて算出した平成 24 年度の病床利用率は中央市民病院 87.3％，西市民病院 83.0％となる。</p>	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	病床利用率※	95.5	93.5	90.0	89.5	<p>○中央市民病院では、保険診療の取扱いや診療報酬の請求等に関する勉強会を継続して実施するとともに、各診療科のカンファレンスで医事課職員等が医師に説明を行い、周知徹底を図った。</p> <p>○西市民病院においては、保険診療の取扱い、診療報酬の請求等に関する事項について周知徹底させることを目的とした共同指導（厚生労働省・近畿厚生局・兵庫県）が歯科を対象として 2 月に実施された。</p> <p>目標値（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 26 年度目標値</th> <th>平成 25 年度実績値</th> <th>平成 26 年度実績値</th> <th>目標差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>病床利用率</td> <td>93.5</td> <td>93.8</td> <td>92.9</td> <td>△0.6</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>病床利用率</td> <td>90.5</td> <td>88.5</td> <td>87.7</td> <td>△2.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率＝{毎日 24 時現在の在院患者数＋退院患者数（当日入院当日退院患者も含む。）/許可病床数（中央は感染症病床を除く。）×日数（365 又は 366）}×100 ※{毎日 24 時現在の在院患者数/許可病床数（中央は感染症病床を除く。）×日数（365 又は 366）}×100にて算出した平成 26 年度の病床利用率は中央市民病院 84.6％，西市民病院 80.6％となる。</p>		項目	平成 26 年度目標値	平成 25 年度実績値	平成 26 年度実績値	目標差	中央市民病院	病床利用率	93.5	93.8	92.9	△0.6	西市民病院	病床利用率	90.5	88.5	87.7	△2.8				
項目		中央市民病院		西市民病院																																																
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																
病床利用率※	95.5	93.5	90	89.5																																																
項目	中央市民病院		西市民病院																																																	
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																
病床利用率※	95.5	93.5	90.0	89.5																																																
	項目	平成 26 年度目標値	平成 25 年度実績値	平成 26 年度実績値	目標差																																															
中央市民病院	病床利用率	93.5	93.8	92.9	△0.6																																															
西市民病院	病床利用率	90.5	88.5	87.7	△2.8																																															

関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標					
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院	項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度差		
平均在院日数(日)	11.6	12.8	平均在院日数(日)	11.6	12.8	中央市民病院	平均在院日数(日)	11.3	11.2	△0.1	
延患者数(人)	入院 240,628	入院 117,560	延患者数(人)	入院 240,628	入院 117,560	中央市民病院	延患者数(人)	入院	236,352	233,978	△2,374
	外来 447,680	外来 259,540		外来 447,680	外来 259,540			外来	468,900	469,642	742
新規患者数(人)	入院 20,711	入院 9,153	新規患者数(人)	入院 20,711	入院 9,153	中央市民病院	新規患者数(人)	入院	20,847	20,983	136
	外来 86,464	外来 26,806		外来 86,464	外来 26,806			外来	90,157	87,345	△2,812
患者1人1日当たり診療単	入院 85,545	入院 51,028	患者1人1日当たり診療単	入院 85,545	入院 51,028	中央市民病院	患者1人1日当たり診療単	入院	87,753	90,438	2,685
	外来 16,245	外来 11,116		外来 16,245	外来 11,116			外来	16,321	16,869	548
査定減率(%)	入院 0.50	入院 0.12	査定減率(%)	入院 0.50	入院 0.12	中央市民病院	査定減率(%)	入院	0.50	0.47	△0.03
	外来 0.17	外来 0.19		外来 0.17	外来 0.19			外来	0.32	0.29	△0.03
未収金額(百万円)	現年 86	現年 38	未収金額(百万円)	現年 86	現年 38	中央市民病院	未収金額(百万円)	現年	37	37	0
	滞納繰越 122	滞納繰越 41		滞納繰越 122	滞納繰越 41			滞納繰越	84	88	4
						西市民病院	平均在院日数(日)	12.8	12.5	△0.3	
						西市民病院	延患者数(人)	入院	115,598	114,541	△1,057
					外来			241,698	236,348	△5,350	
						西市民病院	新規患者数(人)	入院	9,059	9,140	81
					外来			25,846	24,744	△1,102	
						西市民病院	患者1人1日当たり診療単	入院	52,083	53,169	1,086
					外来			11,699	12,145	446	
						西市民病院	査定減率(%)	入院	0.35	0.35	0
					外来			0.96	0.29	△0.67	
						西市民病院	未収金額(百万円)	現年	38	31	△7
					滞納繰越			40	38	△2	

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(3) 費用の合理化及び業務の効率化

中期目標

引き続き地方独立行政法人のメリットを生かし、コストの徹底管理及び各部門での業務内容や委託業務の見直しを行い、費用の合理化及び業務の効率化を図ること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図る。また、業務内容や執行状況等を定期的に検証し、業務の効率化を進める。</p>	<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○職員給与費について、医療の質の向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に充分配慮したうえで、適切な取り組みを進める</p> <p>○給与費比率、経費比率等を考慮しながら、給与費を始めとした固定費について、削減や効率化を図る方策を検討し、実施していく</p> <p>○固定費削減検討プロジェクトチームを設置し、固定費削減に向けた継続的な取り組みを進める</p> <p>○不要資産の売却を進め、固定資産税等のランニングコストを削減する</p> <p>○システムや医療機器の更新時期を調整する等、減価償却費の平準化を図る工夫を行う</p>	<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○職員給与費について、国立病院機構や神戸市における対応を参考としながら給料月額増改定（+0.27%・1,090円）、初任給調整手当・通勤手当の増改定、期末勤勉手当の支給月数の増改定（+0.15月）を実施した。</p> <p>○月次決算により、給与費比率や経費比率について、毎月の常任理事会へ報告した。比率に上昇傾向が見られれば、その要因を分析し、削減や効率化を図る方策を検討した。また、中央市民病院において古紙回収率の向上や管理部門の空調設定温度の変更等、経営改善に繋がる取り組みを行うとともに、経営改善ワークショップを3月に開催し、ワークショップ内の意見について、実効性と効果の観点から実施に向けての検討を開始した。</p> <p>○固定費削減検討プロジェクトチームの設置 両病院と本部が協同して、固定費削減に向けた継続的な取り組みを進めた。中央市民病院では、医療機器の平成27年度保守契約について内容を一部見直し、新規契約を除く保守契約予定額は前年度比700万円減となった。</p> <p>○両病院の今後の投資について整理を行い、第2期中期計画で作成した収支計画の修正版を作成し、投資の時期等について各病院と協議を行った。</p> <p>○中央市民病院では平成27年度予算編成において、大型放射線機器の投資額の平準化を進めるとともに、大型放射線機器の更新時期を7年から8年に延長することについて検討し、複数台の更新対象機器につ</p>	2	4		<p>【評価のポイント】</p> <p>主に下記のポイントから、年度計画を上回って実施したと判断した。</p> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定費の削減や、在庫の削減、薬価交渉の徹底など、費用の削減及び経営の効率化・平準化を図ったこと。 ・安全性を評価した上で、後発医薬品の導入をさらに促進したこと。

<p>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。</p> <p>・診療材料及び医薬品においては、市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底、さらには多様な契約手法の活用等により、医師はじめ病院全体で、より一層の費用の削減を進める。</p>	<p>○常任理事会へ毎月経営指標を報告することにより、定期的に経営指標の確認を行う。経費については、経費比率を意識しながら適切な執行管理に努める</p> <p>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。</p> <p>・診療材料及び医薬品においては、市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底、さらには多様な契約手法の活用等により、より一層の費用の削減を進める。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○在庫管理については、平成 25 年度に実施した外部コンサルタントによる適正在庫調査報告を参考にして、各病院、K M C P と協同して在庫削減に取り組み、適正在庫の維持管理に努める</p>	<p>いて、平成 27 年度に予算計上するものと平成 28 年度以降に計上するものを仕分け、投資額の平準化を図った。</p> <p>○毎月、常任理事会で経営指標を報告し、情報の共有と課題の抽出に取り組んだ。また、平成 26 年度より年度途中で適切な執行管理ができているかどうかについて、各病院・本部にヒアリングを実施した。</p> <p>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織の構築に取り組んだ。</p> <p>・契約の公平・透明性と予算のより適正な執行を両立させるため、価格交渉落札方式制度を試行している他都市の独立行政法人を視察し、試行状況についての利点や問題点について意見交換を行った。また、コンプライアンスを遵守した入札・契約について、新たに入札結果の検証を行う等、制度の見直しを図るとともに、中央・西及び本部で、延べ 5 回研修を開催し、92 名が参加した。さらに、入札仕様書作成の際の外部委員出席の負担を軽減するため、会議の I T 化(テレビ会議)について検討を進めた。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○中央市民病院では本部、K M C P と在庫削減に向けた会議を 12 回開催して協議を行い、新病院開院当初からの懸案であった期限切れ切迫在庫について協議を重ね、各診療科へ在庫品の使用促進や業者への引き取り等の取り組みを行い、約 5,000 万円の処理を行った。また、長期間使用実績がない診療材料について、今後の必要性についてアンケートを実施し、必要なしとされた診療材料について定数を削減するとともに、現在の在庫品を可能な限り使用し、約 700 万円の在庫削減を行った。さらに、手術部の診療材料の定数見直しを行い、約 300 万円の在庫削減を行った。</p> <p>○西市民病院においても本部と協同しながら、診療材料等の適正在庫管理に向けて、業務経営改善委員会にて在庫管理方法の見直し・統一化及び廃棄材料の適切な処理等の改善策について決定し、11 月より新たな運用を開始した。</p>				
---	---	---	--	--	--	--

○診療材料について、各診療科長と事務局が連携して在庫削減や民間ベンチマークも活用した価格交渉を実施し、費用のさらなる削減を進める

○医薬品の安全性を評価したうえで、後発医薬品の導入を促進する

目標値（単位：％，実績値は平成24年度・目標値は平成30年度）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
給与費比率	43.3	45.3	54.4	55.8
材料費比率	29.5	29.4	29.4	22.9
経費比率	18.5	19.8	15.6	17.3

目標値（単位：％，実績値は平成24年度・目標値は平成26年度）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
給与費比率	43.3	45.2	54.4	55.0
材料費比率	29.5	29.0	22.9	24.3
経費比率	18.5	20.0	15.6	17.6

○両病院及び本部で連携して、医療機器の保守契約の見直し、ベンチマークシステムの活用、入札及び複数年契約等の活用による購入価格の低減、診療材料の統一化及びより安価な他社製品への変更による経費の削減等に取り組んだ。また、両病院で毎月開催される診療材料委員会に本部も出席し、新規材料の納入価や在庫形態、既採用材料の取り扱いを検証した。

○薬価交渉方針について公正取引委員会に事前相談を行った上で、7月に第1回3病院（中央、西、西神戸）薬剤部長会を開催し、上半期の薬価交渉で未妥結減算回避と年間最終値引き率を引き出すことを確認した。薬価交渉については、まず両病院において7月から8月まで延べ39回行い、その後、法人本部で交渉を9月まで12回行った結果、年間で約1億3,300万円（中央:9,800万円，西：3,500万円）の効果額を確保した。また、12月に第2回3病院薬剤部長会を開催し、平成27年度医薬品契約卸業者選定方法及び値引き率をアップする仕組みについて基本方針を決定した。基本方針に基づきメーカー群医薬品卸選定を行った結果、平成27年度当初値引き率は、平成26年度当初を上回った。

○平成26年度の診療報酬改定において機能評価係数Ⅱに後発医薬品係数が導入されたことを受け、両病院において、医薬品の安全性を十分評価したうえで、後発医薬品の導入をさらに促進した結果、中央市民病院での後発医薬品の数量割合は54.2%（前年度比11.8%増）、153品目となった。また、西市民病院では、薬剤部・薬事委員会が中心となり、内服薬や使用量の多い品目を積極的に後発医薬品へ変更した結果、後発医薬品の数量割合は69.0%（前年度比21.6%増）と大幅に増加し、150品目となった。一方、DPCと関係のない、主に外来で使用する注射薬等については、患者のメリットも考慮し、後発医薬品にとられない薬品選定を行った。

目標値（単位：％）

	項目	平成26年度	平成25年度	平成26年度	目標差
		目標値	実績値	実績値	
中央市民病院	給与費比率	45.2	43.5	45.8	0.6
	材料費比率	29.0	30.0	29.8	0.8
	経費比率	20.0	19.4	18.7	△1.3
西市民病院	給与費比率	55.0	54.7	56.3	1.3
	材料費比率	24.3	22.9	23.3	△1.0
	経費比率	17.6	16.5	16.3	△1.3

関連指標			関連指標			関連指標 (単位：%)				
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院		項目	平成 25 年 度実績値	平成 26 年 度実績値	前年 度差
後発医薬品 の数量割合 ※	33.1	34.9	後発医薬品 の数量割合 ※	33.1	34.9		中央市民病院	42.4	54.2	11.8
※入院DPC/PDPSデータより			※入院DPC/PDPSデータより				西市民病院	47.4	69.0	21.6
						※入院DPC/PDPSデータより				

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 質の高い経営ができる病院づくり

(1) 質の高い経営体制の維持

中期目標	中期目標及び中期計画を着実に達成するために、経営に関する状況や問題点を全職員が共有し、PDCAサイクル（計画、実行、評価及び改善の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること）を確実に実行できるよう目標管理の仕組みを確立させるとともに、リスクマネジメント体制を構築するなど、長期的視点に立った質の高い経営を行うこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、より質の高い経営ができる体制を確立し、維持する。</p>	<p>・理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、より質の高い経営ができる体制を確立し、維持する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○毎月開催する常任理事会及び四半期毎に開催する理事会において、引き続き経営状況や事務事業を検証する</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○院長がリーダーシップを発揮するとともに、全職員が経営状況や問題点及び責任を共有して経営改善に取り組み、長期的視点に立って質の高い経営を進める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○院長のリーダーシップの下、各診療科長、部門長がメンバーである業務経営会議を開催し、経営状況のほか、病院全体の情報共有を行うとともに、意見交換の場として</p>	<p>・理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、より質の高い経営ができる体制を確立し維持した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○毎月開催した常任理事会（平成26年度実績：臨時開催含む14回）及び四半期ごと等に開催した理事会（平成26年度実績：6回）において、月次決算等を報告した。月次決算では、収支だけでなく病院ごとに診療科目別の患者数や在院日数等の主要指標の確認もを行い、活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○リーダーシップの発揮と情報共有</p> <p>週1回幹部会を開催し、重要事項についての確認、決定を行うとともに、マンスリーレポート（活動報告書）によって、各所属の問題点や課題の解決方法提案等の把握に取り組んだ。また、各診療科部長、各部門長が出席して月1回開催する病院運営協議会において、院内委員会の開催結果の報告を行い、情報共有を図った。さらに、各診療科、部門ごとの現状分析及び今後の対策、スタッフの適正数等について院長ヒアリングを年2回（6月から9月、12月から3月）実施した。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○リーダーシップの発揮と情報共有</p> <p>各診療科長、各部門長がメンバーである業務経営会議を院長主導のもと月1回定期的に開催し、経営状況のほか、各委員会の開催概要等、病院全体の現在の情報の共有や意見交換をするとともに、懸案事項については院長より指示を行い、対応を促し</p>	2	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において、年度計画を順調に実施した。</p>

<p>・全職員，特に，診療科部長や部門長が目標及び課題を共有し，PDCAサイクル（計画，実行，評価及び改善の4段階を繰り返すこと）を確実に行うことやリスクマネジメント体制を構築することにより，経営改善に取り組み，長期的視点に立った質の高い経営を進める。</p>	<p>も機能させる</p> <p>・全職員が目標及び課題を共有し，PDCAサイクル（計画，実行，評価及び改善の4段階を繰り返すこと）を確実に行うことやリスクマネジメント体制を構築することにより，経営改善に取り組み，長期的視点に立った質の高い経営を進める。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月次決算や四半期毎の決算見込みと予算を比較，分析し，課題の把握及び早期解決に向けた取り組みを実施していく ○診療科部長や部門長を対象とした院長ヒアリングを実施し，目標や課題の共有を行い，経営改善につなげる ○引き続き，マネジメントシートにより，年度計画の達成状況の確認及び課題把握を行い，全職員の情報共有を図るとともに，PDCAサイクルの活用を進める 	<p>た。また，幹部会を週1回開催し，院長がリーダーシップをとる意思決定機関として機能させるとともに，各診療科及び部門からのマンスリーレポート（月次活動報告書）の提出を継続し，各所属の診療・活動内容，問題点，今後の計画等について病院幹部と随時情報共有を行った。また，コメディカル幹部と事務局長の連絡会を毎週1回定期的に開催し，現場での問題点等について，情報共有を図った。さらに，平成26年度より業務経営改善委員会での議事内容について，業務経営会議への報告を行うこととし，病院幹部と各診療科及び部門を含め病院全体で経営改善意識の共有を図った。</p> <p>・中期目標・中期計画及び年度計画については，両病院の職員サイト（イントラ）へ掲載し共有を図るとともに，第1期中期目標期間及び平成25年度業務実績について評価委員会による評価を受け，評価結果の概要について職員サイトやメール，職員誌等へ掲載し周知に取り組んだ。また，評価結果に基づき課題把握を行い，四半期ごとに行う年度計画の進捗状況の確認の中で，進捗確認と情報の共有化を図り，経営改善につなげた。</p> <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月次決算の報告様式をより分かりやすいように変更するとともに，決算見込みの報告様式についても，課題が把握できるような資料に変更を行った。 ○両病院において，年2回ずつ各診療科及び部門毎に院長ヒアリングを実施し，本部からも出席することで現状の把握及び課題の共有を図った。 ○PDCAサイクルの活用 年度計画の達成状況確認及び課題把握のために，四半期ごとにマネジメントシートを作成し，事務局ヒアリングを実施した（8月，11月，2月）。なお，11月のヒアリングについては上半期決算，平成27年度計画の重点項目及び市関連予算要求（医療機器等購入予算）と併せて理事長ヒアリングを実施し，検証体制の充実を図った。また，2月の本部長ヒアリングにおいては，平成27年度の年度計画についてもヒアリングを実施し，課題等を共有した。四半期毎のマネジメントシートは進捗状況確認後，機構（中央，本部含む），西の職員サイト（イントラ）へ掲載し，情報の共有・周知を図った。 				
--	---	---	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 質の高い経営ができる病院づくり

(2) 計画的な投資の実施

中期目標	社会情勢の変化や周辺の医療状況，市民ニーズ等を踏まえ，状況に応じた的確な投資を検討すること。その際，投資効果はもちろんのこと，投資後の収支の見通しを立てた上で，最終的には収支のバランスがとれるよう計画的に投資を行い，投資の実施後はその効果を検証すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・超高齢社会に向けて，今後の医療需要の変化や医療政策の動向等を踏まえ，人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し，病床規模及び外来機能等について検討するとともに，高度医療機器の更新及び整備等，総合的な投資計画を策定し，着実に投資を行うとともに，その効果を検証する。</p>	<p>・人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し，着実に投資を行うとともに，その効果を検証する。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○職員寮（医師・看護師）について，優秀な人材の確保及び災害時等緊急時の対応のため，老朽化している港島寮を新築・移転する</p> <p>○投資の必要性や採算性を分析し，予算編成等を通じて，各病院での投資判断過程に積極的に関わっていく。特に固定費の増加の原因である電子カルテの導入，更新検討については，業者との交渉も含めて積極的に関わっていく</p> <p>○財務会計システムの更新にあたり，決算や日頃の会計処理に影響がないことを前提に，業者の変更も含め，積極的に見直しを行う</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○外来待合スペース及び外来診察室・説明室の拡張等，診療機能の拡充に必要な執務環境の充実を図る</p>	<p>・人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し投資を行うとともに，その効果について検証した。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○新港島寮の新築・移転 関係機関等と調整するとともに建築工事を進め，11月に完成し，12月から入居を開始した（総数198戸（看護職員用：120戸，初期研修医用：36戸，後期研修医用：42戸））。医師及び看護職員の居住環境を整えることにより，継続的に優秀な人材の確保を図る。また，新港島寮は災害時の待機宿舎としての位置づけも持ち，非常時にすみやかな病院への参集に対応する。</p> <p>○平成25年度に引き続き，予算編成等を通じて，両病院での投資判断過程に法人本部も積極的に関わった。特に電子カルテの整備については，経過をヒアリングする等，適正な投資計画の策定に取り組んだ。また，平成26年度の予算編成時に両病院と協議した事項について，協議通りの執行ができていくかどうかの執行確認を12月に実施した。</p> <p>○財務会計システムについて，4月に一般競争入札で業者を選定し，9月にシステム更新を行った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○建物増築，既存施設改修の具体的検討 施設調整担当主幹を配置し，南棟・北棟増築，既存施設改修設計に向けた院内協議を行い，基本計画及び実施設計を策定した。増</p>	1	3		<p>【評価のポイント】 各項目において，年度計画を順調に実施した。</p>

	<p>ため、建物の増設及び既存施設の改修の具体的な検討に着手する</p> <p>○神戸市の基幹病院として、患者中心の質の高い医療を安全に提供し、市民の生命と健康を守るため、経年劣化した機器の更新や、安全性や精度がより高い機器等の導入を図る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○内視鏡検査の増加や、小児科感染症患者等に対応するため東館の増設及び既存施設の改修について、具体的な検討を進める</p> <p>○高度医療機器の更新及び整備については、院長ヒアリングで意見交換するとともに、長期的な収益性を考えたうえで判断する</p> <p>○医療機能の充実・強化及び収益向上を目的として、CTを増設する。また増設後の稼働状況を精査し、効果を検証する</p>	<p>築等により、外来待合スペースの混雑緩和、外来診察室、説明室の拡張や救命救急センター拡充等による診療機能の拡充のほか、研修室、更衣室、仮眠室等を設置し、患者サービスの向上を図るとともに執務環境の改善に取り組む。</p> <p>○医療機器の購入</p> <p>中央市民病院においては、経年劣化した医療機器の更新や、安全性や精度がより高い医療機器の導入を行った（平成26年度実績：約570,000千円）。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○東館の増築及び既存施設の改修</p> <p>副院長を中心に、平成25年度に策定した基本計画を踏まえ、具体的な設計に向けた院内関係部門等との協議を進めた。今後、内視鏡センターの拡張や小児・周産期医療の充実、在宅支援室の充実等の医療機能の向上や、執務環境等の整備について具体化を図る。</p> <p>○高度医療機器の更新及び整備</p> <p>医療機器等要求については毎年ヒアリングを実施し、各部門の収益状況や今後の方針を踏まえて、長期的な収益性も考慮したうえで購入予定機器の優先順位を決定した。</p> <p>○CTの増設</p> <p>増加傾向にあるCT検査に対応し、急性期病院としての機能を果たすため、冠動脈の評価も含め、安定した心臓CTの撮影が行えるよう、6月よりCTを増設して稼働を開始し、検査体制の充実を図った。（再掲）引き続き増設後の稼働状況を精査し、効果の検証を行う。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 質の高い経営ができる病院づくり

(3) 環境にやさしい病院づくり

中期目標	本市が策定した「神戸市地球温暖化防止実行計画」の達成に向けて、温室効果ガスの削減に取り組むとともに、エネルギーや資源の消費を自主的に又は継続的に節減するなど環境にやさしい病院づくりを目指すこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・省エネルギー化及び自然エネルギーの積極的活用、ゴミ分別の徹底及びリサイクルの推進による廃棄物の減量等により、温室効果ガスの削減に取り組む等、環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりを行う。</p>	<p>・環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりを行う。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○市が取り組んでいる「神戸市地球温暖化防止実行計画」の実現に向けて、CO₂排出量のさらなる削減に努める</p> <p>○省エネ法に基づく特定事業者としての年平均1%以上のエネルギー消費原単位の削減に取り組むとともに定期報告、中長期計画の策定と届出を行う</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○環境負荷軽減のため、ゴミ分別の徹底を図り、紙のリサイクルをはじめとする廃棄物の削減に努める</p> <p>○省エネルギー熱源機器の効率的運用、照明・空調温度のきめ細かな制御等、さらなるCO₂の発生削減に向けた取り組みを進め、エネルギーの使用量データを蓄積し、分析を行う</p>	<p>・両病院において、環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりに取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○中央市民病院では、CO₂排出削減に向けてエネルギー使用の抑制のため、BEMS（ビルエネルギー管理システム）を活用した空調及び照明設備等の効率的運用、太陽光発電の活用、平成25年度に引き続き不要照明の間引き及び空調温度設定の適正化等を実施した。また、コージェネレーションシステムの稼働によりエネルギーの高効率利用を図った。西市民病院では目標を達成した「神戸市第2次CO₂ダイエット作戦」の終了後も、引き続きCO₂排出量のさらなる削減に努めた。</p> <p>○第1種エネルギー管理指定工場に指定されている中央市民病院では、エネルギー消費原単位の削減に努め、7月にエネルギー使用の合理化に関する法律定期報告を提出した。また、第2種エネルギー管理指定工場の指定を受けている西市民病院においても、省エネルギーへの取り組みを継続するとともに、定期報告、中長期計画の届出を行った。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○環境への負荷軽減のため、ごみの分別を推進するとともに、紙のリサイクル等を推進し、廃棄物の削減に取り組んだ。また、夏季の節電期間は「省エネルギー見える化」として、前日のエネルギー使用量グラフのメール配信・掲示を実施し、さらなる節電啓発を行った。</p> <p>○平成25年度に引き続き、不要照明の間引き、空調設定温度の適正化等に取り組んだが、12月以降は感染対策等のため院内の湿度管理を厳格化したことにより空調加湿時間が増加し、ガス使用量が増加した結果、平成26年度のエネルギー使用削減率はマイナ</p>	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において、年度計画を順調に実施した。</p>

ス0.8%となった。また、CO₂排出量は備蓄灯油の使用及び電気
のCO₂排出原単位の変更増により、9.7%増となった。

(西市民病院)

○照明・空調のきめ細かな制御等によ
る、省エネルギー化を図る

(西市民病院)

○引き続き省エネルギー化を推進するため、LED照明を活用した
ほか、熱源機器を更新する等、電力の使用削減に取り組み、エネ
ルギー使用削減率は5.9%となった。また、環境省の「経済性を
重視した二酸化炭素削減対策支援事業」の補助を受け、設備
機器の効率的運用改善や低炭素機器の導入等の対策の診断を
10月に実施した。さらに、民間事業者の資金を活用して省エ
ネに寄与する熱源機器の更新等を行うESCO事業の導入に
向けて、事業者の選定を行い、平成27年度の契約締結に向け
て協議を進めた。

関連指標 (単位: %, 平成24年度)

項目	中央市民病院	西市民病院
エネルギー使 用削減率 (前年度比削 減率)	(平成24年7月～ 平成25年3月) 2.6	0.8

関連指標 (単位: %, 平成24年度)

項目	中央市民病院	西市民病院
エネルギー使 用削減率 (前年度比削 減率)	(平成24年7月～ 平成25年3月) 2.6	0.8

関連指標 (単位: %)

	項目	平成25年 度実績	平成26年 度実績	前年 度差
中央市 民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	△0.3	△0.8	△0.5
西市民 病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	△1.1	5.9	7.0

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

1 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進

中期目標	中央市民病院については、PFI事業者との連携をより密にし、協働で質の高い病院サービスの提供を図っていくこと。そのため、PFI事業については定期的に検証し、その検証の結果を踏まえ、迅速に業務改善等を行い、円滑に事業を行うこと。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> ・病院経営のパートナーであるPFI事業者との連携をより密にし、協働の精神により、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図る。 ・病院及び事業者の双方が、互いに職務のプロとしての自覚と責任の下、病院を取り巻く環境の変化に適切に対応し、継続的に業務を改善及び発展させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFI事業者との連携をより密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図る。また、互いに職務のプロとしての自覚と責任の下病院を取り巻く環境の変化に適切に対応し、継続的に業務を改善及び発展させていく。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成25年度に実施した外部コンサルタントによるPFI事業の実施状況報告を参考に、PFI事業のこれまでの評価を行い、今後のPFI事業のあり方について検討を行う ○PFI事業に関して、日常モニタリング、定期モニタリング、随時モニタリング等を行い、業務水準の達成状況を確認するとともに、業務品質や患者サービスの向上に取り組み、病院全体の業務改善を図っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央市民病院において、PFI事業者との連携をより密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図った。 <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外部コンサルタントよりSPD委託会社へヒアリングを行った結果、指摘された在庫金額について、本部、KMCPと会議を12回開催し、在庫の削減に向けた協議を進め、約5,000万円の在庫処理を行った。（再掲） ○PFI業務に関して、個別業務連絡会（週1回）、PFI業務連絡会（月2回）、モニタリング会議（月1回）、PPP会議（月1回）を定期的で開催してモニタリングを行い、業務実施状況の確認や経営改善を図った。また、経営改善方針に基づき、費用削減率3%達成に向けたPFI業務の見直しについて、KMCPと協議を行った。試行の結果、削減可能なものについては平成27年4月以降に反映させ、執行管理を行う方針を決定した。なお、2月に第6回病院PFI連絡協議会に参加し、他病院のPFI担当者と意見交換を行った。 	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において、年度計画を順調に実施した。</p>

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

2 市関連病院との連携

中期目標	西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院，先端医療センターも含めた本市の関連病院で，医療機能に応じて相互に患者の紹介を行い，職員の人事交流も積極的に行うなど意思疎通を図ること。特に市民病院と同じ医療機能を持つ西神戸医療センターとは，より連携を密にしていること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・市関連病院（市民病院，西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院及び先端医療センター）相互に医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに，各部門での連携会議や研修会等の開催，人事交流についても積極的に行う等連携の促進を図る。特に，西神戸医療センターとは，同様の機能を担う病院として，より密接な連携を図る。</p>	<p>・市関連病院（市民病院，西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院及び先端医療センター）相互に医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに，各部門での連携会議や研修会等の開催，人事交流についても積極的に行う等連携の促進を図る。特に，西神戸医療センターとは，同様の機能を担う病院として，より密接な連携を図る。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○市関連病院間での人事交流について，引き続き積極的に推進し，効果的・効率的な連携に取り組む</p> <p>○各部門で連携会議を開催する。特に，同様の機能を担う西神戸医療センターとは，相互の情報交換及び診療材料等の共同購入の推進等を行い，連携を強化する</p>	<p>・市関連病院（中央市民病院，西市民病院，西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院及び先端医療センター）では，医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに，各部門での連携会議や研修会等の開催，人事交流についても積極的に行い，連携の促進を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○市関連病院間の人事交流 職員出向規程及び出向協定（地域医療振興財団・先端医療振興財団）に基づき，法人固有の医師について人事交流を行った（在籍出向：西神戸医療センターへ20人，先端医療振興財団へ2人）。また，医師以外の医療職について，神戸市の定める「公益法人等への職員の派遣に関する条例」に基づき，市関連病院間の人事交流を行った（西神戸医療センター31人，先端医療振興財団10人）。平成23年12月に開催された市関連病院連絡調整会議，平成24年1月の両病院及び西神戸医療センターの看護部長・事務局長会での意見を踏まえ，看護職員の管理職を中心とした人事交流についても積極的に行った（平成26年度人事交流人数：看護職員7人，コメディカル19人，事務職員7人（再任用・嘱託含む））。</p> <p>○市関連病院における連携会議 両病院長会議をはじめとして，各部門で連携会議を開催し，情報の共有及び情報交換を行った。また，中央市民病院と西市民病院のより強固かつ円滑な連携に向けて連携会議を開催し，患者転送についての運用調整を行い，試行実施を経て1月より本格導入を開始した。</p>	2	3		<p>【評価のポイント】 各項目において，年度計画を順調に実施した。 その他，評価できるポイントは以下のとおり。 共通 ・連携会議等による情報共有を行い，両病院間での患者転送について，運用整理を行ったこと。</p>

《市関連病院の連携推進に関する会議》

市関連病院連絡調整会議	1回
市関連病院等連絡会	12回
4病院 ^{*1} 医事課長会議	5回
3病院 ^{*2} 看護部長会議	2回
3病院 ^{*2} 薬剤部長会議	2回
3病院 ^{*2} 地域連携会議	3回
両病院院長会議	10回
両病院看護部長会議	1回
両病院経理担当係長会議	10回
中央市民病院・先端医療センター連携会議	12回
両病院連携会議	6回

※1 中央市民，西市民，西神戸医療センター，先端医療センター

※2 中央市民，西市民，西神戸医療センター

(中央市民病院)

○市関連病院とは，医療機能に応じて相互に患者の紹介・逆紹介を行うとともに，職員の人事交流も積極的に行う等，さらに効果的かつ効率的な連携に取り組む

○幅広い業務に従事することが可能な中央市民病院と，専門性に特化した先端医療センターのそれぞれの特性を活かし，看護師やメディカルを相互に研修派遣し，職員の技量と診療の質の向上を図る

○症例に応じて効果的な治療を行うため，定位放射線照射やPET検査について，先端医療センターと連携する。また，設備更新時等相互に機能補完を行う

(西市民病院)

○放射線治療，PET-CT等について，市関連病院と密接に連携する

○西市民病院の医師の確保状況を考慮して，眼科外来に週2回，不整脈外来（循環器内科）に月1回，乳腺外来（外科）に週1回，透析業務（腎臓内科）に週1回（不定期），それぞれ応援医師の派遣を継続した。

○先端医療センターと中央市民病院との間で，薬剤師，放射線技師，臨床検査技師を相互に派遣し，それぞれの病院の特性を活かし研修を行うことで，職員の技量と診療の質の向上を図った。

○定位放射線照射機や，PET検査について連携を行った。

《中央市民病院から先端医療振興財団への紹介件数》

①定位放射線照射

全体417件のうち40件が中央市民病院からの紹介

②PET検査

全体5,305件のうち371件が中央市民病院からの紹介

(西市民病院)

○放射線治療等の患者について市関連病院と積極的に連携を図り，全体168件（前年度比18件増，12.0%増）のうち，連携件数は84件（前年度比4件減，4.5%減）となった。

関連指標（単位：人，平成 24 年度実績）			関連指標（単位：人，平成 24 年度実績）			関連指標（単位：人）				
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院		項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度比 (%)
市関連病院からの紹介患者数	1,082	515	市関連病院からの紹介患者数	1,082	515	中央市民病院	市関連病院からの紹介患者数	1,204	1,050	87.2
市関連病院への紹介患者数	1,280	451	市関連病院への紹介患者数	1,280	451	市民病院	市関連病院への紹介患者数	1,373	1,458	106.2
市民病院との職員の仕事交流数	財団法人神戸市地域医療振興財団	56	市民病院との職員の仕事交流数	財団法人神戸市地域医療振興財団	56	西市民病院	市関連病院からの紹介患者数	400	462	115.5
	財団法人先端医療振興財団	11		市民病院	市関連病院への紹介患者数	748	1,068	142.8		
	財団法人神戸在宅ケア研究所	0		市民病院との職員の仕事交流数						
							一般財団法人神戸市地域医療振興財団	50	51	102.0
							公益財団法人先端医療振興財団	13	12	92.3
							一般財団法人神戸在宅ケア研究所	0	0	—

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

3 神戸医療産業都市における役割

中期目標	本市が推進する神戸医療産業都市に関して、特に中央市民病院は、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供していくこと。また、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携し、市民にとって最適な治療を提供すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供する。また、特に中央市民病院は、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携を図り、リーダーシップを発揮する。</p>	<p>・神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供する。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○臨床に応用される段階になった医療が速やかに市民に提供できるよう、先端医療センター等との連携を密にし、専門医の確保等、体制の充実に努める</p> <p>・中央市民病院は、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携を図り、リーダーシップを発揮する。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○治験・臨床試験の支援体制を整備するとともに、近隣の医療機関等とのネットワーク構築を目指す</p> <p>○県立こども病院のポートアイランドⅡ期への移転決定を踏まえ、連携及び役割分担について検討・協議を進める。</p>	<p>・中央市民病院では、神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供できるよう取り組んだ。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○神戸医療産業都市における役割</p> <p>中央市民病院と先端医療センターとの連携会議を毎月1回開催し、幹部職員の情報共有と課題解決に取り組んだ。また、メディカルクラスター連携推進委員会が開催（7月、11月）され、BCPを含めたシステム面における提案について検討するとともに、システム連携部会及び臨床研究（治験）部会がそれぞれ開催（12月、1月、3月）された。</p> <p>・近隣の神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院との連携を進めるため、それぞれ定期的に連携会議を開催し、紹介実績や事例を検証しながら協議を重ねた。</p> <p>具体的な取り組み （中央市民病院）</p> <p>○治験・臨床試験の患者情報を、近隣の医療機関と迅速に情報共有できるように、医療クラスター内医療情報ネットワークと併せて極力二重投資が発生しないようなシステム構築について検討し、プログラムの作成を開始した。</p> <p>○県立こども病院のポートアイランドⅡ期への移転決定を踏まえ、連携及び役割分担について検討・協議を進めた。</p>	1	3		<p>【評価のポイント】</p> <p>各項目において、年度計画を順調に実施した。</p>

関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標								
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院	項目	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績	前年度比 (%)					
先端医療センターとの共同研究件数(件)	9	-	先端医療センターとの共同研究件数(件)	9	-	中央市民病院	先端医療センターとの共同研究件数(件)	12	6	50.0				
先端医療センターからの紹介患者数(人)	378	59	先端医療センターからの紹介患者数(人)	378	59		先端医療センターからの紹介患者数(人)	665	529	79.5				
先端医療センターへの紹介患者数(人)	593	27	先端医療センターへの紹介患者数(人)	593	27		先端医療センターへの紹介患者数(人)	473	454	96.0				
周辺医療機関※1からの紹介患者数(人)	108 ^{*2}	-	周辺医療機関※1からの紹介患者数(人)	108 ^{*2}	-		周辺医療機関 ^{*1} からの紹介患者数(人)	355	518	145.9				
周辺医療機関※1への紹介患者数(人)	235 ^{*2}	-	周辺医療機関※1への紹介患者数(人)	235 ^{*2}	-	西市民病院	周辺医療機関 ^{*1} への紹介患者数(人)	947	1,409	148.8				
<p>※1 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター，西記念ポートアイランドリハビリテーション病院，財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院及び平成 26 年度以降開院を予定している神戸国際フロンティアメディカルセンター，県立こども病院等をいう。</p> <p>※2 平成 24 年度実績については，財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院との紹介患者数及び逆紹介患者数を表す。</p>			<p>※1 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター，西記念ポートアイランドリハビリテーション病院，財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院及び平成 26 年度以降開院を予定している神戸国際フロンティアメディカルセンター，県立こども病院等をいう。</p> <p>※2 平成 24 年度実績については，財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院との紹介患者数及び逆紹介患者数を表す。</p>			<p>※1 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター，西記念ポートアイランドリハビリテーション病院，一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院，神戸国際フロンティアメディカルセンター及び平成 27 年度以降開院を予定している県立こども病院等をいう。</p>								

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

※財務諸表及び決算報告書を参照

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1 限度額 10,000 百万円 2 想定される短期借入金の発 生理由 (1) 賞与の支給等による一時的 な資金不足への対応 (2) 予定外の退職者の発生に伴う 退職手当の支給等, 偶発的な出費 への対応	1 限度額 10,000 百万円 2 想定される短期借入金の発 生理由 (1) 賞与の支給等による一時的 な資金不足への対応 (2) 予定外の退職者の発生に伴う 退職手当の支給等, 偶発的な出費 への対応	・平成26年度においては, 短期借入金 は発生しなかった。

第7 重要な財産を譲渡し, 又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし。なお, 看護師宿舎の土地・ 建物について, 不要となった資産の 譲渡を含めた活用を進める。	旧細田看護師宿舎について, 共有 者のこども家庭局と, 平成26年度 中に売却を行う。	・平成25年10月に売却先が決定した港島寮 (医師公舎・看護師宿舎) につい て, 平成27年3月に引渡し(所有権移 転)を行った。 ・旧細田看護師宿舎(こども家庭局所 管である細田保育所との合築)は, 平 成26年度中に売却予定として神戸市 (管財課等)と協議をしていたが, 地 元周辺調整等の結果, 延期となっ た。

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余を生じた場合は, 病院施設の整備・修繕, 医療機器の購 入, 人材育成及び能力開発の充実等に 充てる。	決算において剰余を生じた場合 は, 病院施設の整備・修繕, 医療 機器の購入, 人材育成及び能力開 発の充実等に充てる。	・平成26年度決算によって生じた剰余 金については, 全て積み立てた。

第9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画

中期計画			年度計画			実績		
1 施設及び設備に関する計画 (平成26年度～平成30年度)			1 施設及び設備に関する計画 (平成25年度) (単位：百万円)			施設及び設備に関する計画 (平成26年度) (単位：百万円)		
施設及び設備の内容	予定額	財源	施設及び設備の内容	予定額	財源	施設及び設備の内容	決定額	財源
病院施設, 医療機器等整備	総額 8,966	神戸市 長期借入金等	病院施設, 医療機器等整備	総額 2,543	神戸市 長期借入金等	中央市民病院施設, 医療機器等整備及び新港島寮施設整備費	総額 1,979	神戸市長期借入金 1,395 その他 584
						西市民病院施設, 医療機器等整備	総額 609	神戸市長期借入金 606 その他 3
(注1) 金額については見込みである。 (注2) 各事業年度の神戸市長期借入金の具体的な内容については, 各事業年度予算編成過程において決定される。								

第9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

2 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
<ul style="list-style-type: none"> 医療を取り巻く状況の変化への対応, 医療の質向上や医療安全の確保, 患者サービス向上等に十分配慮した上で, 業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。 神戸市職員から法人職員への移行に伴う制度の整備を行う等, 原則として法人職員で運営できる体制への移行を計画的に促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療を取り巻く状況の変化への対応 医療の質向上や医療安全の確保, 患者サービス向上等に十分配慮した上で, 業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。 神戸市職員から法人職員への移行に伴う制度の整備を行う等, 原則として法人職員で運営できる体制への移行を計画的に促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療需要等に応じて, 採用選考を実施し, 年度途中採用も行うことにより, 柔軟な職員配置を行った (看護師, 臨床工学技士, 事務職員)。(再掲) こうした結果, 法人職員のうち固有職員の割合は, 平成27年3月時点で60.8%となった。また, 職員を補充・増員する必要がある場合には, 法人固有職員の採用による対応を基本として, 採用選考を実施した。